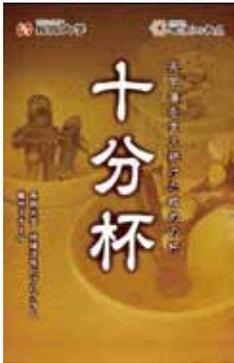




文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業(平成25~29年度)  
長岡大学COC事業=長岡地域<創造人材>養成プログラム

## 平成27年度報告書



地域活性化プログラム  
十分杯:権ゼミ



地域活性化プログラム  
神谷地区・高橋マッパ:高橋ゼミ



2015 地域連携研究センター  
シンポジウム



地域志向教育研究  
ブックレット



市民公開講座  
「記紀神話」



第3回悠久山・東山フォーラム



地域活性化プログラム  
成果発表会



地域活性化プログラム  
買い物支援:米山ゼミ



起業家塾:「日本古来の文化  
体験ができる神社ホテル」



インターンシップ成果発表会



平成25~29年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」採択

**長岡大学** **COC**  
(Center of Community)

**長岡地域<創造人材>養成プログラム**

長岡市等と連携して地域課題の解決を担う専門的能力を身につけた学生・社会人=<創造人材>を養成!

**長岡市**

地域志向の  
教育 研究 社会貢献を  
推進し、**地域のための大学**を  
めざします!

平成28年3月

# 長岡大学

長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム  
平成27年度報告書

目次

はじめにー長岡大学COC事業の平成27年度報告書刊行にあたってー

長岡大学学長事務取扱 土田 和弘

I	長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要	
1	「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要	1
2	長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」	1
3	対象地域と地域課題	2
4	長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み	3
II	事業推進体制と平成27年度経過報告	
1	平成27年度助成（補助金）	5
2	推進体制	5
3	平成27年度経過報告	7
III	＜教育＞における事業展開	
1	諸専門能力の養成ー教育①ー	12
2	地域志向・学修科目ー教育②ー	22
3	現場感覚・知識の養成ー教育③ー	24
4	ボランティア・スキルの養成ー教育④ー	31
5	社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）ー教育⑤ー	34
6	社会人基礎力の養成（インターンシップ）ー教育⑥ー	52
7	学生起業人材の養成ー教育⑦ー	57
8	学生満足度調査等の実施ー教育⑧ー	66
IV	＜研究＞における事業展開	
9	人口減少問題に関する調査研究（研究成果の地域還元）ー研究①ー	78
10	地域志向教育研究（地域との共同研究）ー研究②ー	89
11	平成28年度ボランティア活動調査研究準備（研究成果の地域還元）ー研究③ー	93
V	＜社会貢献＞における事業展開	
12	高齢化・人口減社会における地域活性化の推進ー社会貢献①ー	95
13	市民向け公開講座・セミナーの開催ー社会貢献②ー	101
14	企業人向けセミナーの開催ー社会貢献③ー	112
15	起業人材養成セミナーの開催ー社会貢献④ー	121
VI	＜全体＞における事業展開	
16	推進体制の整備ー全体①ー	127
17	推進協議会・地域課題調整部会の開催ー全体②ー	132
18	本事業の広報の充実ー全体③ー	134



文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）

はじめにー長岡大学COC事業の平成27年度報告書刊行にあたってー

長岡大学学長事務取扱／地（知）の拠点整備事業推進本部長 土田 和弘

長岡大学の取組み＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラムが、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました（平成25～29年度の5年間）。本報告書は、平成27年度の事業をとりまとめたものであります。

この大学COC事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて、地域コミュニティの中核的存在（課題解決に資する人材・情報・技術の集積拠点）となり、地域コミュニティの再生・活性化の核＝拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。つまり、「地域のための大学」づくりを促進し、大学の機能別分化を進めようとする政策（文部科学省）を反映した事業です。

本学の長岡地域＜創造人材＞養成プログラムは、長岡市と連携し、長岡地域の地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つ）に応えようとするものです。この事業を通して、「地域で役に立ち、頼りになる大学」を目指します。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指します。近年の研究で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされています。本プログラムでは、長岡大学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指す人材と考えております。

本学申請の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」は、平成25年8月に、大学COC（center of community）事業に採択されました。採択率は、全国の大学等総申請数ベースで、平成25年度は17.6%（採択51件／総申請数289件）、平成26年度は12.1%（24件／198件）でした。私立大学ベースでは、平成25年度は8.3%（15件／180件）、平成26年度は、11.6%（16件／138件）で、採択率は非常に低い状況でした。新潟県内大学では、長岡大学が唯一の採択大学でした。

本学は、採択後、地域連携研究センター推進本部を設立し、プログラムの全学的な推進体制を形成し、いわゆるP-D-C-Aサイクルをまわして、事業を推進してきました。

なお、本事業は、平成27年度から国の地方創生事業の一環に位置づけられ、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC＋事業）として、継続されることになりました。本学は平成28年度から、新潟大学（平成27年度COC＋事業採択）とともに、正式に、COC＋事業として、取り組むこととなります。次年度以降も、ご協力ご支援をお願い申し上げます。

最後に、本学の内藤敏樹学長は平成27年8月4日に、心不全で急逝されました。享年70歳でした。誠に慙愧の念に耐えません。内藤先生のご冥福をお祈りします。

平成28年3月

## I 長岡大学の「地（知）の拠点整備事業」＝COC事業の概要

### 1 「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度採択）の概要

長岡大学が平成25年度に採択された「地（知）の拠点整備事業」の概要は、次の通りである。

大学名	長岡大学
事業名	長岡地域＜創造人材＞養成プログラム
申請者	内藤敏樹 学長
連携する自治体	長岡市
企業等各種団体・機関	長岡商工会議所、日本政策金融公庫長岡支店、一般社団法人全国信用組合中央協会、公益社団法人中越防災安全推進機構、株式会社北越銀行、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、NPO法人市民協働ネットワーク長岡
学部等	経済経営学部
申請経費	平成25～29年度（5年間、年補助上限5,800万円）
事業概要（400字以内）	<p>本プログラムは、長岡地域の地域課題（産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化）に向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この地域課題に答えようとするものである。</p> <p>教育面では、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目による社会人基礎力等の養成、④学生起業人材の養成、を行う。</p> <p>研究面では、主な地域課題の研究（創造人材・人口減少・ボランティア活動・産業競争力研究等）に加え、地域志向教育研究にも注力し、成果の地域還元を図る。</p> <p>社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、に取り組む。</p> <p>以上の事業の推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと本学を改革する。そのため、カリキュラムの改革、地域連携の強化、推進体制の確立に努める。【398字】</p>

## 2 長岡大学の目的・目標を踏まえた「地域志向」

### (1) 長岡大学の「地域志向」の位置づけ

本学の「地域志向」は、次の2つの＜建学の精神＞に位置づけられている。

＊幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

＊地域社会に貢献し得る人材の育成

より具体的には、次の理念・目標に表現される。

☆経済経営系の大学として、地域産業の人材ニーズに応えた実践的な能力を身につけた若者人材をおくりだし、地域経済の発展に貢献する。

☆大学の知的資産の活用により、市民・企業人向け講座により学習機会を提供するとともに、地域課題研究成果の還元や地域活性化に積極的に取り組む。

この基本的観点が、教育、研究、社会貢献に貫かれている。「地域志向」の内容は次の通りである。

## (2) 教育・研究・社会貢献の「地域志向」

★教育面・・・本学の教育（産学融合教育プログラム）は、大きく、専門教育（資格対応型専門教育プログラム）とキャリア教育（ビジネス展開能力開発・産学連携キャリア開発教育プログラム＝社会人基礎力養成）から構成されている。平成 18～21 年度に選定された 2 つの文部科学省・現代 G P 教育プログラム（「産学融合型専門人材開発プログラム」および「学生による地域活性化提案プログラム」）は、主として、後者のプログラムであり、地域志向の教育（地域の企業との連携により、企業講師、現場・企業体験、地域課題解決授業等）を導入し、成果をあげた（こうした実践的能力形成により、就職内定率は向上、平成 25 年 3 月卒業生の就職内定率は 99.0%）。

今回は、これまでの成果の上にたち、地域課題解決をより明確に意識したく地域連携型キャリア教育として発展させ、将来の地域社会の発展を担う＜創造人材＞（課題解決型・価値創造型専門人材）の育成をめざす。

★研究面・・・地域課題解決（主として新潟・長岡地域）に関する本学教員の調査・研究は、国（科学研究費等）や自治体（受託調査研究等）等の研究資金を確保して展開されてきた（教員個人、地域研究センター等）。個々の教員の県内地域課題の調査研究（産業等）成果の地域への還元は、情報発信等（公開シンポジウム、研究年報等）の形で毎年行っている。同時に、地域課題解決型の受託調査研究（国の M O T 人材育成教育、新潟県の起業家教育等競争的資金）が、新たな社会貢献事業（社会人学び直しイノベーション人材養成講座、地域若者起業家塾）の開始につながり、継続し、企業の専門人材育成に役立っている。

今回は、この成果の上に立ち、長岡市等との問題意識の協議を経て地域課題解決研究テーマを設定する＜地域課題対応型連携研究＞を展開し、その成果を教育と地域社会に還元する。とくに、創造人材育成や人口減少への対応、産業競争力強化など、地域の発展に不可欠な課題解決テーマに取り組む。

★社会貢献面・・・本学独自の社会貢献組織（地域研究センター、生涯学習センター）により、地域の課題・ニーズに対応した自主研究、受託研究、人材育成講座及び情報発信（公開シンポジウム、講演会、研究年報等）を継続的に行い、高い評価を得てきた（大学の地域貢献度ランキング調査で全国上位にランクされる）。

今回は、まず、地域研究センターと生涯学習センターを再編・一本化した「地域連携研究センター」を設立し、社会貢献事業の推進組織面での強化、拡大を図る。その上で、上記の＜連携研究＞による地域還元の推進のほか、市民、企業人の＜創造人材＞育成に注力するとともに、本学総体での、様々な地域活性化の活動領域への積極的参加をめざすことで、＜地域活性化と人材育成＞を推進する。

## 3 対象地域と地域課題

当プログラムの対象地域は、新潟県長岡市である。長岡市は、平成 17～22 年の間に 11 市町村の合併により誕生した（長岡市、中之島町、越路町、三島町、山古志村、小国町、和島村、寺泊町、栃尾市、与板町、川口町の 11 市町村）。

本学の人的資源（経済経営系学部の人材）やこの間の地域活性化の取り組み実績を踏まえ、今回の申請による解決を図ろうとする長岡地域の課題を整理すると、次の通りである。

★**まず第1の課題として、産業の活性化による地域経済の発展**をあげなくてはならない。経済のグローバル化に伴う国内外の企業・産業大競争における生き残りをめざして、長岡地域の企業・産業の競争力の向上により、地域の就業機会を維持・拡大し、産業空洞化を回避しなければならない。同時に、創業・起業活性化による新産業を育成し、産業の新陳代謝による地域経済の発展を図る必要がある。その鍵は、価値を生む人材育成にあり、そこに焦点を絞って、産官学の連携で強力に推進する必要がある。

★**第2は、市民協働による社会課題の解決**である。少子高齢化や環境問題等に伴う市民生活上の社会諸課題の改善・解決である。高齢社会の進展に伴う健康（スポーツ等）、医療、福祉（介護制度等）の問題、地域社会活性化をリードする教育・文化（祭り、イベント等）、国際交流の促進、さらに深化する環境問題（3R、環境教育、環境経営、自然環境等）など、多様な市民生活上の課題解決への取り組みが求められている。行政の施策と連携した市民協働（ボランティア活動等）の広がりによる対応が不可欠であり、そうした課題解決を担う人材の育成が重要になる。

★**第3に、地域・コミュニティの活性化**をあげなくてはならない。少子高齢化の進行等による地域・コミュニティの人口減少（過疎化）傾向が拡大し、活力の劣化が見られる。合併による広域化も加わって、長岡市内の各地域・コミュニティの活性化は、喫緊の大きな課題となっている。各地の地域資源（歴史・文化・産業等）の発掘や地域間交流の活発化等による＜脱衰退・新しい活性化＞が、里山地域から中山間地域まで、求められている。市民協働活動の充実・拡大とボランティア人材の養成により、地域・コミュニティの活性化を推進する必要がある。

#### 4 長岡大学「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の枠組み

本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の全体の概要は、図表1に示す通りである。

##### (1) 地域課題と創造人材

地域課題は、産業活性化、社会課題解決及び地域・コミュニティ活性化の3つに設定している。本プログラムは、こうした地域課題と向き合い、地域課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人＝＜創造人材＞の養成を通して、この3つの地域課題に応えようとするものである。

★＜創造人材 Creative Talents＞とは、科学者、技術者、経営者、諸専門家、音楽家、芸術家などいわゆる専門的職業従事者（国勢調査）を指す。近年の研究（R. フロリダ等）で、＜創造人材＞が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることが明らかにされた。本申請では、本学の経済経営系大学という性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどを指すものとする。

##### (2) 教育面（地域連携型キャリア教育）

3つの地域課題に対応できる教育として、①諸専門的能力の養成、②地域学修科目の拡大、③地域学修科目（キャリア教育）における社会人基礎力（社会人として通用する能力）等の養成、の3つを行う。①は上級の情報や専門資格取得による専門人材育成、②は19科目から33科目に

拡大、③は、ボランティア活動への参加（社会貢献）を通じたボランティア・スキルの養成、課題解決提案（社会貢献）を通じた社会人基礎力の養成などを行う。産業活性化の課題にたいしては、④学生起業人材の養成を行う。これにより、起業家予備人材の輩出と地域の学生の起業家精神の涵養をめざす。

教育面では、専門能力、ボランティア・スキル、社会人基礎力を身につけた学生と学生起業家の養成をめざす。

### （３）研究面（地域課題対応型連携研究）

研究面では、①地域への研究成果の還元、②地域との共同研究、に取り組む。①は、３つの地域課題解明・解決に関する、創造人材・人口減少・ボランティア活動等の３つの共同研究、及び、産業活性化に資する産業競争力研究、にそれぞれ取り組み、その成果の地域還元（公開シンポジウム等）を行う。②は、本学教員の地域志向型教育研究による共同研究であり、これも活発化し、地域課題解決に資する。

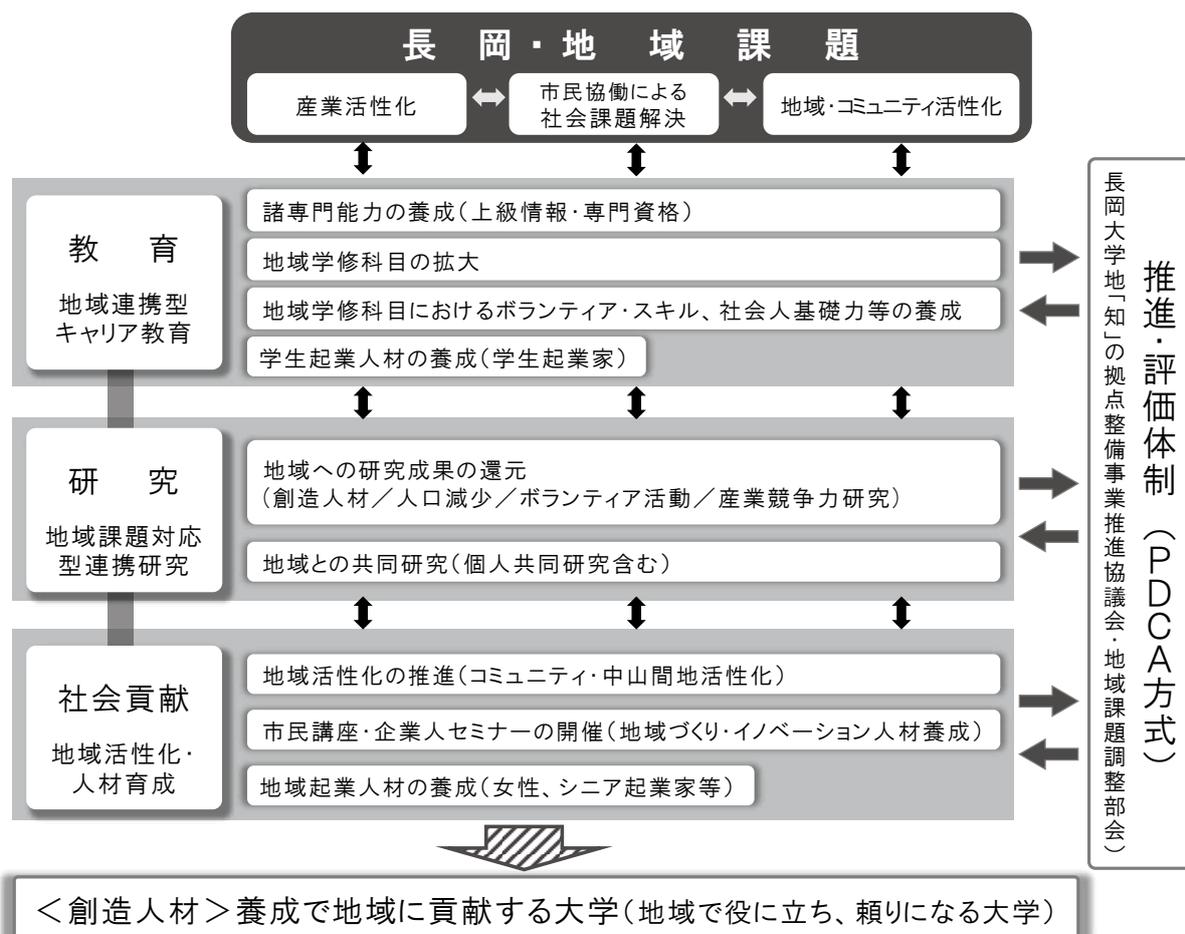
### （４）社会貢献（地域活性化と人材育成）

社会貢献面では、①地域活性化の推進、②市民公開講座・企業人セミナーの開催、③地域起業人材の養成、の３つの事業に取り組む。①は３地域課題に対応して、教育面の学生の地域活性化・ボランティア活動と連携するとともに、本学立地地区（悠久山地区）の活性化等から他の地域活性化に拡大して、取り組む。②は、市民公開講座で課題解決をめざした地域づくり人材・ボランティア養成、企業人セミナーでイノベーション人材を養成し、企業価値創造・企業競争力強化に取り組む。③は女性・シニア含む起業家育成による創業・起業、ソーシャルビジネス起こしを促進し、新産業育成に資する。

### （５）大学改革の方向

以上の事業の着実な推進を通して、「＜創造人材＞養成で地域に貢献する大学」（地域で役に立ち、頼りになる大学）へと改革する。「地域に役立つ大学」は、長岡の伝統である＜米百俵の精神＞の現代における継承・実現でもある。そのため、カリキュラムの見直し・改革（地域学修科目、とくにボランティア科目、地域活性化科目、起業家塾の拡大・充実）の推進、地域連携（長岡市等）の強化、さらに、地域志向事業全般の推進・評価体制（地域連携研究センター設立等とPDCAの徹底）の確立を図る。

図表 1 長岡地域<創造人材>養成プログラム 全体図



## II 事業推進体制と平成27年度経過報告

### 1 平成27年度助成(補助金)

平成27年度の文部科学省からの助成(補助金)は、45,439千円である。なお、平成25年度の助成(補助金)は、32,231千円、平成26年度は47,542千円であった。

### 2 推進体制

#### (1) 事業担当部門の再編

- ・1次事業担当・・・COC事業は17事業(教育7、研究3、社会貢献7)からなるが、この事業の直接の推進担当は、教員+事務の2名が担う。
- ・事業担当事務組織・・・この1次担当を支援する事務組織は、教育事業は教務学生課+地域連携室、研究は総務課+地域連携室、社会貢献は地域連携室とした。
- ・地域連携研究センター・・・地域連携研究センターはCOC事業以外の事業も担うので、COC事業については、研究分野を調査研究部会、市民公開講座分野を市民講座部会、社会貢献分野を地域連携部会で担うように変更した。当センターの事務は地域連携室が担う。

- ・推進本部・・・前年までの地域連携研究センター運営委員会に替わって、地（知）の拠点整備事業推進本部を設置し、OC事業全体企画・推進・点検（PDCAサイクル）を担う全学組織とした。推進本部の事務は地域連携室が担う。
- ・COC関連広報機能は、広報会議（教員＋事務担当者）を立ち上げ、学務・総務課と連携して地域連携室が担う。

## （2）地域連携研究センター

- ・同センター所長・学長（内藤俊樹）、総括マネージャー・副学長（原田誠司）が兼務する。
- ・地域連携研究センター運営委員会・・・次の陣容で構成する。月1回開催。運営委員長－原田、市民講座担当運営委員－山川、牧野、調査研究担当運営委員－小松、西俣、地域連携担当－米山、広田、コーディネーター－南雲、脇田、地域連携室長－品川、地域連携室－山田（書記）＋オブザーバー・村山学部長。
- ・各部会・・・調査研究部会：部会長＝小松、副部会長＝西俣、部会員＝鯉江、松本、原田、近藤（書記）。市民講座部会：部会長＝山川、副部会長・牧野、部会員＝兒嶋、橋長、品川、近藤（書記）。地域連携部会：部会長＝米山、副部会長＝広田、部会員＝南雲、脇田、品川、山田、恩田（書記）。情報共有のため、必ず、議事要旨をセンター運営委員およびCOC推進事務局員に送信する。

## （3）COC事業推進本部

- ・地（知）の拠点整備事業推進本部会議・・・次の委員で構成し、月1回進捗状況をチェックする。本部委員（各事業責任者）は次の通り。

推進本部長・内藤敏樹（学長）、推進副本部長・原田誠司（副学長）、村山光博（学部長）。

◆平成27年8月4日内藤学長死去のため、同年9月以降の推進本部長は土田和弘（学長事務取扱）

推進本部委員・小松俊樹（学生起業人材／企業人セミナー／調査研究）、鯉江康正（人口減調査／入学委員長）、広田秀樹（地域活性化／地域連携）、山川智子（市民講座／市民公開講座）、米山宗久（地域活性化／地域連携）、今瀬政司（ボランティア体験等）、中村大輔（資格取得／教務委員長）、西俣先子（学生満足度／PROG／FD）、牧野智一（市民公開講座／学生委員長）、松本和明（図書館委員長）、吉川宏之（就職委員長）、関義夫（自己点検）、品川十英（事務局長／地域連携室長）、南雲 渉（コーディネーター）、脇田妙子（コーディネーター）、井比 亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、山田満智子（書記）、以上21名。

- ・運営事務局会議・・・次のメンバーで、毎週火曜日に会議をもち、その結果を事務局会議通信として、全教職員に発信し、情報共有を図る。

座長：原田誠司（副本部長）、メンバー：米山宗久（地域連携部会長・准教授）、品川十英（事務局長・地域連携室長）、井比亨（教務学生課長）、三浦康弘（総務課長）、山田満智子（書記）。オブザーバーとして村山学部長参加。

## （4）推進協議会

- ・長岡市を始めとする地域連携機関との連携により、長岡大学COC事業の企画・展開・点検（PDCA）を推進する場として、「長岡大学地（知）の拠点整備事業推進協議会」を設置する。年1～2回開催。メンバーは次の通り。

会長／議長 内藤敏樹 長岡大学学長／教授

<連携機関等委員（敬称略）>

中村英樹 長岡市市長政策室政策企画課長

深澤寿幸 長岡市商工部工業振興課長

長谷川和明 長岡商工会議所事務局次長

伊藤定史 日本政策金融公庫長岡支店長

遠藤公一 株式会社北越銀行コンサルティング営業部長

安藤明彦 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE事務局長

羽賀友信 NPO法人市民協働ネットワーク長岡

山口壽道 公益社団法人中越防災安全推進機構業務執行理事

佐藤 勝 公益財団法人山の暮らし再生機構専務理事兼事務局長

<大学側委員>

\*上記の推進本部委員が大学側協議会委員を務める

・地域課題調整部会

地域連携機関との連携を密にし、協同で事業推進を図るため、月1回、月末の月曜日に調整部会を開催する。メンバーは、次の通りである。

林 智和 長岡市市長政策室政策企画課係長

植村 裕 長岡市商工部工業振興課工業振興係長

渡邊 聡 長岡商工会議所営業推進部産業課工業係長

原田誠司、米山宗久（長岡大学側メンバー）

### 3 平成27年度経過報告

<平成27（2015）年>

実施日	事業内容
4月8日（水）	平成26年度大学改革推進等実績報告書提出
4月14日（火）	平成27年度地域連携研究センター第1回市民講座部会
4月21日（火）	平成27年度第1回推進本部（平成27年度COC推進体制・事業方針・予算・文科省アンケート実施について、平成26年度実績報告等）
4月21日（火）	平成27年度地域連携研究センター第1回地域連携部会
4月27日（月）	平成27年度第1回地域課題調整部会
5月12日（火）	・平成27年度地域連携研究センター第2回市民講座部会 ・平成27年度地域連携研究センター第2回地域連携部会
5月13日（水）	平成27年度地域連携研究センター第1回運営委員会
5月19日（火）	平成27年度第2回推進本部（平成27年度COC事業計画、主なスケジュール）
5月20日（水）	平成27年度地域連携研究センター第1回調査研究部会
5月25日（月）	平成27年度第2回地域課題調整部会

実施日	事業内容
6月1日(月)	市民公開講座「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」 (～6/29(月)全5回)
6月2日(火)	平成27年度地域連携研究センター第3回市民講座部会
6月9日(火)	平成27年度地域連携研究センター第3回地域連携部会
6月10日(水)	平成27年度地域連携研究センター第2回調査研究部会
6月16日(火)	・平成27年度第3回推進本部(事業進捗、平成26年度フォローアップ報告、平26度COCアンケート、平成27年度COC交付申請書、平成27年度COC+事業、平成27年度COC推進協議会、主なスケジュール) ・成27年度地域連携研究センター第2回運営委員会
6月19日(金)	平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業交付申請書提出
6月24日(水)	職員全体FD/S D研修会「ハラスメント防止対策について」
6月25日(木)	平成27年度第1回地(知)の拠点大学による地方創生推進事業推進協議会開催
6月29日(月)	平成27年度第3回地域課題調整部会
6月30日(火)	平成27年度地域連携研究センター第4回地域連携部会
7月2日(木)	市民公開講座「記紀神話を読む・前編」(～7/30(木)全4回)
7月7日(火)	平成27年度第4回市民講座部会
7月14日(火)	・性のための起業セミナー(～8/7(金):5回) ・業支援メンター制度開始 ・成27年度地域連携研究センター第5回地域連携部会
7月15日(水)	平成27年度地域連携研究センター第3回調査研究部会
7月21日(火)	・成27年度第4回推進本部(平成27年度事業進捗、平成27年度COC+事業、長岡市創生事業の委託、地域志向教育研究、イノベーション人材養成講座広報、当面のスケジュール) ・成27年度地域連携研究センター第3回運営委員会
7月22日(水)	人口減少問題等市区町村アンケート発送
7月27日(月)	平成27年度第4回地域課題調整部会
7月29日(水)	・D研修会「大学・短大トップセミナー」に参加 ・D/S D研修会「研究倫理教育」「PROG運用方法の説明と改善点等の意見交換」
8月19日(水)	平成27年度地域連携研究センター第5回調査研究部会
8月26日(水)	FD/S D研修会「中退者の原因分析と対策について」
8月31日(月)	平成27年度第5回地域課題調整部会
9月8日(火)	平成27年度地域連携研究センター第6回地域連携部会
9月15日(火)	・成27年度第5回推進本部(平成27年度事業進捗、後期事業計画、COC+) ・成27年度地域連携研究センター第4回運営委員会

実施日	事業内容
9月16日(水)	平成27年度地域連携研究センター第5回調査研究部会
9月17日(木)	市民公開講座「初級簿記講座」(～11/12(木)全15回)
9月28日(月)	平成27年度第6回地域課題調整部会
10月1日(木)	・民公開講座「記紀神話を読む・後編」(～11/12(木)全5回) ・ノベーション人材養成講座「インターネット活用講座」(～11/19(木)全8回)
10月6日(火)	平成27年度地域連携研究センター第5回市民講座部会
10月7日(水)	イノベーション人材養成講座「商品企画講座」(～11/25(水)全8回)
10月16日(金)	平成27年度地域連携研究センター第7回地域連携部会
10月18日(日)	第13回SDフォーラムに参加「多様な繋がりを育む大学職員」
10月20日(火)	・成27年度第6回推進本部(事業進捗、当面する事業、COC+) ・成27年度地域連携研究センター第5回運営委員会
10月24日(土)	・部地域活性化シンポジウム「長岡市東部地域の活性化に向けて」 ・ランティア研究会「来て！見て！聞いて！」
10月26日(月)	平成27年度第7回地域課題調整部会
10月28日(水)	・成27年度地域連携研究センター第6回調査研究部会 ・FD/SD研究会「授業外修学時間を増やす対策について」
11月3日(火)	平成27年度地域連携研究センター第6回市民講座部会
11月7日(土) ～11月8日(日)	SD研修会「地域の地域による、地域のための大学人サミット」
11月10日(火)	・平成27年度地域連携研究センター第8回地域連携部会 ・市民公開講座「渋沢栄一と長岡地域」(～12/1(木)全4回)
11月17日(火)	・平成27年度第7回推進本部(事業進捗、COC+、当面する事業) ・平成27年度地域連携研究センター第6回運営委員会 ・地域連携研究第2号(通巻25号)発行
11月18日(火)	平成27年度地域連携研究センター第7回調査研究部会
11月20日(金)	2015 地域連携研究センターシンポジウム「人口減少時代と長岡地域活性化の方向」
11月30日(月)	平成27年度第8回地域課題調整部会
12月1日(火)	・イノベーション人材養成講座「管理会計講座」(～2/9(火)全8回) ・平成27年度地域連携研究センター第7回市民講座部会
12月5日(土)	平成27年度 学生による地域活性化プログラム成果発表会
12月7日(月)	イノベーション人材養成講座「ものづくりマネジメント公開講座」
12月8日(火)	平成27年度地域連携研究センター第9回地域連携部会
12月9日(水)	創業セミナー(～2/17(水)全8回)
12月15日(火)	平成27年度地域連携研究センター第7回運営委員会

実施日	事業内容
12月16日（水）	平成27年度地域連携研究センター第8回調査研究部会
12月21日（月）	平成27年度第9回地域課題調整部会
12月22日（火）	平成27年度第8回推進本部（事業進捗、COC+、当面する事業、平成27年度COC事業広告書の作成）

<平成28年（2016）年>

1月4日（月）	学生満足度調査実施（約2週間）
1月5日（火）	平成27年度地域連携研究センター第8回市民講座部会
1月12日（火）	平成27年度地域連携研究センター第10回地域連携部会
1月19日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度第9回推進本部（事業進捗、COC+、当面する事業、平成27年度COC事業広告書の作成）</li> <li>平成27年度地域連携研究センター第8回運営委員会</li> </ul>
1月26日（火）	平成27年度地域連携研究センター第9回調査研究部会
1月29日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回COC+事業プロジェクト：コミュニティビジネスセミナー「コミュニティビジネスの基礎と現状について」</li> <li>市民公開講座「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅱ種ラインケアコース対策講座」（～3/11（金）全5回）</li> </ul>
2月3日（水）	新潟大学COC+に係る「教育プログラム開発委員会」
2月4日（木）	市民公開講座「セカンドライフプランニング講座」（～2/25（木）全3回）
2月5日（金）	2015年度名古屋学院大学COC学生成果報告会並びにCOC事業中間総括フォーラムに参加
2月16日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度第10回推進本部（事業進捗、COC+、平成26年度COC事業確認事項、平成27年度COC事業広告書の作成）</li> <li>平成27年度地域連携研究センター第9回運営委員会</li> </ul>
2月17日（水）	FD／SD研修会「COCの進捗状況と意見交換」
2月19日（金）	第2回COC+事業プロジェクト：コミュニティビジネスセミナー「事例研究：地域公共政策士について」
2月23日（火）	平成27年度地域連携研究センター第11回地域連携部会
2月25日（木）	平成27年度地域連携研究センター第10回調査研究部会
2月29日（月）	平成27年度第10回地域課題調整部会
3月2日（水）	平成27年度地域志向教育研究成果発表会
3月4日（金） ～3月6日（日）	第4回学生ボランティアと支援者が集う全国研究
3月5日（土）	第3回 悠久山・東山フォーラム「ひとりひとりができること」
3月5日（土） ～3月6日（日）	第21回FDフォーラム「大学教育を再考する～イマドキから見えるカタチ～」
3月9日（水）	平成27年度地域連携研究センター第9回市民講座部会

実施日	事業内容
3月10日（木）	インターンシップフォーラムで地域活性化プログラムゼミ学生が発表
3月15日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度第11回推進本部</li> <li>・平成27年度地域連携研究センター第12回地域連携部会</li> </ul>
3月28日（月）	平成27年度第11回地域課題調整部会

## Ⅲ<教育>における事業展開

### 1 諸専門能力の養成—教育①—

#### (1) 方針 (申請時)

・資格対応専門教育プログラムにおいては、学卒生に求められる上級情報処理能力 (ITパスポート、Excel/Word 1・2級等) と専門能力 (日商簿記 1・2級、販売士 1・2級等) の取得を、正規授業に加えて、対策講座の充実により推進する。学生 SA も十分に活用する。

#### (2) 目標 (申請時)

・平成 25 年度→情報資格取得者各学年 20%、専門資格取得者各学年 10%。  
・平成 29 年度→同情報資格の取得目標—卒業生数の 60%  
→同専門資格の取得目標—卒業生数の 40%

#### (3) 平成 25 年度実績と評価

(上級資格受験結果・総数ベース)

・上級情報資格：受験総数 78 名、合格者数 43 名、合格率 55.1% (43 名/78 名)  
・上級専門資格：受験総数 37 名、合格者数 18 名、合格率 48.9% (18 名/37 名)

(資格直前対策講座実施結果)

・講座受講総数 57 名、検定受験割合：63.2% (36 名)、検定合格率：58.3% (21 名/36 名)  
(評価)

・総数ベース (資格直前対策講座受講者以外の受験者も含めた総数) でみると、上級情報資格、上級専門資格ともに、合格率は 50%前後でまあまあであったが、在籍学生数に占める割合は低い。平成 25 年度目標値 (20%、10%) に達しなかった。

・上級資格直前対策講座の実施結果については、検定受験割合は 60%台で、検定合格率も 60%弱で、対策講座の効果はあったと言える。

・今後の課題は、大学全体の上級資格受験者数を増やすことである。そのためには、直前対策講座の受講者数を増やすことがポイントになる。そのために、ゼミ教員の指導、講座・受験情報の周知、そして何よりも学生の動機付けが重要になる。一段の工夫が求められる。

#### (4) 平成 26 年度実績と評価

(上級資格受験結果・総数ベース)

・上級情報資格：受験総数 74 名、合格者数 33 名、合格率 44.6% (33 名/74 名)  
・上級専門資格：受験総数 31 名、合格者数 8 名、合格率 25.8% (8 名/31 名)

(資格直前対策講座実施結果)

・講座受講総数 38 名、検定受験割合：39.5% (15 名)、検定合格率：53.3% (8 名)

\*内訳→上級情報資格受験者 7 名、検定合格率 71.4% (5 名/7 名)

上級専門資格受験者 8 名、検定合格率 37.5% (3 名/8 名)

(初級～上級資格全体の受験結果)

・情報資格：受験総数 132 名、合格者数 65 名、合格率 49.2% (65 名/132 名)  
・専門資格：受験総数 108 名、合格者数 30 名、合格率 27.8% (30 名/108 名)

(評価)

・平成 26 年度は資格取得支援センター C O S をスタートさせ、年間の学生利用者数は 1500 名を超え、盛況であった。資格以外の授業、学生生活に関する相談も多かった。

・資格取得状況を総数ベースで見ると、上級情報資格は、受験総数は前年度水準だが、合格者数・率ともにやや低下した。これに対し、上級専門資格は受験総数、合格者数・率ともに大幅に低下した。

・資格直前対策講座については、講座受講者数、検定受験割合が前年度より低下したが、検定合格率はほぼ同水準を維持した。講座受講者の内訳をみると、総数ベースの合格率と比べ、上級情報資格、上級専門資格の合格率はいずれも高い。

・初級から上級資格全体の受験状況をみると、情報資格は、受験者 132 名、合格者 65 名、合格率約 50% (49.2%) であった。専門資格は、受験者 108 名、合格者 30 名、合格率 30%弱 (27.8%) であった。

・初級資格受験状況をみると、1 年生の受験実績が圧倒的に大きい。初級情報資格では、1 年生受験者 45 名、合格率 66.7% (30 名) と高い。初級専門資格も、1 年生受験者 31 名、合格率 31.3% (10 名) である。1 年生で、初級の資格取得が重要である。

・以上から、次年度は、ゼミ資格取得支援センターの連携を密にして、初級～上級の資格取得へのチャレンジをさらに拡大すること、<1 年生＝初級資格、2～3 年生＝上級資格取得>の推進、直前対策講座の充実（とくに専門資格）、学生の受講しやすい講座時間・講座の仕方などをより具体化する必要がある。

・平成 26 年度の目標の達成度については、4 年生はまあまあであったが、3 年生以下は目標との乖離が大きい。4 年生（卒業生）の目標は、「上級 I T 資格保有者 40%、同専門資格保有者 15%」であったが、図表 3-1-1 に見るように、それぞれ、34.7%、15.2% であった。しかし、平成 29 年度の達成目標（上級 I T 資格保有者 60%、同専門資格保有者 40%）とはかなり差がある。今後目標達成に向けた方策を十分検討する必要がある。

図表 3-1-1 平成 26 年度上級資格保有状況

学年	上級 I T 資格保有割合	上級専門資格保有割合
4 年生	34.7% (32/92)	15.2% (14/92)
3 年生	31.7% (20/63)	6.3% (4/63)
2 年生	25.9% (15/58)	5.1% (3/58)
1 年生	0% (0/85)	1.1% (1/85)

(注) 計算方法＝各年次の資格保有者数（実質人数）÷各年次の在籍者数

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

・諸専門能力の養成・・・上級の情報（Excel/Word 1・2 級、PowerPoint 上級、I T パスポートの 6 資格）および専門能力（日商簿記 1・2 級、販売士 1・2 級、経済学検定、経営学検定、福祉住環境コーディネーター 2 級、E C O 検定、医療事務、消費生活相談員等の 11 資格）の資格取得のための対策講座を受講生の拡大可能な時間帯を工夫して、開催する。各資格対策講座 1 回（10 時間）とするが、受講生のニーズに対応して柔軟に設定する。

## 【目標】

・平成 29 年度目標（卒業生上級情報資格取得 60%、同専門資格取得 40%）を視野に入れ、平成 26 年度実績を踏まえて、平成 27 年度目標を下記のとおり設定する。

・4 年生（卒業生） 上級情報資格保有者 40%、同専門資格保有者 20%

3 年生 上級情報資格保有者 35%、同専門資格保有者 20%

2 年生 上級情報資格保有者 35%、同専門資格保有者 20%

1 年生 上級情報資格保有者 10%、同専門資格保有者 10%

＊対前年度比で、期待をこめて、4 年生・専門 5%アップ、3 年生・情報・専門とも 5%アップ、2 年生・情報 15%・専門 10%アップ、1 年生・情報 5%ダウン・専門 5%アップ、とした。

## （6）平成 27 年度計画

### a 資格ハンドブックの発行

「資格取得の手引き」を年度初めに刊行し、配布する。当冊子においては、本学カリキュラムにおいて推奨している資格および資格取得支援制度等を新入生にも分かりやすい内容で紹介する。

### b 直前対策講座実施

授業進度および参加学生のニーズに基づいた実施計画のもと企画する。下記のとおり開講日程の目安を設けるが、受講希望者との相談の上、講義内容および開講日程を適宜変更してもよいものとする。

図表 3-1-2 平成 27 年度資格直前対策講座実施予定一覧

講座名	担当講師	開講日程目安
経済学検定 B+直前対策講座（マクロ経済学編）	牧野 智一	平成 27 年 11 月
経済学検定 B+直前対策講座（ミクロ経済学編）	牧野 智一	平成 27 年 11 月
経営学検定中級直前対策講座	松本 和明	平成 27 年 11 月
販売士検定 1 級直前対策講座	小松 俊樹	平成 28 年 1 月
販売士検定 2 級直前対策講座	小松 俊樹	平成 27 年 9 月
日商簿記検定 1 級直前対策講座	中村 大輔	平成 27 年 10 月
日商簿記検定 2 級直前対策講座	中村 大輔	平成 28 年 2 月
I T パスポート直前対策講座	吉川 宏之	平成 27 年 12 月
W o r d 文書処理技能認定試験 1 級直前対策講座	高梨 俊彦	平成 27 年 12 月
W o r d 文書処理技能認定試験 2 級直前対策講座	村山 光博	平成 27 年 6 月
E x c e l 表計算処理技能検定試験 1 級直前対策講座	村山 光博	平成 28 年 1 月

Excel表計算処理技能検定試験2級直前対策講座	村山 光博	平成27年11月
PowerPointプレゼン技能認定試験上級直前対策講座	高梨 俊彦	平成27年7月
福祉住環境コーディネーター2級直前対策講座	米山 宗久	平成27年10月
医療事務管理士（医科）直前対策講座	山川 智子	平成27年12月
eco検定試験直前対策講座	西俣 先子	平成27年11月

#### c 学生の資格目標管理

本学学生ごとの相談・面談において、資格目標達成状況を見ながら具体的なアドバイスを行う。目標達成状況については、年度当初に学生に資格取得目標を設定してもらい、共有システムに情報をアップロードし、共有する。

#### d 簿記・販売士等資格勉強会の実施

資格取得支援センターで簿記の学習アドバイザーを採用し、学生主体の勉強会を開催する。特に初学者を対象として“不明点を早期に解決するためのサポート”を徹底すると共に、上級資格に挑戦する雰囲気をつくり上げる。販売士等資格取得の勉強会も開設する。

#### e 学習ペースメーカーの構築

今年度は、簿記、販売士をメインに、学習の習慣化を促す。具体的には、学生自身が学習スケジュール管理を行うことや授業内容を補完するポイント解説講座等を適宜実施して、学生の学習ペースメーカーとなる取り組みを構築して行く。実施は担当教員主導し、COSがそのサポートを行う。

#### f 総合的な学生相談の実施

資格取得を中心にしながら、授業や学生生活に関する相談等を広く受け入れ、学生個人の悩み・課題解決を促進する（具体的対応は事務局長中心に対応する）。

### （7）平成27年度展開

上記の計画に基づく、事業展開は、次の通りであった。

#### a 資格ハンドブックの発行

平成27年度はじめに資格ハンドブック『資格取得のすすめ』を刊行し、在学生全員に配布した（650部発行）。また、オープンキャンパスおよび高校訪問等において、学内資格支援の取り組み紹介として、随時配付を行った。

今回の発行にあたっては、携帯性や内容の読みやすさを大幅に見直し、初年時学生にも分かりやすい内容になったと評価している。

b 直前対策講座の実施（実績）

上級資格検定等に向けた直前対策講座を次の通り、実施した。

図表 3-1-3 平成 27 年度資格直前対策講座実施実績一覧

講座名	担当講師	開講日程	実績			
			学年	受講	受験	合格※
経済学検定直前対策講座（マクロ） ※目標試験日：H27.12.6 注1）Bランク以上を合格と見なす。	牧野 智一	H27.11.25、11.28、 12.1、12.5	1年	0名	0名	0名
			2年	1名	1名	1名
			3年	0名	0名	0名
			4年	0名	0名	0名
経済学検定直前対策講座（ミクロ） ※目標試験日：H27.12.6 注1）Bランク以上を合格と見なす。	牧野 智一	H27.11.10、11.24	1年	0名	0名	0名
			2年	1名	1名	1名
			3年	0名	0名	0名
			4年	0名	0名	0名
経営学検定直前対策講座 ※目標試験日：H27.11.22 注1）初級志望者の受講も可とした。 注2）初級受験者は1名であった。	松本 和明	H27.11.6、11.20、 11.27、12.4	1年	0名	0名	0名
			2年	1名	1名	0名
			3年	1名	0名	0名
			4年	0名	0名	0名
販売士検定1級直前対策講座	小松 俊樹	H28.2.17 試験日の受験者（2名）に対し、個別対応とした。				
販売士検定2級直前対策講座 ※目標試験日：H28.2.17 注1）3級志望者の受講も可とした。	小松 俊樹	H28.2.6、2.13	1年			
			2年			
			3年			
			4年			
日商簿記検定1級直前対策講座	中村 大輔	受験者なしのため、不開講。				
日商簿記2級直前対策講座 ※目標試験日：H27.11.15 注1）3級志望者の受講も可とした。 注2）3級合格者は4名であった。	中村 大輔	H27.11.14	1年	11名	11名	0名
			2年	3名	3名	0名
			3年	1名	1名	0名
			4年	0名	0名	0名
日商簿記検定2級直前対策講座 ※目標試験日：H28.2.28 注1）3級志望者の受講も可とした。	中村 大輔	H28.2.15、2.16、2.27	1年			
			2年			
			3年			
			4年			
ITパスポート直前対策講座 ※目標受験月：H28.2	吉川 宏之	H27.12.14、12.21、 H28.1.11、1.18	1年	0名	0名	
			2年	0名	0名	
			3年	3名	3名	
			4年	0名	0名	
Word文書処理技能認定試験1級直前対策講座 注1）目標試験日：H28.1.9 注2）1級合格者は2名であった。	高梨 俊彦	H27.12.17、12.25、 H28.1.4、1.7	1年	0名	0名	0名
			2年	0名	0名	0名
			3年	1名	1名	1名
			4年	2名	2名	1名
Word文書処理技能認定試験2級直前対策講座 ※目標試験日：H27.6.27 注1）1級志望者の受講も可とした。 注2）2級合格者は5名であった。	村山 光博	H27.6.8、6.9、6.15、 6.16、6.22	1年	0名	0名	0名
			2年	8名	8名	7名
			3年	2名	2名	2名
			4年	1名	1名	1名

Excel 表計算処理技能認定試験 1 級直前対策講座 ※目標試験日：H28. 1. 9 注 1) 2 級志望者の受講も可とした。 注 2) 1 級合格者は 1 名であった。	吉川 宏之	H27. 12. 22、H28. 1. 5	1 年	0 名	0 名	0 名
			2 年	2 名	2 名	1 名
			3 年	2 名	2 名	1 名
			4 年	2 名	2 名	0 名
Excel 表計算処理技能認定試験 2 級直前対策講座	村山 光博	教務スケジュールの都合上、不開講とした。				
PowerPoint プレゼン技能認定試験上級直前対策講座 ※目標試験日：H27. 7. 31	高梨 俊彦	H27. 7. 13、7. 16、7. 20、7. 22、7. 30	1 年	0 名	0 名	0 名
			2 年	0 名	0 名	0 名
			3 年	4 名	4 名	4 名
			4 年	0 名	0 名	0 名
福祉住環境コーディネーター2 級直前対策講座 ※目標試験日：H27. 11. 22 注 1) 3 級志望者の受講も可とした。 注 2) 3 級合格者は 2 名であった。	米山 宗久	H27. 11. 11、11. 12、11. 17、11. 18、11. 19	1 年	0 名	0 名	0 名
			2 年	3 名	3 名	0 名
			3 年	1 名	1 名	0 名
			4 年	0 名	0 名	0 名
医療事務管理士（医科）直前対策講座 ※目標試験日：H27. 9. 26	山川 智子	H27. 9. 10、9. 11、9. 17、9. 18、9. 24	1 年	0 名	0 名	0 名
			2 年	0 名	0 名	0 名
			3 年	0 名	0 名	0 名
			4 年	1 名	1 名	0 名
eco 検定直前対策講座 ※目標試験日：H27. 12. 13	西俣 先子	受講者 0 名のため、不開講とした。				
消費生活アドバイザー直前対策講座 ※目標試験日：H27. 10. 4	橋長 真紀子	H27. 9. 4、9. 16、9. 17	1 年	0 名	0 名	0 名
			2 年	0 名	0 名	0 名
			3 年	1 名	1 名	0 名
			4 年	1 名	1 名	0 名

※合格欄は当該検定試験の“上級ランク（主に 2 級以上）” 合格者数を集計したもの

### c 学生の資格目標管理

今年度はじめに学生が設定した資格取得目標について、各学生の目標達成状況を集計し、8 月末に関係教職員に情報展開した。

同 11 月に予定していた情報展開については、アカデミックアドバイザー制度のカルテ整備等を背景に、業務重複を避ける為に実施を保留した。

### d 簿記・販売士等資格勉強会の実施

今年度前期から、資格取得支援センターで簿記の学習アドバイザー（SA）1 名を採用し、学生主体の勉強会を開催。特に簿記入門履修生からの質問に対応した。簿記 3 級スタンプラリーとの相乗効果もあり、1 年生を中心とし簿記学習が例年に比べて盛んであった。

販売士勉強会については、担当教員主催で定期的に有志勉強会を開催した。平常授業に加えて、より理解を深めてほしいテーマの講義、計算問題等を中心に解説した。毎週 1 回（前期月曜 1 限、後期火曜 1 限）を目安に展開し、参加登録者は前期 4 名、後期 2 名が定例的に参加した。1 年生 1 名が販売士 2 級に合格する実績を残したが、現状それ以外の合格実績には繋がっていない。しかしながら、緩やかながら当資格志望者の意欲の活性化に繋がった。

#### e 学習ペースメーカーの構築

今年度前期は、簿記3級の基本仕訳をスタンプラリー形式にし、主に1年生簿記入門履修者を主たる対象として実施した。参加登録者58名、実参加者39名、達成者6名であったが、未達成者であっても、簿記学習初期の躓きを解消する一定の効果は確認された。

また、販売士3級においても、頻出論点をスタンプラリー形式にし、販売士対応科目履修者を主たる対象として実施した。参加登録者10名、実参加者6名、達成者0名という結果で活性化に繋がったとは言えないが、参加者に対して個別アドバイス（学習方法等）の機会を設けられたことに意義があったと振り返る。

#### f 総合的な学生相談の実施

今年度前期は、目立った相談については相談記録を残し（約70件）、関係教職員との共有を図った。年度はじめの相談が90%以上を占め、7月以降の相談が少なくなる傾向にあった。

その他の簡単な質問については、適宜スタッフが対応し、アドバイス等を行った。

今年度後期は、ボランティアコーディネーターが主となり、トライアルで個別ヒアリング（対象を2年生とした）を企画した。結果として17名、各1時間ほど個別ヒアリングを行い、担当ゼミ教員に情報を提供することで、アカデミックアドバイザー制度のサポートを試みた。

#### g 平成27年度資格取得支援センター利用者数

図表3-1-4 平成27年度資格取得支援センター利用者月別利用者集計

単位:人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	34	59	159	119	2	4	62	82	61	24	4	3	613
2年生	59	67	52	73	15	15	93	48	23	22	0	3	470
3年生	92	75	98	69	13	10	57	50	57	36	10	0	567
4年生	14	14	22	28	4	3	10	18	12	4	0	0	129
月合計	199	215	331	289	34	32	222	198	153	86	14	6	1779

今年度前期末の振り返りにおいて、学生の学習に対するモチベーション課題を指摘したが、後期においては、その解決に向けて各種試験的な取り組みを重ねてきた。

例えば、上記、e 学習ペースメーカーの構築、f 総合的な学生相談の実施のとおり、まずは対象を絞った形で学生の意欲向上のために工夫を凝らしてきたが、当センターの現状規模では提供できるサービスに限界があると見ている。

については、次年度から教務学生課と一体となり、当センター機能の企画・運営に当たれるよう体制改編を推進する予定である。

### (8) まとめ—成果と課題—

#### a 資格取得支援について

まず第1に、本年度の資格直前対策は、図表3-1-3から、専門資格対策10講座、IT系資格対策5講座を開講したが、図表3-1-6のとおり、上級IT系資格対応の直前対策講座を受講し、試験に合格した者は15名（Word1～2級9名、Excel1～2級2名、PowerPoint上級4名）にとどまった。また、上級専門資格においては、講座受講者の合格者が1名であった（経済学検

定)ことは大きな課題である。このことから、直前対策という位置付けでの講座開講では十分な効果が得られない可能性があると言える。次年度においては、日々の授業の復習を目的とした講座を展開するなど、講座の位置付けを根本的に見直していく必要がある。

第2に、図表3-1-7において、初級資格受験状況を見ると、昨年度と同様に1年生の受験実績が圧倒的に大きいことから、入学初年度の学習意欲は例年高いことが言える。一方で、2年生(昨年度1年生)の受験者数が伸びていないことから、学生の学習意欲の維持に課題があると言える。

第3に、上記のとおり上級資格直前対策講座の受講者(合格者)が伸びていないこと、初級資格における学習意欲の維持に課題があることを踏まえ、これまでとは異なるアプローチで学生支援を展開していく必要があると言える。つまり、従来どおりの資格学習の斡旋では、学生の学習意欲の喚起を行うには十分な効果が期待できないと見られ、根本的な原因はより深いところに存在していることが明らかとなった。ついては、今後の具体的な学生支援(学生相談)として、アルバイト等の学外での生活状況や日々のメンタルサポートなど、学習意欲に影響を及ぼしうる要因まで視野に入れた、複合的支援が必要であると言える。次年度から教務学生課が資格取得支援センター機能を統合して、同一施設で学生支援を展開していく予定であるが、運用企画においては上記のとおり複合的な支援が可能になるよう、具体的な制度設計を行っていく必要がある。また、今年度の簿記入門授業と簿記スタンプラリー企画の連携のように、各資格関連科目と事務企画が連携を強化することで、組織的な学習奨励を展開していく必要がある。

## b 上級資格取得状況について

まず第1に、平成27年度の資格試験受験結果を総数ベースで見ると(図表3-1-5)、IT全体では受験者135名、合格者75名、合格率55.6%であった。専門資格は受験者108名、合格者29名、合格率26.9%で、昨年と同様にIT資格より低レベルとなっている。引き続き、専門資格受験者の拡大が大きな課題として残る。

第2に、平成27年度の上級資格試験受験結果を総数ベースで見ると(図表3-1-6)、IT全体では受験者82名、合格者46名、合格率56.1%であった。専門資格は受験者24名、合格者7名、合格率29.2%であり、学年別の合格者数を年度目標に照らすと、大きな「未達」の結果となった(具体的には、上級IT資格保有割合で、4年生5.2%未達、3年生4.3%未達、2年生15.3%未達、1年生9.2%未達、また、上級専門資格保有割合で、4年生12.5%未達、3年生13.9%未達、2年生14.2%未達、1年生8.3%未達であった)。なお、平成27年度の上級資格保有状況は、図表3-1-8のとおりである。

第3に、上級資格試験の受験者が、学年が繰り上がるごとに鈍化している(2年生、3年生の上級資格者が順当に増えていない)ことは見過ごせない課題である。その背景には、各資格試験が難化傾向にあることも可能性としてありえるが、本学の各資格対応授業を終えた後、学習を継続する機会が大きく減少してしまうことが言える。つまり、資格対応科目を履修し終えた後でも、直前対策講座の開講まで学習を継続できるよう、更にフォロー体制を充実させる必要があるといえる。現在は資格取得支援センターにおいて、受験ニーズが比較的多い日商簿記・販売士検定を中心に、担当教員およびSAが日々の学習フォローを行っているが、基本的に学習者の自習を前提として運営している。しかし、今後の上級資格合格者増のためには、上記でも述べたとおり、

独学の労力を可能な限り軽減できるよう、授業の復習を目的としたインプット講義も取り入れる形で学習フォローを展開していく必要があると考えている。

図表 3-1-5 平成 27 年度資格受験結果（総数）

	I T 資格全体			専門資格全体		
	受験者数（総数）	合格者数（総数）	合格率	受験者数（総数）	合格者数（総数）	合格率
4 年生	15	5	33.3%	6	0	0.0%
3 年生	33	19	57.6%	12	5	41.7%
2 年生	41	26	63.4%	37	15	40.5%
1 年生	46	25	54.3%	53	10	18.9%
合計	135	75	55.6%	108	30	27.8%

（注）受験者数及び合格者数＝初級資格＋上級資格である

図表 3-1-6 平成 27 年度上級資格受験結果

	上級 I T 資格						上級専門資格					
	受験者数		合格者数		合格率		受験者数		合格者数		合格率	
	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座	総数	講座
4 年生	14	3	5	1	35.7%	33.3%	1	1	0	0	0.0%	0.0%
3 年生	31	9	17	8	54.8%	88.9%	6	1	2	0	33.3%	0.0%
2 年生	36	9	23	6	63.9%	66.7%	13	4	4	1	30.8%	25.0%
1 年生	1	0	1	0	100.0%	0.0%	5	0	2	0	40.0%	0.0%
合計	82	21	46	15	56.1%	71.4%	25	6	8	1	32.0%	16.7%

（注 1）上級 I T＝Word・Excel 1～2 級、PowerPoint 上級、I T パスポート

（注 2）上級専門＝日商簿記 1～2 級、販売士 1～2 級、福祉住環境 1～2 級、eco 検定、消費生活アドバイザー、経済学検定（ミクロマクロ）S～B、経営学検定中級、医療事務

（注 3）総数＝直前講座を受講しない者も含む、講座＝直前講座を受講し、上級資格を受験した者を示す

図表 3-1-7 平成 27 年度初級資格受験結果

	初級 I T 資格			初級専門資格		
	受験者数（総数）	合格者数（総数）	合格率	受験者数（総数）	合格者数（総数）	合格率
4 年生	1	0	0.0%	5	0	0%
3 年生	2	2	100.0%	6	3	50.0%
2 年生	5	3	60.0%	25	11	44.0%
1 年生	44	23	52.3%	48	8	16.7%
合計	52	28	53.8%	84	22	26.2%

（注 1）初級 I T＝Word・Excel 3 級、PowerPoint 初級、ドットコムマスターベーシック、EC 実践能力検定 3 級

（注 2）初級専門＝日商簿記 3 級、販売士 3 級、福祉住環境 3 級、FP 技能検定 3 級、経済学検定（ミクロマクロ）C～D、経営学検定初級

図表 3-1-8 平成 27 年度上級資格保有状況

学年	上級 I T 資格保有割合	上級専門資格保有割合
4 年生	34.8% (23/66)	7.5% (5/66)
3 年生	30.7% (20/65)	6.1% (4/65)
2 年生	19.7% (17/86)	5.8% (5/86)
1 年生	0.8% (1/112)	1.7% (2/112)

(注) 計算方法＝各年次の資格保有者数（実質人数）÷各年次の在籍者数

## 2 地域志向・学修科目－教育②－

### (1) 方針（申請時）

- ・新たな地域学修科目を大幅に拡大して、学生の現場感覚・知識の養成、社会人基礎力の充実をめざす。
- ・各コースの代表科目に地域学修を加え、地域学修科目を拡大する。

### (2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→19 科目、履修学生 680 人（延べ）
- ・平成 29 年度→33 科目、履修学生 1,000 人（延べ）

### (3) 平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度に開講した科目は 8 科目、履修学生 1068 人（延べ）であった。
- ・後期から当事業が開始されたため、申請時の目標科目数（19 科目）を下回ったが、履修学生数は目標（680 人）を大きく上回った。

### (4) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度は、地域志向科目を再検討し、次の 35 科目を地域志向・学修科目として設定し、各科目平均 3 限分を企業講師・現場体験等授業にあてることとした。
- \* 1 年次＝キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会 2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論
- \* 2 年次＝キャリア開発Ⅱ－1、Ⅱ－2、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習 2、生活経済論 1、2、会計学 1、プレゼン利用技術、
- \* 3 年次＝キャリア開発Ⅲ－1、Ⅲ－2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析
- \* 4 年次＝ゼミナールⅣ
- ・実績を見ると、企業講師等実施科目は 22 科目、総時限数は 71 時限で、目標（35 科目、105 時限）をかなり下回った。但し、履修学生数は 1959 人と前年からほぼ倍増した。学年共通の企業見学バスツアーを 2 回実施し、計 32 人が参加した。
- ・参加学生の評価としては、企業講師授業は理解度、役立ち度ともに 90%超が「わかった」、「役に立った」と答えており、非常に高い評価であった。企業見学ツアーも同様の評価であった。

### (5) 平成 27 年度方針・目標

- ・【3 現場感覚・知識の養成－教育③－】と同じ

### (6) 平成 27 年度計画

- ・【3 現場感覚・知識の養成－教育③－】と同じ

(7) 平成 27 年度展開

- ・【3 現場感覚・知識の養成－教育③－】と同じ

(8) まとめ－成果と課題－

- ・【3 現場感覚・知識の養成－教育③－】と同じ

### 3 現場感覚・知識の養成—教育③—

#### (1) 方針 (申請時)

・地域学修科目において、3課題(産業活性化、社会課題解決、地域活性化)に対応した、企業講師授業や現場体験学修等の体験型授業を行い、学生の現場感覚・知識の養成を促進する。

#### (2) 目標 (申請時)

- ・平成25年度→14科目(後期)で、3限分の体験型授業(2限分企業講師、1限現場体験学修)実施—体験型授業数42回、履修学生680人(延べ)
- ・平成29年度→33科目で、3限分の体験型授業99回実施、履修学生1,000人(延べ)

#### (3) 平成25年度実績と評価

- ・地域学修14科目、42限(回)分授業での企業講師等授業を目指したが、8科目、33限(回)授業に留まった。但し、履修学生は1,068人。目標実現に至らなかった要因としては、年度開始当初に具体的な招聘スケジュールの確定ができなかったことが挙げられる。
- ・学生の授業評価としては、理解できた94%、ためになった90%と非常に高い評価であった。

#### (4) 平成26年度実績と評価

- ・地域志向・学修35科目、105限(回)分授業での企業講師等授業を目指したが、22科目、71限(回)授業に留まった。実施科目数、回数ともに、目標達成割合は60%台にとどまった。但し、履修学生数は、1,959人(延べ)に達した。
- ・学生の企業講師授業の評価としては、理解できた94%、ためになった92%と非常に高い評価であった。
- ・科目横断で実施した企業現場見学バスツアーは好評であった。
- ・活動評価(まとめ・課題)・・・企業講師授業は学生の評価が非常に高く、今後も、継続して実施していく必要がある。しかし、地域志向科目35科目のうち22科目しか実施できなかったことは、同科目の内容も含めて、再検討が必要である。1年かけて検討し、平成28年度には、地域志向科目の再編の姿を明確にしたい。第3に、企業見学バスツアーについては、学生が現場に出かけていくことが重要であることを再認識する必要がある。平成27年度は、特殊授業として、「現場体験プログラム」(2年生科目)を新たに地域志向科目として開講し、他の科目とも連携して、この現場体験を充実させる。

#### (5) 平成27年度方針・目標

##### 【方針】

- ・現場感覚・知識の養成・・・地域志向36科目(1年次=キャンパスライフ入門、キャリア開発Ⅰ、経済・経営の現場、ボランティア論、ボランティア体験、環境と社会2、マーケティング入門、流通論入門、インターネット概論、2年次=キャリア開発Ⅱ-1、Ⅱ-2、現場体験プログラム、起業家塾、地域活性化プログラム、地域経営、地域活性化論、社会福祉概論、環境社会演習2、生活経済論1、2、会計学1、プレゼン利用技術、3年次=キャリア開発Ⅲ-1、Ⅲ-2、ゼミナールⅢ、インターンシップ、地方行政、地域経済論、地域産業政策、

企業経営史、産業史、医学概論、地域福祉論、管理会計、経営分析、4年次＝ゼミナールⅣ)で、各科目平均2限分を企業講師等授業や現場学習にあて、現場感覚・知識の養成を図る。

### 【目標】

・36科目2限分(72時限)を確実に実施し、昨年度に引続いて学生の高満足(「理解できた」「役に立った」共に90%以上)を維持する。

・現場体験プログラムをベースに企業現場見学を数回実施して、学生の現場理解を深める。

### (6) 平成27年度計画

a 地域志向・学修36科目において、各2限分を外部講師等授業にあてて、授業を実施する。外部講師招聘予定を事前に計画して、招聘度を上げる。

b 現場体験プログラムをベースに企業現場の見学・学修を数回実施する。

c 教員へのアンケート(地域志向科目希望と授業ポイント)および本学の位置づけ(地方創生を担う地(知)の拠点大学)の検討からする授業科目の新設など総合的に検討を行い、平成28年度以降の地域志向科目の方向性を明確にする。

### (7) 平成27年度展開

平成27年度の企業講師・現場体験等授業は、次の通り、実施した。

#### a 企業講師等授業の概要

地域志向・学修36科目において、各2限分を企業講師等授業(各分野の専門家等による地域理解等を深める授業)として実施した。その概要は、図表3-3-1に示すとおりである。

図表3-3-1 平成27年度企業講師授業一覧

No.	日時	科目名	外部講師	テーマ
1	平成27年4月21日(火)	山川ゼミⅢⅣ	有限会社 銀座堂 社会福祉士事務所 宗村 憲 氏	ふくしとわたし～これからの 生き抜くためのたった一つの 冴えたやりかた
2	平成27年4月28日(火)	山川ゼミⅢⅣ	燕市議会議員 山崎 みつお 氏	新潟県の魅力再発見!新潟ご 当地検定完全制覇者が語る地 元愛と地域の未来
3	平成27年5月15日(金)	会計学1	元中越高等学校 教頭 坂野 正人 氏	簿記の誕生と成長～資格取得 は自分作り、就職選考の経営 者の本音～
4	平成27年5月27日(水)	プレゼンテーション ソフト利用技術A	エクセルホーム有限会社 建築設計事務所、 土地家屋調査士 古寺久徳事務所 古寺久徳氏	顧客をつかむ営業プレゼンテーシ ョンにするための考え方と進め方
5	平成27年6月1日(月)	小松ゼミⅢⅣ	見附商工会 経営指導員 滝澤 正徳 氏	特産品開発
6	平成27年6月4日(木)	地域福祉論	豊田・柿地区民生委員児童委員協議会 山岸加代子 氏	民生委員・児童委員の活動実態
7	平成27年6月9日(火)	キャリア開発Ⅱ-1	AOKI 長岡川崎店長 坂田 淳	流通業界が必要とする人材と社会 人としての身だしなみについて
8	平成27年6月11日(木)	地域福祉論	フードバンクにいがた長岡センター 山崎 一雄 氏	ボランティア活動の貢献活動
9	平成27年6月17日(水)	プレゼンテーション ソフト利用技術A	株式会社 コンセント アートディレクター 高梨 裕子 氏	良い企画をより魅力的に見せる編 集デザイン
10	平成27年6月23日(火)	社会福祉概論	社会福祉法人長岡福祉会居宅介護支援事業所 まちだ園 管理者 高橋直樹氏、副主任介護支 援専門員 佐藤 恵子 氏	介護支援専門員(ケアマネジャー) の活動について

11	平成 27 年 6 月 23 日(火)	キャリア開発Ⅱ-1	新潟証券株式会社 長谷川 博人 氏	証券業界が必要とする人材と現代 経済における投資について
12	平成 27 年 6 月 24 日(水)	地域経営(川口)	(株)ファーム越後川口(あぐりの里) 特定非営利活動法人くらしサポート越後川口	地域資源循環のための直販所経営
13	平成 27 年 6 月 25 日(木)	地域福祉論	長岡市社会福祉協議会 地域福祉課長 本間和也 氏	社会福祉協議会の活動や事業内容
14	平成 27 年 6 月 30 日(火)	社会福祉概論	地域包括支援センター なかじま 業務推進員 丸山 千代子 氏	地域包括支援センターの活動内容
15	平成 27 年 7 月 1 日(水)	プレゼンテーション ソフト利用技術A	ビジョン代表 桑原 州司 氏	デザイナーの視点から見たプレゼ ン資料作成のヒント
16	平成 27 年 7 月 1 日(水)	インターンシップ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏	ビジネスマナー
17	平成 27 年 7 月 1 日(水)	地域経営(小国)	・特定非営利活動法人MTNサポート ・コーディネーター 青柳 照夫 氏	様々な事業所が連携する地域福祉
18	平成 27 年 7 月 1 日(水)	地域経営(山古志)	特定非営利活動法人中越防災フロンティア	住民が参画するコミュニティバス の運営
19	平成 27 年 7 月 7 日(火)	社会福祉概論	社会福祉法人長岡福寿会特別養護老人ホーム まちだ園 主任介護福祉員 野村 礼氏 副主任介護福祉員 谷内 仁一氏	介護福祉士の活動について
20	平成 27 年 7 月 15 日(水)	インターンシップ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏	ビジネスマナー
21	平成 27 年 7 月 16 日(木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	企業・業界研究のポイント
22	平成 27 年 7 月 21 日(火)	山川ゼミⅢⅣ	(株)SnowCast(スノーキャスト) 主任技師/気象予報士 高野 哲夫 氏	気象のイロハ〜とてもわかりやす い天気のお話
23	平成 27 年 10 月 8 日(木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	就職市場と問われる若者の力
24	平成 27 年 10 月 15 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	(株)パートナーズプロジェクト 社長 高野 洋子 氏	賃金・労働諸制度のポイント
25	平成 27 年 10 月 27 日 (火)	キャリア開発Ⅰ	キャリアカウンセラー 米田 睦美 氏	社会人のキャリア形成
26	平成 27 年 10 月 29 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	自己PR・1分間スピーチ
27	平成 27 年 11 月 3 日(火)	キャリア開発Ⅰ	キャリアカウンセラー 米田 睦美 氏	自己紹介
28	平成 27 年 11 月 5 日(木)	キャリア開発Ⅱ-2	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	ビジネス文書の書き方
29	平成 27 年 11 月 5 日(木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	ビジネスマナー① 動作・話し方
30	平成 27 年 11 月 10 日 (火)	キャリア開発Ⅰ	企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	自己分析
31	平成 27 年 11 月 12 日 (木)	キャリア開発Ⅱ-2	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	学生のキャリア形成(企業を知る)
32	平成 27 年 11 月 12 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	ビジネスマナー② 文書・メール/自己紹介書提出
33	平成 27 年 11 月 17 日 (火)	キャリア開発Ⅰ	企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	性格を知る
34	平成 27 年 11 月 19 日 (木)	キャリア開発Ⅱ-2	企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	マナー実習② あいさつ
35	平成 27 年 11 月 19 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏 他	個人面接① 自己紹介書ベース
36	平成 27 年 11 月 24 日 (火)	消費者行動論	エチゴビール株式会社 井塚 励 氏	商品開発と製造の現場 (ビール工場見学)
37	平成 27 年 11 月 24 日 (火)	キャリア開発Ⅰ	キャリアカウンセラー 米田 睦美 氏	対人関係のあり方
38	平成 27 年 11 月 26 日 (木)	キャリア開発Ⅱ-2	企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	マナー実習② 電話

39	平成 27 年 11 月 26 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏 他	個人面接② 自己紹介書ベース
40	平成 27 年 11 月 30 日 (月)	地方行政	長岡市政策企画課 中村 英樹 氏 長岡市議会事務局 松永 薫 氏	長岡市行政について
41	平成 27 年 12 月 1 日(火)	キャリア開発Ⅰ	企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	自己評価と課題認識
42	平成 27 年 12 月 2 日(水)	プレゼンテーション ソフト利用技術B	ビジョン代表 桑原 州司 氏	デザイナーの視点から見たプレゼン資料作成のヒント
43	平成 27 年 12 月 3 日(木)	キャリア開発Ⅱ-2	新潟大学農学部 キャリアジム運営センター 古俣 清勝 氏	学生のキャリア形成(営業を知る)
44	平成 27 年 12 月 3 日(木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏	グループディスカッション①
45	平成 27 年 12 月 4 日(金)	公務員試験対策 3	加茂市役所 恩田 貴之 氏	公務員の仕事障がい者雇用について
46	平成 27 年 12 月 8 日(火)	キャリア開発Ⅰ	キャリアカウンセラー 米田 睦美 氏	キャリア形成①(自己分析と強み)
47	平成 27 年 12 月 10 日 (木)	キャリア開発Ⅱ-2	新潟大学農学部 キャリアジム運営センター 古俣 清勝 氏	学生のキャリア形成(現場を知る)
48	平成 27 年 12 月 10 日 (木)	環境社会演習 2	フードバンクにいがた 高見 優 氏、山崎 一雄 氏	食のセーフティネット - フードバンクにいがたの取り組み -
49	平成 27 年 12 月 10 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏	グループディスカッション②
50	平成 27 年 12 月 11 日 (金)	公務員試験対策 3	長岡市役所 石井 恵夢 氏	こんにちは、長岡市役所のニューフェイスです!
51	平成 27 年 12 月 14 日 (月)	小松ゼミⅢ	まちの駅ネーブル見附 中川 一男 氏	特産品の理解 ※現地視察
52	平成 27 年 12 月 15 日 (火)	キャリア開発Ⅰ	新潟大学農学部 キャリアジム運営センター 古俣 清勝 氏	キャリア形成②(現場を知る)
53	平成 27 年 12 月 17 日 (木)	キャリア開発Ⅱ-2	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏	履歴書の書き方
54	平成 27 年 12 月 17 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏 他	グループ面接①
55	平成 27 年 12 月 22 日 (火)	キャリア開発Ⅰ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏 他	グループディスカッション①
56	平成 27 年 12 月 22 日 (火)	高齢者と社会政策	地域包括支援センター基幹型 認知症地域支援推進員 河鱈 和美 氏 他	認知症サポーター
57	平成 27 年 12 月 24 日 (木)	キャリア開発Ⅱ-2	企業教育ファシリテーター 朝日 由香 氏	面接実習
58	平成 27 年 12 月 24 日 (木)	キャリア開発Ⅲ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏 他	グループ面接②
59	平成 28 年 1 月 5 日(火)	キャリア開発Ⅰ	ウィンズビジネスアカデミー 宮原 晋策 氏、大期 豊子 氏 他	グループディスカッション②
60	平成 28 年 1 月 9 日(土)	企業見学 2015	株式会社諸長、第一合繊株式会社、日産プリンス新潟販売株式会社(長岡店)、株式会社スポーツ	近隣4社の企業見学と会社理解
61	平成 28 年 1 月 13 日(水)	経済・経営の現場を知る 2	株式会社新潟日報社 報道部記者 横山 志保 氏	新聞記者からみた新潟県の現状と今後
62	平成 28 年 1 月 18 日(月)	環境と社会 2	長岡市環境部環境政策課 鈴木 留美 氏 小林 朋夫 氏	長岡市の環境政策
63	平成 28 年 1 月 19 日(火)	消費者行動論	サッポロビール株式会社 北海道本部 北海道振興専任部長 菅埜 誠 氏	サッポロビールの商品開発に関する審査および講評
64	平成 28 年 1 月 22 日(金)	現代経営(経営管理)	株式会社新潟日報社 報道部記者 黒島 亮 氏	新潟県のエネルギー事情

図表 3-3-1 を総括すると、図表 3-3-2 が得られる。これによれば、実施科目数 21、総時

限数 62 時限で、目標（36 科目 2 限分=72 時限）に至らなかった。また、1 科目あたり平均 2 時限の企業講師授業計画であったが、キャリア科目に実施時限数が偏ったことが言える。

図表 3-3-2 平成 27 年度企業講師実施授業の総括表

招聘時限数	外部講師実施授業科目	科目数	時限数
1 時限招聘	会計学Ⅰ、小松ゼミⅢⅣ、地方行政、プレゼンテーションソフト利用技術Ⅱ、環境社会演習Ⅱ、小松ゼミⅢ、高齢者と社会政策、経済・経営の現場を知るⅡ、環境と社会Ⅱ、現代経営（経営管理）	9	9
2 時限招聘	キャリア開発Ⅱ-1、インターンシップ、消費者行動論、公務員試験対策Ⅲ	4	8
3 時限招聘	山川ゼミⅢⅣ、プレゼンテーションソフト利用技術Ⅰ、地域福祉論、社会福祉概論、地域経営	5	15
8 時限招聘	キャリア開発Ⅱ-2	1	8
10 時限招聘	キャリア開発Ⅰ	1	10
12 時限招聘	キャリア開発Ⅲ	1	12
	合計	21	62
	備考		企業見学 2015 は含めない。 小松ゼミⅢⅣと小松ゼミⅢを同じと見なす。 64-2=62 時限

#### b 企業見学バスツアーの実施

学生の要望に応じて、企業見学バスツアーを、図表 3-3-3 の通り、実施した。

図表 3-3-3 企業見学バスツアー 2015 の概要

訪問日	平成 28 年 1 月 9 日（土）
訪問先	① 株式会社諸長（新潟県見附市新幸町 4-1） ② 第一合織株式会社（新潟県見附市柳橋町 336-1） ③ 日産プリンス新潟販売株式会社長岡店（新潟県長岡市要町 1-4-51） ④ 株式会社スポット（新潟県長岡市新産 3-6-12）
形態	希望者 17 名で各社を訪問し、企業紹介の聴講および施設の見学を行う。
対象者	主に 3 年生、その他学年の参加も可。

#### c 評価

##### ★企業講師等授業

企業講師等授業についての学生アンケートの回答結果は次の通りである。各回のアンケート結果をまとめると、図表 3-3-4 の通りである。

「わかった」（「よくわかった」＋「まあまあわかった」）が 94.4%と、例年に続いて非常に高い評価であった。役立ち度においても、「ためになった」（「ためになった」＋「まあまあためになった」）が 90.7%と、同様に高評価となっている。

図表 3-3-4 平成 27 年度企業講師授業に対する受講学生の評価（回答総数ベース）

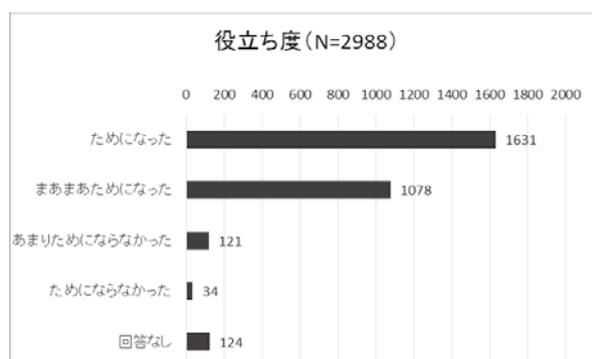
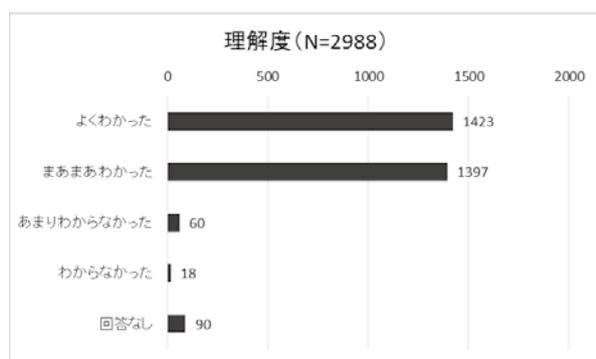
(1) 理解度

よくわかった	まあまあわかった	あまりわからなかった	わからなかった	回答なし	回答合計
47.6%	46.8%	2.0%	0.6%	3.0%	100.0%
1423	1397	60	18	90	2988

(2) 役立度

ためになった	まあまあためになった	あまりためにならなかった	ためにならなかった	回答なし	回答合計
54.6%	36.1%	4.0%	1.1%	4.1%	100.0%
1631	1078	121	34	124	2988

(3) 図示



★企業見学バスツアー

企業見学バスツアーの参加学生のアンケート結果は、図表 3-3-5 の通りである。

現場を直接訪れることでより深い理解につながったという感想が多く、昨年に引き続き好評であった。次年度以降も、企業の現場を体験できる機会を充実させる必要がある。

図表 3-3-5 企業見学 2015 参加学生アンケート結果

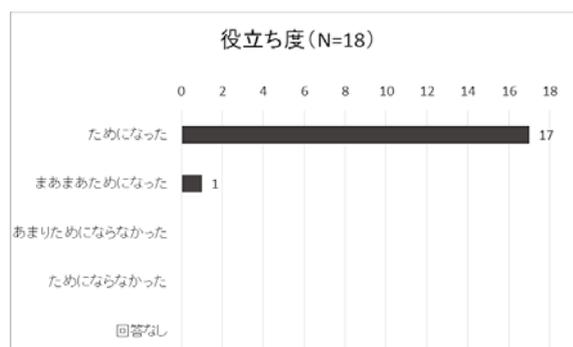
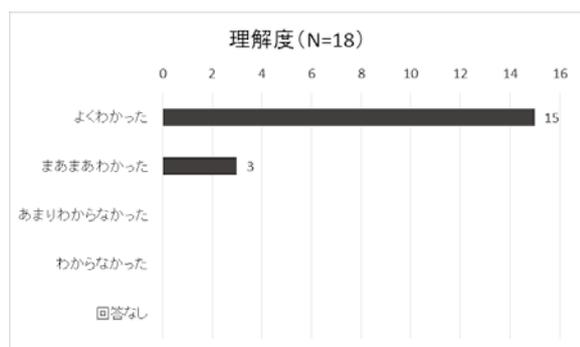
(a) 企業紹介等における理解度

よくわかった	まあまあわかった	あまりわからなかった	わからなかった	回答なし	回答合計
15	3	0	0	0	18

(b) 今後の役立度

ためになった	まあまあためになった	あまりためにならなかった	ためにならなかった	回答なし	回答合計
17	1	0	0	0	18

(c) 図示



#### (8) まとめ—成果と課題—

以上から、成果と課題をまとめると、次の通りである。

第1に、これまでの事業展開から、企業講師授業は学生の評価・支持が大きく、目標を達成できた。目標とした学生の高満足（「理解できた」「役に立った」がともに 90%以上）は、維持、達成できた。今後とも引き続き改善を図りながら展開していく。

第2に、企業見学バスツアーへの参加学生の評価も非常に高く、今後もさらに工夫して、実施する必要がある。

第3に、地域志向科目の再検討が出来なかったこと。上記のように、企業講師授業はキャリア科目に偏っている傾向が強く、再検討が必要であることを示す。企業見学ツアーが高評価なものも含めて、地域志向科目の再編を検討する。この3年間の実績を踏まえつつ、教養科目、履修モデルと専門科目、求められる能力・資質の3点を再検討し、地域志向科目の体系を構築することを目指す必要がある。

## 4 ボランティア・スキルの養成—教育④—

### (1) 方針 (申請時)

- ・3課題に対応したボランティア関係の授業科目等の充実・仕組み構築を図り、卒業後もボランティア活動を推進できる人材を養成する。
- ・〈ボランティア大学〉のイメージを定着させる。

### (2) 目標 (申請時)

- ・平成25年度→ボランティア体験Ⅰ授業等で、ボランティア・スキルや学生リーダーを養成する。ボランティア・アドバイザーを配置する。単位取得学生数20名。
- ・平成29年度→ボランティア体験Ⅰ、Ⅱどちらか履修学生割合目標—卒業生の80%

### (3) 平成25年度実績と評価

- ・実績—ボランティア体験・ボランティア論単位取得者割合は33%で、目標の30%(20名)を上回った(ただし、前期科目)。1泊2日のリーダー研修をサークル等責任者に対して2回(9月・3月、各回約20名参加)実施した。また、コーディネーターによる地域活性化等のボランティア・活動の指導、支援を毎週(2~3回)行った。平成26年度のボランティア体験科目を具体的実施するための地域ボランティア情報、ネットワークを形成できた。
- ・評価—学生へのリーダー研修やボランティア・活動の指導・支援により、学生の部活や地域活動の活性化を促進するとともに、担い手の拡大を図ることができた。また、次年度のボランティア科目等の円滑な推進を図る条件を整えられた。

### (4) 平成26年度実績と評価

- ・1年生のボランティア科目(1年配当のボランティア論とボランティア体験のどちらか)の単位取得者割合は50.6%(1年生単位取得者数43名/1年次学生数85名)で、目標の40%を上回った。
- ・ボランティアデスクの開設によりボランティア情報の周知が行われた。
- ・地域へのボランティア活動への参加学生はイベント参加が約70名、継続参加が約20名であり、地域の催しを支えると共に学生のボランティア力が向上した。
- ・活動の評価(まとめ・課題)・・・ボランティアデスクが稼動し、実際に活動に参加する学生の裾野が広がった。展示、メール配信、口コミを活用した結果、「ボランティアに参加しよう」という雰囲気がすこしずつ浸透し始めている。また、実際にボランティア活動に参加した学生が「ボランティア=楽しい」という切り口で語ることによって、新規参加者につながっている。しかし、ボランティア体験履修者を増やす工夫が必要であり、また、ボランティアリーダーの養成をめざした学生のボランティア団体の形成に注力する必要がある。授業だけでなく、恒常的なボランティア活動を展開・拡大するためには、学生のボランティア団体の形成が不可欠である。

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

- ・ボランティア・スキルの養成・・・ボランティア・デスクを中心に、最新のボランティア情報の提供や学生のボランティア活動への参加を促進する。また、ボランティア・リーダーの合宿研修を行い、リーダー養成を行う。

### 【目標】

- ・ボランティア活動への参加促進・・・学生のボランティアサークルの設立を支援し、自主的に参加する土壌を作る。
- ・ボランティアリーダーの合宿研修・・・ボランティアコーディネーションの基礎講座を開講し、ボランティアリーダーの養成を行う。
- ・ボランティア情報の提供・・・県外・県内他大学との情報共有の場づくり（ネットワークの形成）を進めるとともに、長岡・県内地域のボランティア情報を集め、発信する。

## (6) 平成 27 年度計画

### a 学生ボランティアサークルの設立

- ・平成 26 年度にボランティア活動へ参加した学生を中心に呼びかけ、ボランティアサークルを設立し（～5月頃）、活動を開始する（通年）。
- ・活動の意義や理念を確認しつつ、課題を解決していく力を身に付ける（PDCA、通年）。

### b ボランティアリーダー養成合宿

- ・ボランティアリーダー合宿等への参加を促し、ボランティア活動やボランティア先との調整などについて必要な知識を習得する（2月頃）。

### c 県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成

- ・県内外大学のボランティアサークル等と交流を開始し、着実に情報交換をすることでコミュニケーション能力、ボランティアコーディネーション能力を身に付ける（4月から数回打ち合わせ、秋以降、本格稼働）。

### d 長岡地域の様々なボランティア活動への参加

- ・長岡地域における様々なボランティア活動への参加を呼びかけ、本学学生のボランティア活動の拡大を図る。

## (7) 平成 27 年度展開

### a 学生ボランティアサークル<ぽぷら>設立

- ・学生ボランティアサークル<ぽぷら>を、平成 27 年 4 月末に設立した。部員 7 名（3 年生、うち留学生 2 名）
- ・運営方法、個人活動とサークル活動の両立などの運営方針を話し合いながら活動をすすめている。
- ・学内助成金「ヒューマンパワーアッププロジェクト」に応募、活動資金を得るなど、計画的に進めている。
- ・広報活動にも力を注ぎ、「学生とのもーれ」（長岡市民協働センター主催）や「新潟県災害学生ボランティアフォーラム」（新潟県長岡地域振興局主催）などにも積極的に参加して

いる。

- ・学内でも実施したが、大学間で協働しながらネパール地震被害者のための募金活動を展開し、総額 11,559 円（4 回の募金活動と常設 3 箇所の合計）をチーム中越経由で寄付をした。

#### **b ボランティアリーダー養成合宿・講座**

- ・1月30～31日にボランティアリーダー合宿を行った。（長岡市川口木沢：4名参加）
- ・3月4～6日に第4回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会に参加。（東京渋谷区：3名）
- ・ボランティアに参加するだけでなく、コミュニケーション術やボランティアプログラムの立案、コーディネートするための基礎を学ぶ講座を開催。
- ・ファシリテーション講座・・・11～12月、8回程度、各回30分（のべ10名参加）
- ・実践のためのワークショップ・・・12月21、22日、各回1時間半（のべ14名参加）

#### **c 県内外大学のボランティアサークル等とのネットワークの形成**

- ・ボランティアサークル<ぼぷら>が中心になり参加。新潟県内全域（新潟県内学生ボランティアネットワーク）や長岡市3大学1高専（Nagaoka Student Volunteer Circle）に企画段階から参加している。
- ・N-connection として活動を始めた新潟県内学生ボランティアネットワークで情報共有の会合を開催、参加（5月、6月、7月、12月）

#### **d 長岡地域の様々なボランティア活動への参加（4月～12月）**

- ・イベント参加型・・・のべ90名。・継続型・・・5団体の活動に参加  
NPO や地域づくり団体などを中心に、栃尾、小国、川口などからボランティアへの参加要請があり、ニーズとシーズを調整しつつ参加を促す。

### **（8）まとめー成果と課題ー**

まず、平成27年度のボランティア論とボランティア体験の単位取得者（1年生）は33名で、単位取得割合は29.5%。平成26年度の50.6%を大きく下回った。

本年度はサークル単位でのボランティア活動に成果が大きく現れた。ボランティアサークルが発足したことで、学外への発信力が強まった。同時に、麻雀部がコミュニティセンターや福祉施設とタイアップをして健康マージャンを展開し、地域への貢献も実現している。

また、ボランティア活動への参加依頼も着実に増え、活動実績も増加傾向にある。裾野が広がることで、地味で少数ではあるが質の向上も見受けられ、単に参加するボランティアから脱皮し、課題解決型やボランティアコーディネーターの方向へ成長し始めている。

課題としては、活動の支援者である大学教職員全体が「ボランティアについて」学び理解することで活動への仕組みやサポートが充実し、より意義のあるボランティア活動へ深みを増すものとする。

また、ボランティア論やボランティア体験の授業から、ボランティアサークル<ぼぷら>の加入促進や新たなサークルの立ち上げに導かれることを推進する必要がある。

## 5 社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）－教育⑤－

### （1）方針（申請時）

- ・ 3・4年ゼミ等の地域活性化プログラムの充実・拡大を図り、卒業後も通用する社会人基礎力の養成を推進する。
- ・ <社会人基礎力養成大学>のイメージを定着させる。

### （2）目標（申請時）

- ・ 平成 25 年度→3・4年ゼミナール（2年生希望者含む）の地域活性化プログラムで、地域課題の調査・分析・提言等実施－8ゼミ8課題、参加学生割合 40%（81名）
- ・ 平成 29 年度→ゼミ数・参加卒業生数割合目標－3・4年ゼミ 14、参加学生割合 80%。「社会人基礎力育成グランプリ」決勝大会入賞をめざす。

### （3）平成 25 年度実績と評価

- ・ 平成 25 年度は、7ゼミと1チームの計8取組を実施した。従来の中間発表会に代わるものとして、ゼミ単位で中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして、成果発表会に臨んだ。
- ・ 本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇については、学生の評価はアクション力、シンキング力の上昇度は共に60%、チームワーク力は70%となっている。教員の評価は、それぞれ約50%で、全体的に学生の評価が教員のそれを上回っている。1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけ伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。

### （4）平成 26 年度実績と評価

- ・ 平成 26 年度は、9ゼミ1チームの計10取組みが地域活性化プログラムの活動に参加した。取組みごとに中間レビューを実施し、アドバイザーからの評価、指摘事項、意見を参考にして成果発表会で成果を発表した（参加者は約190名で盛況であった）。
- ・ 本プログラムの目的でもある社会人基礎力の上昇度については、学生の自己評価ではアクション力が65%、シンキング力が55%、チームワーク力は58%となっている。教員の評価はアクション力が59%、シンキング力が52%、チームワーク力が68%となっている。アクション力とシンキング力では学生の自己評価が、チームワーク力では教員の評価が高くなっている。教員の評価の方がおそらく客観的評価と思われるが、学生の自己評価が高いのはプログラム評価としては、大変望ましいと言ふべきであろう。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）・・・当プログラムは今年度も好結果を得て終了したが、今後は、参加ゼミ数（学生数）の拡大、プログラムの質的評価を検討する必要がある。後者については、アドバイザー、担当教員、発表会参加者の投票等により優秀賞の表彰等を行なうことも検討すべきであろう。

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

- ・社会人基礎力の養成（地域活性化プログラム）・・・地域活性化プログラムの取組みゼミ（3・4年の8ゼミ）活動について、中間レビュー（9～11月）と最終報告会（12月）を開催する。このレビュー・報告会でのアドバイザーの評価を受け、評価指標の検討も行う。また、社会人基礎力のコンテスト等があれば、応募する。

### 【目標】

- ・平成 27 年度の地域活性化プログラム参加ゼミは 8 ゼミ、8 取組みである。取組みゼミの拡大が望まれる。
- ・各ゼミ学生の社会人基礎力を向上させ、また、各取組の質的評価を行う（評価方法の検討）。

## (6) 平成 27 年度計画

- a 取組ゼミ・・・平成 27 年度は 9 ゼミ、9 取組みが地域活性化プログラムに参加する計画である。取組みテーマは、検討中である。
- b 年間スケジュール・・・年間スケジュール計画は、次の通りである。
  - 4月 参加ゼミを募集し、第 1 回部会を開催する。以後毎月 1 回開催し、問題点・進捗を確認する。
  - 5月 ゼミテーマ、概要、アドバイザーを選出する。
  - 6月 第 1 回推進協議会開催を開催する。
  - 7～10月 活動の進捗をみながら中間レビューを実施する。
  - 10月 悠久祭でゼミ活動を紹介する。
  - 12月 成果発表会を開催する。  
第 2 回推進協議会を開催し、アドバイザーから発表会の評価をいただき、活動報告書作成時の注意事項・必要事項、次年度へ向けてなどの意見をいただく。
  - 1月 活動報告書提出（学生）
  - 2月 活動報告書提出（教員）
  - 3月 活動報告書の刊行

(7) 平成 27 年度展開

a 平成 27 年度地域活性化プログラム参加ゼミ

平成 27 年度地域活性化プログラム参加ゼミは、以下の 9 ゼミである。

図表 3-5-1 学生による地域活性化プログラムの取組ゼミとテーマ

ゼミ	活動テーマ
鯉江 康正ゼミ	まちの駅の情報発信とおもてなし事例調査 *参加学生 6 人 (4 年 3、3 年 3)
権 五景ゼミ	十分杯で長岡を盛り上げよう！ *参加学生 5 人 (3 年 1、2 年 4)
高橋 治道ゼミ	地域の魅力発信による絆結びー高橋九郎の活躍を後世につなげるー *参加学生 7 人 (4 年 3、3 年 4)
中村 大輔ゼミ	地域イベントにおける広報活動の重要性ーながおかバル街を例としてー *参加学生 4 人 (4 年 2、3 年 1、2 年 1)
橋長真紀子ゼミ	未来の農業革新Ⅱー長岡の食の魅力を伝える観光業への貢献ー *参加学生 7 人 (3 年 7)
広田 秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーションー草の根・地域からの地球一体化推進ー *参加学生 8 人 (4 年 5、3 年 3)
村山 光博ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割 *参加学生 13 人 (4 年 6、3 年 7)
山川 智子ゼミ	長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 *参加学生 4 人 (4 年 2、3 年 2)
米山 宗久ゼミ	「空き家を使った移動販売型買い物支援」の実現に向けて *参加学生 15 人 (4 年 4、3 年 8、2 年 3)

b 平成 27 年度地域活性化プログラムの実施経過

平成 27 年度の地域活性化プログラム

は、次の日程で、実施した。

図表 3-5-2 平成 27 年度地域活性化プログラムの実施経過

4 月 16 日	平成 27 年度第 1 回地域活性化プログラム運営部会 (以後毎月 1 回開催)
5 月 14 日	平成 27 年度第 2 回地域活性化プログラム運営部会
6 月 18 日	平成 27 年度第 3 回地域活性化プログラム運営部会
6 月 24 日	平成 27 年度第 1 回地域活性化プログラム推進協議会 於：長岡大学
7 月 16 日	平成 27 年度第 4 回地域活性化プログラム運営部会
9 月 17 日	平成 27 年度第 5 回地域活性化プログラム運営部会

10月15日	平成27年度第6回地域活性化プログラム運営部会
10月21日	村山ゼミナール中間レビュー
10月24・25日	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介 権ゼミナール中間レビュー（24日）
10月27日	広田・橋長ゼミナール中間レビュー
11月10日	高橋・米山・権ゼミナール中間レビュー
11月18日	山川ゼミナール中間レビュー
11月19日	平成27年度第7回地域活性化プログラム運営部会
11月24日	中村ゼミナール中間レビュー
11月26日	鯉江ゼミナール中間レビュー
12月2日	山川ゼミナール中間レビュー
12月5日	平成27年度地域活性化プログラム成果発表会 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月16日	平成27年度第2回地域活性化プログラム推進協議会・懇親会 於：長岡大学
1月28日	平成27年度第8回地域活性化プログラム運営部会
2月18日	平成27年度第9回地域活性化プログラム運営部会
3月末	平成27年度地域活性化プログラム活動報告書発行 （合冊並びに各ゼミごと9分冊）



高橋ゼミ：神谷地区田植え



村山ゼミ：インターンシップフォーラムで発表



鯉江ゼミ：まちの駅全国大会

ｃ 推進体制

平成 27 年度地域活性化プログラムの推進体制は、次の通りである。

図表 3-5-3 平成 27 年度地域活性化プログラムの推進体制

<総合アドバイザー>

(敬称略)

所属	職名	氏名
長岡市市長政策室政策企画課	課長	中村 英樹
株式会社パルメソ	代表取締役	松原 亨

<地域連携アドバイザー>

所属	職名	氏名
まちの駅ネーブルみつけ	主任駅長	中川 一男
長岡市市民協働推進室市民協働班	主査	安達 一啓
	郷土史家	太刀川 喜三
長岡歯車資料館	館長	内山 弘
長岡市神谷	神谷区長	白井 湛
NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと	理事長	桑原 眞二
株式会社パートナーズプロジェクト	代表取締役	高野 裕
特定非営利活動法人まちなか考房	事務局長	大沼 広美
長岡市農林部農政課	課長	小林 平仁
長岡市商工部観光企画課	課長	五十嵐 正人
コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク	代表	大出 恭子
フェアトレードショップ ら・なぷう	オーナー	若井 由佳子
NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE	事務局長	山田 哲也
株式会社アルモ	代表取締役社長	柴木 樹
社会福祉法人長岡市社会福祉協議会 本部事務局地域福祉課	課長	本間 和也
栖吉コミュニティセンター	センター長	佐藤 修一
寺宝温泉	館長	青柳 良一
えちご川口温泉 ホテルサンローラ	営業副支配人	小林 説人

<学内推進委員>

学部長	村山 光博	教授	運営委員	中村 大輔	准教授
運営部会長	米山 宗久	准教授	運営委員	橋長真紀子	専任講師
運営委員	鯉江 康正	教授	運営委員	広田 秀樹	教授
運営委員	権 五景	准教授	運営委員	山川 智子	教授
運営委員	高橋 治道	教授			

d 各ゼミの取組み概要

9ゼミの取組概要は、次の通りである。

図表3-5-4 まちの駅の情報発信とおもてなし事例調査（鯉江ゼミ）



学校法人 中越学園  
**長岡大学**

「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



文部科学省  
**地（知）の拠点**

平成27年度 学生による地域活性化プログラム

## まちの駅の情報発信と おもてなし事例調査

■担当教員  
鯉江康正

■ゼミ学生  
4年生：丸山真司、邵花、蘭海潮  
3年生：小林川子、趙清宇

■アドバイザー  
中川一男氏（まちの駅ネットワークみつけ駅長）  
安達一啓氏（長岡市市民協働推進室）

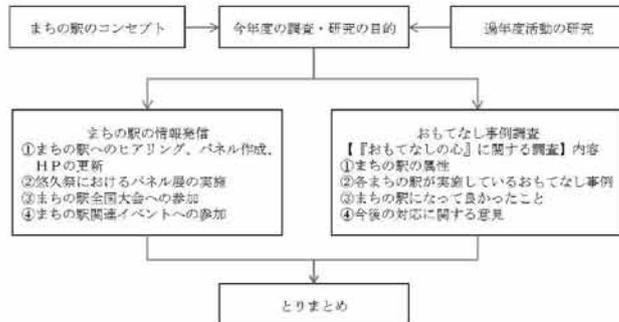
取り組みの目的

新潟県内にある「まちの駅」の情報発信活動を通して地域の魅力を地域の人々に伝えるとともに、全国大会にも参加して新潟県の「まちの駅」を広く知ってもらおう。また、各まちの駅がどのようなおもてなしをしているのかを調査し、各まちの駅の今後の活動の参考になるような情報を提供することである。

活動の枠組みと方法



調査・研究の構成



取り組みの成果

- ① ヒアリング調査・パネルの作成については、今年度をもって、県内127駅的全調査とパネル作成をすることができた。今年度の学生のみでの力ではないが、目標を立てて1つのことをやり遂げたことは評価に値する。
- ② 悠久祭でのパネル展の開催については、昨年度まで実施してきたパネル展に加え、天候を考え学生自らお茶のサービスを提供したことは評価できる。
- ③ まちの駅全国大会へ参加した結果、他の県の取り組みを知ることができ、今後のゼミの活動への刺激となった。
- ④ 「まちの駅のおもてなし」に関するアンケート調査を通して、「おもてなし」は、“相手に対する気遣い”と“相手も自分も楽しむこと”であることを学生なりに理解できた。



図表 3-5-5 十分杯で長岡を盛り上げよう！（権ゼミ）



学校法人 中越学園

長岡大学



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



文部科学省  
地（知）の拠点

平成27年度 学生による地域活性化プログラム

## 十分杯で長岡を盛り上げよう

—地域資源としての十分杯—

■担当教員  
権五景

■ゼミ学生  
3年生：中澤司  
2年生：大滝皓史、片桐湧太、田村啓輔、山田祥平  
■アドバイザー：太刀川喜三氏（郷土史家）  
内山弘氏（長岡歯車資料館 館長）



### 取り組みの概要

長岡の文化遺産である「十分杯」を活用し、まちおこしをしようと活動しています。しかし、まだまだ市民の認知度が低いという難題があります。そこで、広報活動、観光コースの開発、観光商品の開発などを行っていき、十分杯の認知度をより高めるべく活動しています。

#### ほかの杯と大きく異なる4つの点

- ① 杯なのに底に穴がある。
- ② 杯の中に「かざり」という突起がある。
- ③ 飾りの中は管が通っている。
- ④ この杯に一定の量(8分目程度)を超えて注ぐと中に入っていたすべてのお酒が底の穴から漏れてしまう。



飾りの中に管が通っている

底に穴が開いている



酒の陣と  
観光列車  
越乃 Shu \* Kura  
での活動風景



#### 長岡と十分杯の関わり

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡ります。

忠辰公以前からも武士は簡素な生活を旨としていました。ところが、元禄時代(1688-1704年)になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華やかな生活をするようになりました。長岡藩も例外ではなかったのですが、高田城二の丸請収のための出費、度重なる水害で藩の財政が悪くなっていました。そこに、塚越という領民(おそらく庄屋)の持参した十分杯に忠辰公が感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになりました。忠辰公は、十分杯を持つ「満つれば欠く」という処世訓を藩士に示すことで、財政を引き締める一方で、武士としての戒めを大事にしたと思われ

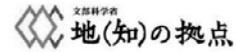
長岡藩主ゆかりの「十分杯」



図表 3-5-6 地域による魅力発信による絆結び (高橋ゼミ)



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成27年度 学生による地域活性化プログラム  
**地域の魅力発信による絆結び**  
～高橋九郎の活躍を後世に伝える～

■担当教員  
高橋治道

■ゼミ学生  
4年生: 八藤後諒、今井大介、岡田孝  
3年生: 板谷千紀、今井練、高野奏翔、山田大智

■アドバイザー: 白井湛氏(神谷区長)  
桑原真二氏(ながおか生活情報交流ねっと理事長)

取り組みの目的

長岡市神谷地域での6年間の活動を通して、明治時代後半に生きた地主の高橋九郎が現在の神谷やもみじ園の基礎を作ったことを知った。しかし、亡くなってから94年が過ぎ、神谷や地域の人たちの間からその史実が忘れ去られようとしている。そこで、地域のために尽くした高橋九郎の功績を神谷の人達やもみじ園を訪れた人たちに知らせ、後世に伝え残すことを目的として“高橋九郎マップ”を作成する。

取り組みの意義

高橋九郎マップを作り、地域の人達に広めることで、神谷の歴史や高橋九郎が地域発展のために尽くした業績を神谷地域に住む人たちが共有できる。地域の伝統と誇りを知り、守ってゆくことは、地域に活力をもたらし、地域活性化につながるものである。活動に取り組む学生にとっては、取り組みの企画・実行、地域住民との交流を通して、社会人基礎力を高めることができる。

取り組みの成果

活動を通して、高橋九郎の人物像や業績をまとめた高橋九郎マップを作成することができた。作成したマップは、神谷地域の住民や高橋九郎が開いたもみじ園を訪れる人たちに配布することを計画している。



活動の枠組みと方法

- ゼミメンバーの数が少なかったことから、3・4年のゼミ生が一緒になって取り組んだ。
- 資料調査の分野を”農業、経済人、政治家、地主”の4分野に分け、各自が担当分野の資料収集とマップの原稿作りを行った。
- 編集は、4年生が中心となって行った。

活動の概要

- 長岡中央図書館やインターネットの利用と共に、産業史を専門とする松本先生の協力を得ながらの資料収集を中心とした活動を行った。
- 資料収集に時間がとられ、神谷の人達との交流は、5月に行われた「どろんこ田植」とその後の慰労会への参加だけになってしまった。

図表 3-5-7 地域イベントにおける広報活動の重要性（中村ゼミ）

学校法人 中興学園

**長岡大学**

「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

文部科学省

**地（知）の拠点**

平成27年度 学生による地域活性化プログラム

**地域イベントにおける広報活動の重要性**

**—ながおかバル街を例として—**



---

■担当教員  
中村大輔

■ゼミ学生（地域活性化プログラム参加2年生）  
4年生：波多将志、藤本峻生 3年生：新保実央  
2年生：木島俊久

■アドバイザー：大沼広美 氏（特定非営利活動法人 まちなか考房 事務局長）  
高野裕 氏（株式会社パートナーズプロジェクト 代表取締役）

取り組みの目的	取り組みの意義
<p>本取組は地域で行われるイベント開催における広報活動の重要性について調査・研究するものである。中でも「ながおかバル街」をその例として取り上げる。</p> <p>バル街というイベントはまちなかに賑わいをもたらし、参加者の満足度が高いイベントであるが、その認知度を高めることが課題である。そこで本年度は広報活動に関する研究を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 非営利の地域イベントに多くの賑わいをもたらすために必要な広報活動の重要性について、文献研究やイベント参加を通じて体感する。</li> <li>② 文献研究にとどまらずイベント運営に関与することで、社会人基礎力たる「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を養成する</li> </ol>
活動の概要	取り組みの成果
<ol style="list-style-type: none"> <li>①文献研究 伊吹ほか（2014）『広報・PR論 パブリック・リレーションズの理論と実際』をゼミ生で輪読した。</li> <li>②マスコミ記事の調査 特に新潟日報に掲載されたバル街の記事について、文字数等について調査した。</li> <li>③バル街参加とアンケート調査 バル街当日の運営に参加するとともに、参加者に対するアンケート調査を行った。</li> </ol>	<p>ながおかバル街が中心市街地の賑わいに効果をもたらす一方で、記事での取り上げられ方が小さくなってきたことが明らかになった。</p> <p>そこで、各回のバル街ごとにテーマを設けるなどニュースバリューの高いバル街を作り上げることや、ターゲット（老若男女）に応じた適切な広報手段（新聞や SNS 等の媒体、時期等）を選択していく必要があり、そうした取り組みで少ないリソースを効率的に配分すべきことを提言した。</p>



図表3-5-8 未来の農業革新II (橋長ゼミ)



「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成27年度 学生による地域活性化プログラム

## 未来の農業確認II

—長岡の食の魅力を伝える観光業への貢献—

■担当教員  
橋長真紀子

■ゼミ学生 3年生: 繪面伊央璃、齋藤拓海、金子雅人、佐藤裕貴、鈴木敢、長谷川嵩、三村勇貴

■アドバイザー: 小林平仁氏(長岡市農林部農政課 課長)  
五十嵐正人氏(長岡市商工部観光企画課 課長)

<b>研究目的</b>	長岡の自然や食文化の豊かさを国内外の人々に伝え、長岡でしか味わえない味覚を堪能するために長岡に若者を呼び込む仕組みを考案すること。
<b>研究方法</b>	既存の長岡の観光に関する調査研究を行ったうえで、観光地として定評のある都市との比較検討を行う。その上で、長岡に不足している要素を明らかにし、実現に向けての企画立案を行う。

**研究の背景**

- ・グリーン・ツーリズム法によるとグリーン・ツーリズム(農村滞在型余暇活動)とは、「主に都市の住民が余暇を利用して農村に滞在しつつ農作業の体験、その他農業に対する理解を深める活動」と定義されている。
- ・実際に、橋長ゼミナールが2014年に実施した長岡の農業従事者に対する調査結果では、回答者404名のうち6次産業化に取り組んでいる比率は、10.2%に留まり、具体的な事業内容は、1位が「農作物の加工」、2位が「農作物の直売所」、3位が「農家レストラン」であり、事業として農家民宿を営んでいる農業事業者は存在しなかった。実際に、前述したながおかグリーン・ツーリズム推進協議会が運営している体験教育旅行は、夏期8月5日から7日の3日間の年に一度のイベントである。ここでは、協力農業が受け入れ農家として参加し、地元の小学生の宿泊および農業体験を支援する。

**北海道 夏合宿**

- 1日目: 新潟港集合 新潟港から小樽港までフェリーで移動
- 2日目: 小樽港到着 小樽市場・北一硝子・ホクレン食と農のふれあいファーム・恵庭市えこりん村視察
- 3日目: 富良野・旭川動物園視察
- 4日目: 北海道経済部観光局・北海道農政部農政課・サッポロビール・ニセコプロモーションボードヒアリング
- 5日目: 洞爺湖・登別地獄谷視察 苫小牧港から新潟港へ移動
- 6日目: 新潟港到着 解散



**長岡市農政課長岡市農政課・観光企画課へのヒアリング**

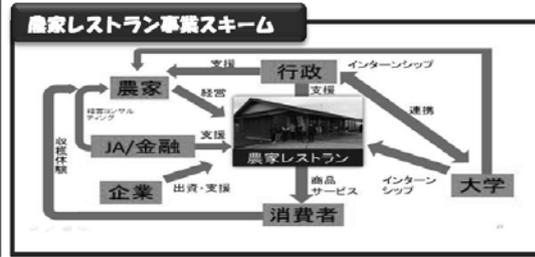
- ・長岡市農政課: 「今、国をあげて地方創生という言葉が叫ばれている。首都圏に人口が集中して、地方は人口が減少している。地方にどのように人を呼び込み、活力を維持していくかが今後のテーマになっている。農業も同じく、担い手の問題、新規就農者の確保などが大きな課題になっている中で、近年では農業に興味を持って飛び込んでくる若者が少ない」という現状をご説明いただいた。
- ・長岡市観光企画課: 長岡市観光企画課で実施されている「美酒めぐり」について内容紹介と実態についてご紹介いただいた。

**夏休みインターンシップ**

- ・農業体験: 子ども達との親睦を深め、親からの自立の支援を行う。農業の収穫を通じ貴重な体験をしてもらうことが目的。
- ・就農体験: 長岡市で農業を始めたい方に対して、実際に農業を体験してもらい、長岡市で就農してもらえるようにすることが目的。
- ・ばくばくマルシェ: 生産者と消費者を繋ぐ取り組み。長岡の野菜、長岡の素材を活かした美味しい食材を知ってもらうことが目的。
- ・長岡酒の陣: 県内一の酒蔵数を誇るまちである長岡のお酒を知ってもらおうという取り組み。美味しい米、清らかな水、卓越した越後杜氏の技と3拍子そろった酒どころ長岡の地酒を堪能してもらうことが目的。
- ・ふれあい祭り: ゲーム感覚で農業を子ども達に知ってもらい興味を持ってもらい、稲刈りなどの農業体験をしてもらう。

**政府広報: 「あぎのまちの地方創生をご紹介」の動画作**

- ・撰田屋: 江戸時代から酒・味噌・醤油の酒造の町として栄えた「撰田屋地区」は歴史的建物が多く残っており、酒や麴の香りが漂う、とても風情がある町並みである。
- ・朝日酒造: 品質への想いとして、全国に先駆けて地元農家と酒米づくりを協力して酒造りを進めている。また、原料から酒造りの品質を追求し、さらに最新の設備を導入して、安定で高品質な酒造りができる環境をつくりだす努力をしている。
- ・越後丘陵公園: 季節ごとに様々なイベントがあり、平日でも、とても多くの来客者が訪れる長岡市で人気のスポットの一つである。
- ・寺泊市場: 「魚の市場通り」という通りがあり観光推進協議会うまさぎっしり新潟「うまさぎっしり新潟」によると、「日本海の旬の幸が集まり、品揃えの良さ活きの良さ、安さで人気。熱々の浜焼きも味わいたい」通りになっている。



図表3-5-9 グラスルーツグローバリゼーション（広田ミ）



学校法人 中越学園  
**長岡大学**

「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



文部科学省  
**地(知)の拠点**



平成27年度 学生による地域活性化プログラム  
**グラスルーツグローバリゼーション**  
**一草の根・地域からの地球一体化推進**

---

■担当教員  
広田秀樹

- 4年生：新保太基、福澤里奈、増田祐也、刘婷、樋口将太
- 3年生：高野誉、長谷川翔菜、Nyam Tsedensodnom
- アドバイザー：大出恭子氏（コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表）  
若井由佳子氏（フェアトレードショップ「ら・なぶう」オーナー）

### ゼミのテーマ

ゼミのテーマはグローバリゼーション（地球一体化）と地域。私たちはグローバリゼーションを地域から推進しようと、「グラスルーツグローバリゼーション（草の根・地域からの地球一体化推進）」というコンセプトをつくり、さまざまな活動を行ってきました。

### 活動内容



海外事情に詳しい方を招き、世界情勢について学ぶ



外国の方を招きグローバリゼーションを身近に実感



外国人の方が集まる場所への訪問



悠久祭での模擬店の収益をユニセフに寄附

### 取組の成果

グラスルーツグローバリゼーションの諸活動を通じて、「世界のどこから来ても歓迎されるような地域」の構築に貢献できました。また、ゼミ生はこの活動に取り組む中で自然に、物事を世界的視点で考えられるようになりました。

図表 3-5-10 企業の情報発信とホームページの役割 (村山ゼミ)

学校法人 中誠学園



**長岡大学**

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

文部科学省



地(知)の拠点

平成27年度 学生による地域活性化プログラム

## 企業の情報発信とホームページの役割

— NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE ホームページの改善 —



■担当教員  
村山光博

■ゼミ学生  
4年生：高橋諒成、小野祥太郎、孫偉、宮崎翔、熊浩、李楊  
3年生：内山絵美、河村信太郎、佐々木圭太、福崎秀一郎、山田里津子、山本幸之介  
■アドバイザー：山田哲也 氏 (NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE 事務局長)  
柴木樹 氏 (株式会社アルモ 代表取締役)

### 取り組みの目的

NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE のホームページがターゲット (対象者) に合わせた適切な情報を効果的に発信できるように改善を図ることで、ホームページへのアクセス数の増加からNAZE会員企業への問い合わせや引き合いの増加へとつなげ、地域のモノづくり企業の活性化を目指す。

### 取り組みの意義

- ・NAZEホームページの改善に取り組む中で、ターゲットやそれに伴うコンテンツの検討などを通して、NAZEの広報戦略におけるホームページの位置づけを確認することができる。
- ・NAZEのように複数の企業が集まって構成する団体のホームページの在り方について考えることができる。

### 取り組みの成果

- ・NAZE ホームページの改善に向けて、現行のホームページに関するNAZE会員へのアンケート調査を実施し、結果を分析することでホームページ改善案に反映することができた。
- ・NAZE 広報部会に参加して意見交換を行いながら、ホームページの改善案を策定し、サイト構成案やページレイアウト案として提案をまとめることができた。

### 活動の枠組みと方法

本取り組みは、NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE の「企業ホームページ改善支援事業」との連携事業である。これまでの活動では、NAZE の会員企業の中から各年度で2～3社を対象として学生グループが調査や改善提案を行ってきた。今年度はNAZE 本体のホームページをリニューアルするにあたり、NAZE 広報部会と連携してNAZEホームページ改善案の策定を進めてきた。

### 活動の概要

- ・NAZE 事務局を訪問し、NAZE の現状についてヒアリング調査を行った。
- ・会員企業に対してNAZE ホームページに関する意識調査アンケートを実施し、回答結果の集計および分析を行った。
- ・ゼミ内でのディスカッションを通して、NAZE ホームページの改善案を策定した。
- ・NAZE 広報部会に参加し、アンケート調査の結果報告およびNAZEホームページの改善案の発表を行った。



図表 3-5-11 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信（山川ゼミ）

学校法人 中部学園



**長岡大学**

「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC）  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム

文部科学省



地（知）の拠点

平成27年度 学生による地域活性化プログラム

## 長岡周辺地域の温泉資源の 現状分析と情報発信

■担当教員  
山川智子

■ゼミ学生  
4年生：釣巻貴弥、井口美咲  
3年生：丸山貴樹、中沢裕太

■アドバイザー：青柳良一氏（寺宝温泉 館長）  
小林説人氏（えちご川口温泉ホテルサンローラ副支配人）

取り組みの目的と狙い「長岡の温泉をもっとよく知りたい！ 温泉に入って地域の良さを満喫しよう！」

長岡周辺地域には、数多くの温泉・入浴施設がある。温泉・入浴施設は、温浴や湯治などの健康への効果だけでなく、地域の大切な交流の場であり、重要な観光資源としての側面も併せ持っている。

長岡市及びその周辺地域にある温泉・入浴施設が、その地域においてどのような役割を担っているのかを実地調査することで、それぞれの強みや魅力をより深く掘り起こし情報発信することを目指している。

今年度の主な活動内容（9月より参加）

- ①長岡周辺地域にある日帰り温泉や入浴施設に行き実地調査する。（ゼミ合宿2回含む）
- ②調査した各施設の特色や気づきをまとめる。
- ③ヒアリングを実施し（6施設）、理解を深める。
- ④長岡大学において、学生アンケートを行う。
- ⑤実地調査やヒアリング内容をもとに発表や報告書として、学生の視点から長岡市や周辺地域の温泉や入浴施設の現状の情報発信を行う。

今年度の活動において取り上げた主な内容

- ・長岡市及び周辺地域の温泉施設の概要
- ・長岡の温泉施設の主な泉質や温泉・入浴施設の利用料金と営業時間
- ・温泉や入浴施設を取り巻くさまざまな問題
- ・長岡大学の学生のアンケート結果から見えてきた学生と日帰り温泉・入浴施設との関わりかた。
- ・温泉・入浴施設の食事やサービスの比較
- ・長岡市内の温泉・入浴施設の活性化への提案

施設紹介パネルで取り上げた温泉・入浴施設

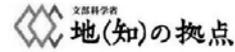
寺宝温泉、えちご川口温泉、蓬平温泉 和泉屋、花みずき温泉 喜芳、麻生の湯、桂温泉、太古の湯、アクアレー長岡、灰下の湯 東栄館、志保の里荘、おいらこの湯、長岡かまぶろ温泉、秋葉温泉 花水、ソルト・スパ潮風、いい湯らてい、松之山温泉 ひなの宿ちとせ、かわら亭、竜神の館、あまやち会館、養楽館 延命の湯、エコピア寿、越後長岡ゆらいや など全 22 施設



図表3-5-12 「空き家を使った移動販売型買い物支援」の実現に向けて（米山ゼミ）



「地（知）の拠点整備事業」（大学COC）  
長岡地域〈創造人材〉育成プログラム



平成27年度 学生による地域活性化プログラム  
**空き家を使った移動販売型買い物支援  
の実現に向けて**

■担当教員  
米山宗久

■ゼミ学生  
4年生：入澤郁也、尾坂亮、田中俊也、本間将嗣  
3年生：金井彩香、菫澤宏紀、林鉄朗、堀沙耶果、依田琴弓、ウノ・ティ・フォン・タ  
グ・ウ・ティ・ユエン、ホフ・ティ・リエ  
2年生：熊谷輝、田中美也子、土佐謙太  
■アドバイザー：佐藤修一氏（栖吉コミュニティセンター長）  
本間和也氏（社会福祉法人長岡市社会福祉協議会地域福祉課長）

取り組みの目的

平成25年度提案した「空き家を使った移動販売型買い物支援」を実現するため、昨年度は、栖吉地区をモデル地区に選定し、高齢疑似体験・高齢者の買い物同行やアンケートを実施した。さらに小売店へのヒアリングを行って移動販売参入の意向を検証した。最終年度である今年度は、空き家の実態調査や改修費用の積算、実施に向けた財源把握、買い物支援を必要とする高齢者援助を行って、買い物支援の実現性を集約する。

取り組みの意義

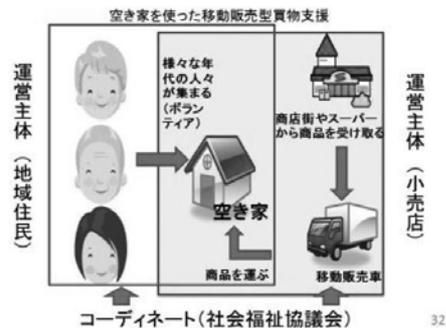
高齢者が不便と感じている「買い物」と「会話・交流」に着目し、高齢者が地域で暮らし続けるための方策として、基礎自治体に提言することができた。高齢者と交流し、一緒に買い物をするにより高齢者に共感した視点を学修することができた。

取り組みの成果

「空き家を使った移動販売型買い物支援」を実現するために「空き家」「財源」を調査し、4つの方策（市直営・小売店運営・社協と住民の協働運営・NPO運営）を導き出すことができた。その中からゼミでは、最も実現可能性がある「社協と住民の協働運営」を提言できた。今後は基礎自治体が高齢者の視点に立って実施できるかを見守りたい。

活動の枠組みと方法

買い物同行・車イス送迎研修・高齢者交流会  
空き家調査・財源調査（市役所・社協）

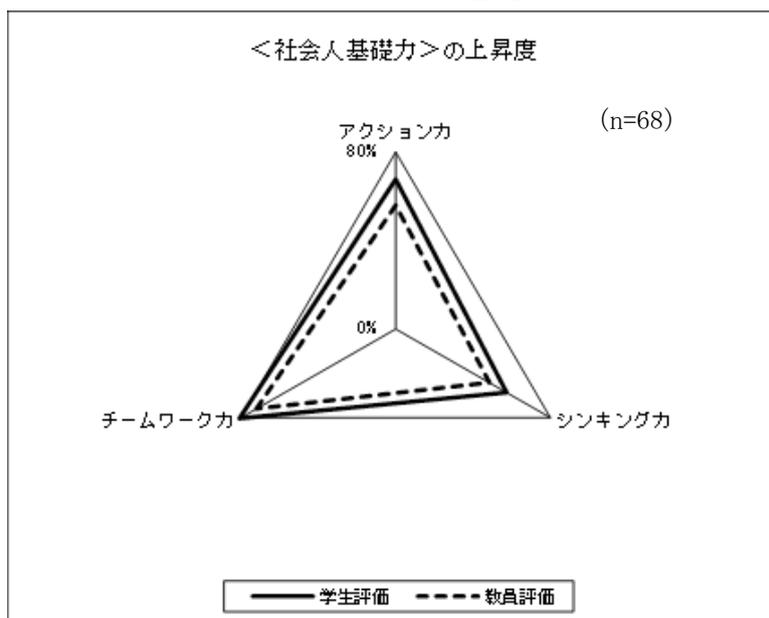


## (8) まとめ—成果と課題—

- ・参加ゼミ・・・参加ゼミは9ゼミ、9取組みで、前年とほぼ同じ規模であった。3・4年の参加学生数は61人で、参加率46.6%であった。前年に比べ、2.7ポイント上昇した。
- ・成果発表会・・・平成27年度地域活性化プログラム成果発表会は、195名（一般参加者56名、アドバイザー19名、本学学生79名、本学教職員41名）と盛大であった。前年に比べ、
- ・成果発表会参加者のアンケート評価・・・成果発表会参加者のアンケートを実施した。回収率81.7%（186名中、152名が回答）。アンケート結果は、「テーマとの整合性」89.7%、「地域活性化の役立ち度」77.0%、「取組の評価」82.5%、「発表の仕方」82.0%とともに高い評価をえた。
- ・社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）・・・学生の自己評価と教員評価は図表3-5-13~16に示す通りである。図表13によれば、アクション力、シンキング力、チームワーク力すべてで学生評価の方が高く、教員の評価は低くなっている。また、3つの力のなかでは、チームワーク力→アクション力→シンキング力の順に上昇度が低くなっている。この傾向は学生、教員双方同様のトレンドを示す。とくに教員はシンキング力とアクション力の評価が低くなっている。シンキングとアクションの向上方策が共通の課題であると言えよう。
- ・昨年度の評価結果と比べると、社会人基礎力の上昇度は、学生の自己評価ではアクション力が65%→67%、シンキング力が55%→57%、チームワーク力は58%→81%と上昇傾向を示す。なかでもチームワークの上昇度は高い。教員の評価はアクション力が59%→56%、シンキング力が52%→49%、チームワーク力が68%→72%と変化し、チームワーク力の上昇度割合は上昇しているが、アクション力とシンキング力は逆に低下している。＜同じ活動、同じ学生＞での評価ではないので、優劣比較は適当ではないが、上記と同様、シンキングとアクションの向上方策が共通の課題であると言えよう。
- ・なお、成果発表会は、図表3-5-17のとおり開催され、3月に「平成27年度学生による地域活性化プログラム活動報告書」（全ゼミの活動をまとめた合冊と各ゼミの活動をまとめたゼミごとの分冊）を発行した。



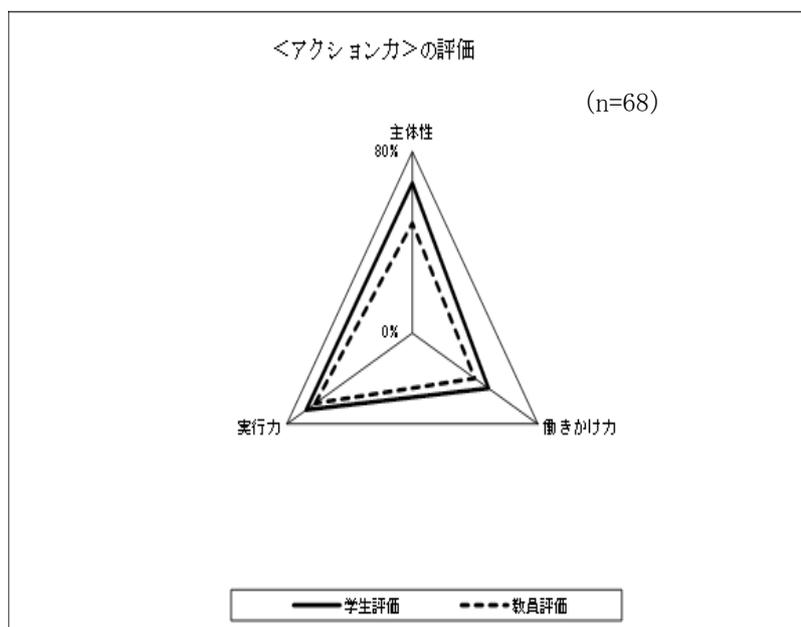
図表 3-5-13 社会人基礎力の上昇度



＜社会人基礎力＞の上昇度

		学生評価	教員評価
アクション力	上昇した学生の割合	67.6%	55.9%
シンキング力	上昇した学生の割合	57.4%	48.5%
チームワーク力	上昇した学生の割合	80.9%	72.1%

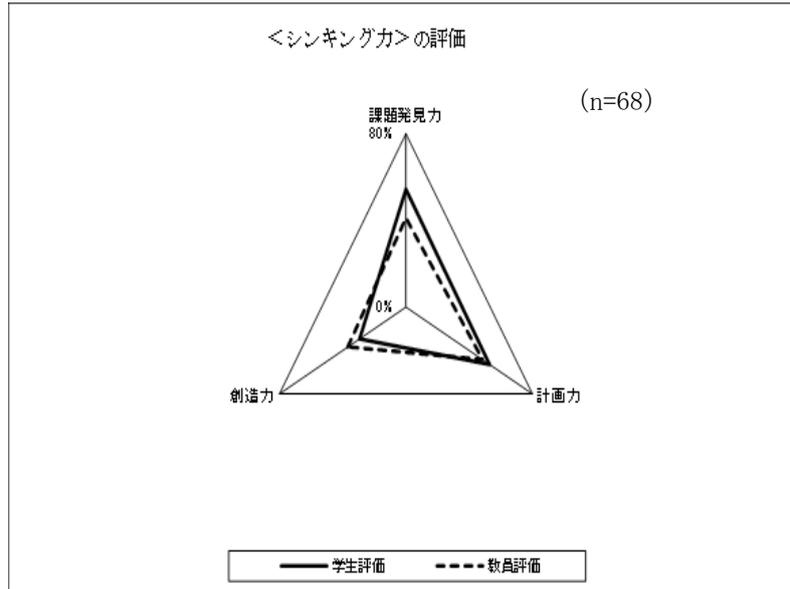
図表 3-5-14 アクション力の評価



＜アクション力＞の評価

		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組んだ学生の割合	66.2%	48.5%
働きかけ力	積極的に働きかけた学生の割合	48.5%	39.7%
実行力	確実に実行できた学生の割合	67.6%	61.8%

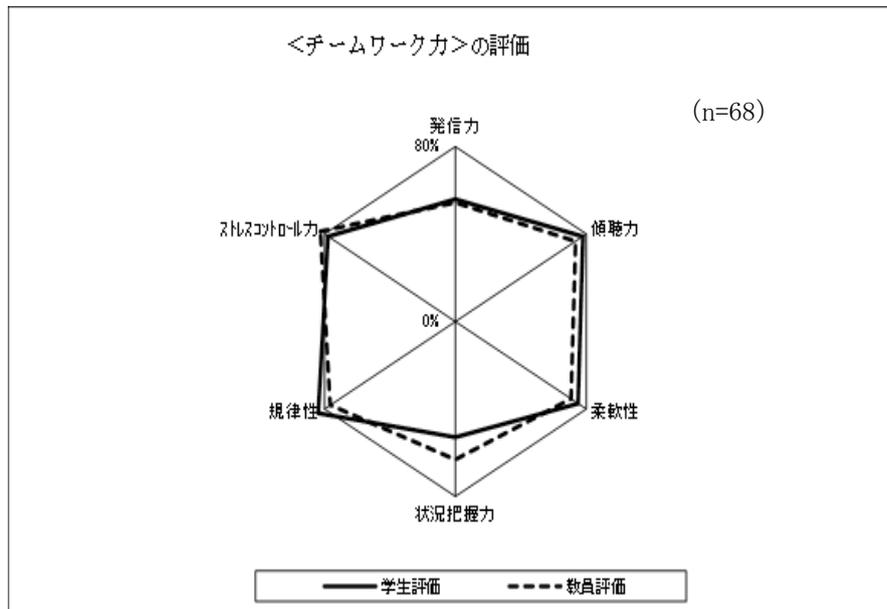
図表 3-5-15 シンキング力の評価



<シンキング力>の評価

		学生評価	教員評価
課題発見力	明らかにできた学生の割合	54.4%	41.2%
計画力	準備できた学生の割合	52.9%	48.5%
創造力	十分出せた学生の割合	29.4%	36.8%

図表 3-5-16 チームワーク力の評価



<チームワーク力>の評価

		学生評価	教員評価
発信力	十分伝えられた学生の割合	55.9%	54.4%
傾聴力	十分聞けた学生の割合	77.9%	73.5%
柔軟性	十分理解した学生の割合	75.0%	70.6%
状況把握力	十分理解した学生の割合	52.9%	63.2%
規律性	守った学生の割合	83.8%	76.5%
ストレスコントロール力	うまく解消できた学生の割合	77.9%	82.4%

図表3-5-17 学生による地域活性化プログラム成果発表会



学校法人 中越学園  
**長岡大学**

長岡地域(創造人材)育成プログラム  
平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)採択



文部科学省  
**地(知)の拠点**

## 平成27年度 学生による地域活性化プログラム 成果発表会

**プログラム**

- 橋長真紀子ゼミ……未来の農業革新Ⅱー長岡の食の魅力伝える観光業への貢献ー
- 村山 光博ゼミ……企業の情報発信とホームページの役割
- 高橋 治道ゼミ……地域の魅力発信による絆結びー高橋九郎の活躍を後世につなげるー
- 広田 秀樹ゼミ……グラスルーツグローバリゼーションー草の根・地域からの地球一体化推進ー
- 鯉江 康正ゼミ……まちの駅の情報発信とおもてなし事例調査
- 米山 宗久ゼミ……「空き家を使った移動販売型買い物支援」の実現に向けて
- 山川 智子ゼミ……長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信
- 中村 大輔ゼミ……地域イベントにおける広報活動の重要性  
ーながおかバル街を例としてー
- 權 五景ゼミ……十分杯で長岡を盛り上げよう!

【総評】 長岡市市長政策室政策企画課 課長 中村 英樹 氏  
株式会社バルメノ 代表取締役 松原 亨 氏






**日時** 平成27年**12月5日**土  
13:00～17:00(受付開始12:30)

**会場** ホテルニューオータニ長岡  
「NCホール」  
※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。  
公共交通機関をご利用ください。

**定員** **250名**  
申込締切は**12月1日(火)**

(お問い合わせ・お申込み)

**FAX:0258-39-9566**  
**TEL:0258-39-1600(代)**

〒940-0828 長岡市御山町80-8  
http://www.nagaokauniv.ac.jp  
e-mail:porev@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学教務学生課  
地域活性化プログラム担当 恩田

参加申込 お電話またはFAXにてお申込み下さい。

◆主 催 / 長岡大学

◆後 援 / 長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所・公益財団法人にいがた産業創造機構・NPO法人長岡産業活性化協会NAZE



## 6 社会人基礎力の養成（インターンシップ）－教育⑥－

### （１）方針（申請時）

- ・従来の就業体験型インターンシップに加えて、課題解決型インターンシップを新設し、社会人基礎力の一層の充実養成を図る。

### （２）目標（申請時）

- ・平成 25 年度→平成 26 年度に、課題解決型インターンシップ＝インターンシップⅡ（従来はⅠ）科目を新設（2 単位）。商店街等で職場体験しながら、活性化提案等を行う。
- ・平成 29 年度→インターンシップⅡ（課題解決型）学生参加率 20%、インターンシップⅠ（就業体験型）参加率 60%をめざす。

### （３）平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年度の実業体験型インターンシップは 8～9 月の集中（10 日間、2 単位）で行われた（23 人履修、参加率 26.7%、在籍 3 年生 86 人）。これに加えて、課題解決型インターンシップの平成 26 年度実施に向けた計画づくりを計画したが、成案を得るに至らなかった。
- ・課題解決型インターンシップの仕組みを検討したが、成案を得られず、次年度の課題となった。

### （４）平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の実業体験型インターンシップ（8～9 月の 10 日間、2 単位）参加者は、16 人（3 年生）、研修実施事業所は 17 事業所であった。
- ・しかし、インターンシップ参加率（在籍 3 年生 63 人）は 25.4%で、かつて（平成 21～23 年度）の 30%後半のレベルと比べ 5 ポイント以上低下した。これは、今年度から実施したほぼ毎週のインターンシップ準備授業（研修課題の検討、企業研究シート作成等）に適応できずに履修登録したが、インターンシップに不参加の学生が 7 名にのぼったことが影響していると思われる。今後、準備授業を実施して参加率をあげる必要がある。
- ・また、学生の応募がなくやむなく辞退した受入承諾事業所は 22 にのぼった。
- ・今年度は、初のインターンシップ成果発表会を開催し、最優秀賞 1 名、優秀賞 3 名を表彰した。好評であった。
- ・課題解決型インターンシップについては、次年度に新科目「特殊講義・現場体験プログラム」（2 年生配当）を設置して、実施することとした。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず、就業体験型インターンシップについては、事前・事後のフォローと成果発表会の実施により、就業体験と社会人基礎力の向上の点で、好評であった。次年度以降も、この方式を継続することが望ましい。

第 2 に、その反面、履修・受講学生の規模・率はともに低下したが、これを大幅にアップする対策を検討する必要がある。次年度の大きな課題である。

第 3 に、次年度には、新しい現場・就業体験の仕組みを幅広く（新潟大学の広域・連携型インターンシップ・マッチング等）構築する方策を検討する必要がある。1 年次（キャリア開発Ⅰ）からの現場・就業体験参加の認知度の向上、2 年次の新設・現場体験プログラムに

よる、1日企業見学、短期集中型就業体験、課題解決型インターンシップ（数名グループ）を多様に展開し、実践的な就業意識の形成を図る。3年生はこの上に立って、10日間のインターンシップに参加し、主体的な職業選択意識と就職活動への意欲向上を目指す。

#### （5）平成 27 年度方針・目標

##### 【方針】

- ・社会人基礎力の養成（現場体験プログラム、インターンシップ）・・・平成 27 年度開講の現場体験プログラム、インターンシップ（集中型、課題解決型）を多様な現場体験・就業体験・課題解決体験のプログラムとして組立て、学生の現場・仕事感覚の醸成と社会人基礎力の向上を図る。

##### 【目標】

- ・3年次のインターンシップ（10日間）については、参加学生の数（履修者数）、率ともに前年度以上（30%台）をめざす。そのため、準備授業での学生の意識・意欲向上を図るとともに、希望研修先と早い時期での事前打ち合わせを心がける。
- ・2年次の現場体験プログラムでは、短期（5日間）の就業体験だけでなく、課題解決型インターンシップを具体化する。
- ・成果発表会はより充実させて、開催し、多くの教職員・学生に成果を広める。
- ・広域的インターンシップの取組（新潟大学等）にも参加・連携し、学生の実践的能力向上を図る。

#### （6）平成 27 年度計画

平成 27 年度のインターンシップの充実・拡大を次のように進める。

- a 3年生の集中型インターンシップについては、毎週の授業の充実－就業体験（10日間）－終了レポート－成果発表の流れで進め、学生参加数・率の向上と社会人基礎力の向上を図る。PROGテスト（事前・事後）も検討する。
- b 2年生については、課題解決型インターンシップ（3名グループ）を実施し、その教訓をまとめ、次年度につなぐ。
- c 1年次（キャリア開発Ⅰ）、2年次（キャリア開発Ⅱ、現場体験プログラム）などを活用して、早い時期での現場見学・体験・就業体験を経験し（数回の企業現場見学会実施）、実践的な就業意識の形成と主体的な職業選択のあり方を学び、就職活動への意欲向上を目指す。
- d 広域的インターンシップの取組（新潟大学中心の関越大学）にも参加・連携して、学生の社会人基礎力の向上につなげる。

#### （7）平成 27 年度展開

##### a 就業体験型インターンシップ（3年対象、10日間、2単位）

前期の就業体験型インターンシップは、次の通り実施した。

- ・4月～5月：仕組み等の説明、研修希望企業等の選定および企業研究開始
- ・6月：企業研究シートの作成および課題の設定。面談を経て研修企業等を決定
- ・7月：ビジネスマナー実施（外部講師により2回＝7月1日、15日）、関連書類（履歴書、

誓約書、研修日誌等)の整備および研修先事前訪問(日程等の打合せ)

- ・ 8月～9月：研修実施・・・研修先企業等は図表3-6-1を参照されたい。

集中型インターンシップの履修登録学生は25人(男21、女4)で、うち研修参加者は20人(男16、女4)、参加率は30.8%にとどまった。かつての30%代後半には届いていない。

#### b 課題解決型インターンシップ(2年対象、5日間、1単位)

課題解決型インターンシップは、次の通り実施した。

- ・ 4月～7月の経過は上記の就業体験型インターンシップと同様に準備を行った。
- ・ 研修は8月8日～11月3日実施・・・研修先企業等は図表3-6-1を参照されたい

課題解決型インターンシップは今年度から「現場体験プログラム」として開始したが、履修登録学生は4名(男子のみ)で、研修参加者は2名にとどまった。

図表3-6-1 平成27年度インターンシップ・現場体験プログラム研修先企業等

a 平成27年度 長岡大学「インターンシップ」研修実績一覧—就業体験型—(3年生)		
		*1週間=5日間、2週間=10日間
研修先	参加学生数	研修期日
特養ホームまちだ園(2週間)	3人	8/3(月)～14(金)
NPO地域循環ネットワーク(1週間)	2人	9/1(火)～7(月)、9/8(火)～14(月)
NPO学びの森あうるの森(1週間)	2人	8/5(水)～12(水)、8/31(月)～9/4(金)
エヌ・シイ・ティイ(1週間)	1人	7/31(金)～8/4(火)
第四電設(2週間)	2人	8/24(月)～9/6(日)
日産サティオ新潟西(1週間)	2人	8/29(土)、30(日)、9/5(土)、6(日)、12(土)
新潟マツダ自動車(2週間)	1人	8/7(金)～16(日)
小千谷市役所(1週間)	1人	8/19(水)～23(日)
エフエムラジオ新潟(2週間)	1人	9/7(月)～18(金)
JA越後ながおか(1週間)	2人	8/8(土)～12(水)
JA新津さつき(2週間)	1人	8/17(月)～28(金)
長岡商工会議所(1週間)	1人	8/20(木)～26(水)
越後製菓(1週間)	1人	8/31(月)～9/4(金)
魚沼市役所(1週間)	1人	8/3(月)～7(金)
三条市役所(2週間)	1人	7/31(金)～8/11(火)
阿賀野市役所(1週間)	1人	8/10(月)、8/22(土)～26(水)
津南町役場(2週間)	1人	8/1(土)～12(水)
北越銀行(1週間)	1人	8/24(月)～28(金)
アクシアル(2週間)	3人	8/17(月)～21(金)、8/24(月)～9/3(木)
レオパレス21(1週間)	4人	8/17(月)～21(金)
長岡市役所(1週間) 商工部	1人	8/4(火)～7(金)、10(月)
b 平成27年度 長岡大学「現場体験プログラム」研修実績—課題解決型—(2年生)		
美松/ガトウ専科	2人	8/8、22、29、9/5、10/25、11/1～3

\*お菓子の商品開発から販売まで、他大学学生含め10程度で、実施。

c 成果発表会

- ・就業体験型、課題解決型インターンシップともに、後期（10～11月）に研修レポートをまとめ、11月18日（水）に次の通り、成果発表会を行ない、今年度を締めくくった。

名称：平成27年度 長岡大学インターンシップ成果発表会

日時・会場：平成27年11月18日(水)14:40～16:10、於 226 教室

進行：担当教員 原田誠司

次第：開会あいさつ、発表要領、審査員紹介、表彰について

成果発表(22名) 14:45～15:55      ＊発表3分、質問1分

審査 14:55～16:05

審査委員長	村山 光博	長岡大学学部長
審査委員	小松 俊樹	長岡大学教授
同	松本 和明	同
同	品川 十英	長岡大学事務局長
同	原田 誠司	担当教員

表彰 16:05～16:10    ＊最優秀賞1件、優秀賞2件に表彰状が授与された

総評 16:10 審査委員長

閉会 16:15

- ・最優秀賞、優秀賞は、次の3名の学生が受賞した。おめでとう。

★最優秀賞 研修先：JA 越後ながおか(1週間)、魚沼市役所(1週間) 中澤 司

★優秀賞 研修先：NPO あうるの森(1週間)、レオパレス 21(1週間) 山田里律子

★優秀賞 研修先：特養まちだ園(2週間) ボロルデネ



## (8) まとめー成果と課題ー

- ・就業体験型インターンシップ（3年生対象、10日間、2単位）の参加率は30.8%（20人参加）で、前年度をやや上回った程度で、さらなる拡大が必要である（平成29年度目標60%）。
- ・課題解決型インターンシップ（現場体験プログラム、1単位）の参加学生は、2名にとどまった。科目開設初年度のため、認知度が低かったため、今後は十分周知する必要がある。
- ・インターンシップ等授業の進め方は、＜研修先候補選定→企業研究（シート作成）→研修先・研修課題決定→ビジネスマナー→書類作成・研修先事前訪問→研修実施→研修レポート作成→成果発表＞という流れで実施する方式がほぼ確認できた。
- ・企業側の人材確保と地方創生事業などが重なり、広域的なインターンシップの取組（新潟大学中心の関越大学から地方創生事業COC+の一環としての取組みへ）が拡大しつつあり、平成28年度以降は、この流れが確実に拡大するものと思われる。長岡大学もCOC+大学としてこれに参加するので、対応する方策を確立する必要がある。
- ・平成27年度のインターンシップ受入れ承諾企業等は、本学の意向調査では、就業体験型が42事業所、課題解決型が7事業所にのぼった。しかし、実際の研修実施先は22事業所（就業体験型21、課題解決型1事業所）にとどまった。研修希望学生がいない事業所にはお断りの書状をお送りさせていただいた。次年度からは、＜学生の希望研修先→研修依頼＞の形で逆の方式で、研修先選定を検討する必要がある。また、ナビ登録による研修参加応募事業所が増えており、次年度は参加申し込みの主流になるものとも予想され、研修先選定の方法の再検討が必要となろう。
- ・インターンシップの取組みは、学生の社会人基礎力の向上に直接つながる事業であり、他のプログラム（地域志向科目や地域活性化プログラムなど）との関連を明確にして、能力・資質向上の仕組み（能力評価方法も含めて）として構築する必要がある。

## 7 学生起業人材の養成—教育⑦—

### (1) 方針（申請時）

- ・従来の起業家塾（夏期集中、2単位）を基礎に、通年の長岡地域の学生起業家塾へと発展させ、長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。
- ・〈学生ベンチャーの長岡〉のイメージを定着させる。

### (2) 目標（申請時）

- ・平成26年度→通年の長岡地域の学生起業家塾を開講する。参加学生30名（従来25名）、「ビジネスグランプリ in 新潟」（学生部門=キャンパスベンチャー、にいがた産業創造機構ほか主催）優勝。
- ・平成29年度→長岡地域の学生起業家輩出の拠点形成をめざす。年間参加学生数100名、全国のビジネスプラン・コンテストに応募・入賞。

### (3) 平成25年度実績と評価

- ・8月19日～22日の4日間、「起業家塾」を開講。本学より9名、長岡工業高等専門学校より3名の計12名の学生が参加、4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にオリエンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。そのうちの1チームが新潟県のキャンパスベンチャーに応募したが、受賞を逃した。また、別の1チームはトオコン（十日町ビジネスコンテスト、十日町市主催）に応募、県予選3位にとどまった。

### (4) 平成26年度実績と評価

- ・8月18～21日の4日間、「起業家塾」（夏季集中2単位科目）を開講。本学より10名の参加（3年生7名、4年生3名）で、他大学・高専からの参加学生はゼロであった。4チームに分かれてビジネスプランを作成し、最終日にプレゼンテーションおよび講評、審査・表彰を行った。4社のうち、2社がビジネスプランのブラッシュアップ作業を行い（小松教授指導）、「トオコン season5（新潟県十日町市主催）」に応募したが、1社は新潟県予選3位、本選4位で受賞を逃した。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず第1に、起業家塾は長岡市内3大学1高専の学生が参加する開かれたビジネスプラン講座（3大学の単位互換科目）として毎年開講しているが、今年は長岡大学生のみ10名の参加にとどまった。参加学生数が前年を下回ったこと（前年は12名）、他の2大学だけでなく毎年参加いただいていた高専が不参加だったことは大いに反省しなければならない。ポスター等掲示時期を前倒しして、社会人基礎力の養成に役立ち就職力向上になること、夏期休暇の有効利用に繋がる等を広く長期に広報していく必要がある。  
第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、起業家塾の自己評価は高く社会人基礎力3項目全てにおいて向上しており、当プログラムの有用性が明らかになっている。  
第3に、新潟県のキャンパスベンチャー・コンテストが今年度より廃止になり、「トオコン season5（十日町市主催）」へ前年同様応募したが受賞を逃し残念な結果となった。今後も応募を継続するとともに、全国的なコンテストにも積極的にチャレンジする必要がある。  
第4に、学生ベンチャーサークルの立ち上げ等で起業意識・風土を盛り上げて参加学生を

拡大する必要がある。

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

- ・学生起業人材の養成・・・長岡地域の 3 大学 1 高専学生の参加拡大をめざし、夏季起業家塾（8 月）の充実を図る。事前・事後セミナー開催、起業家塾でのビジネスプランのブラッシュアップによる多様なビジネスプラン・コンテストへの応募（10 月）、地域連携による若者起業セミナー等を多様に展開し、学生起業人材の養成を図る。

### 【目標】

- ・起業家塾等講座（ブラッシュアップ含む）参加学生数 30 名、起業家塾として 6 チーム（25 人）程度の参加を目指す。ビジネスプランのブラッシュアップにより、長岡市主催の若者創業コンテスト（長岡地域アイ・コン＜ビジネスアイデア部門＞）や全国的学生ベンチャー・コンテストに応募し、優秀賞等獲得をめざす。また、事前事後セミナー等を活用し、個人またはグループによる学生起業人材の創出を実現する。

## (6) 平成 27 年度計画

- ・長岡市の地方創生事業＝若者創業・起業推進事業（オリーブ構想）と連携して、次のように、3 大学 1 高専の学生の起業家塾への参加拡大、コンテスト応募拡大を図る。
  - a 6 月に夏季起業家塾ポスターを作成し、3 大学 1 高専での広報を開始する。
  - b 7 月に参加学生を中心にした、事前セミナーを開催する（長岡大学）。
  - c 8 月 17 日～20 日（4 日間）に、集中型の学生起業家塾を開講する。最終日にビジネスプランのプレゼンテーションを行い、外部有識者の審査員による審査・評価・表彰を行う。
  - d ビジネスプランのブラッシュアップを経て、長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト＜ながおかアイ・コン＞」や十日町市「トオコン 2015」、さらに全国的なコンテストへ応募し、入賞をめざす。
  - e 次年度以降に向けて、3 大学 1 高専でベンチャービジネスの学生グループ（部活またはサークル）結成を図り、創業・起業への日常的な活動拠点の創出を図る（事後セミナー開催）。

## (7) 平成 27 年度展開

- a **起業家塾参加学生の追加公募**・・・平成 27 年 6 月に 3 大学 1 高専（長岡大学、長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡工業高等専門学校）にポスターを掲示し、4 月時点の履修登録に追加登録する形で起業家塾への参加学生の募集を実施した（図表 3-7-1）。
- b **起業家塾事前セミナー・説明会**・・・次の通り実施した（図表 3-7-2）。

日時：平成 27 年 7 月 15 日（水）14:40～16:10 \*232 教室

講師：長岡パワーエレクトロニクス(株)代表取締役 大沼 喜也 氏

講演：「起業って…若者の夢の実現だ！」

説明：起業家塾担当教員 小松 俊樹
- c **起業家塾プログラム（8 月 17 日～20 日）**・・・次の通り実施した。

平成 27 年度長岡大学「起業家塾」プログラム

<第 1 日> 8 月 17 日 (月) \*225 教室

I 開講にあたって

起業家塾開講にあたって 担当教員：小松俊樹 9:30～ 9:45

社会人基礎力事前評価 9:45～10:00

プログラムの進め方について 担当教員：小松俊樹 10:00～10:30

II プログラム展開

1. チーム編成と役割検討 10:40～12:00

2. ビジネスプランとその作成方法 13:00～16:10

\*特別講演・夢の実現をめざしてー創業とはー 15:00～16:10

マコー創業者／株式会社パルメソ社長 松原 亨 氏

<第 2 日> 8 月 18 日 (火) \*225 教室

3. アイディア出し 9:00～12:00

4. アイディア 2 案の中間発表と 1 案への絞り込み 13:00～16:10

\*誰に (顧客)、何を (商品・サービス)、どのようにして提供するか  
(提供方法) の 3 つ (ビジネスモデル) を明確に

<第 3 日> 8 月 19 日 (水) \*225 教室

5. 絞り込み案のニーズ等調査 9:00～12:00

6. ビジネスプランのとりまとめ 13:00～16:10

<第 4 日> 8 月 20 日 (木) \*225 教室、226 教室

7. 発表用ビジネスプランの作成 (図解) 9:00～12:00

8. ビジネスプランの発表、講評、表彰、社会人基礎力事後評価 13:00～16:30

\*審査委員・・・最後のビジネスプランは次の審査委員が審査し、表彰した。

株式会社パルメソ社長 松原 亨 氏

長岡技術科学大学教授／テクノインキュベーションセンター長 田辺 郁男 氏

長岡造形大学准教授 澤田 雅浩 氏

長岡工業高等専門学校教授 菅原 正義 氏

d チーム編成・・・参加学生 20 名が次の 5 チームの編成で、ビジネスプランを作成した。

会社名	事業名	役割	氏名	大学名	学年
Start up	ながおか、なう！	社長	須田 一聖	長岡大学	4年
		総務部長	小黒 修平	長岡大学	3年
		営業部長	笠巻 昇太	長岡技術科学大学	3年
		財務部長	茂岱 亜矢子	長岡造形大学	3年
		製造部長	熊 浩	長岡大学	4年
株式会社保食神 (うけもちのかみ)	日本古来の文化を体験できる 神社ホテル	社長	古市 小絵	長岡大学	2年
		総務部長	柄沢 梨紗	長岡大学	2年
		営業部長	陈 鑫	長岡大学	4年
十日町カンパニー	魔除けしたっけ？幸せを持ち歩 コーレ	社長	五十嵐 健太	長岡大学	3年
		総務部長	福崎 秀一郎	長岡大学	3年
		秘書	中原 紗貴美	長岡大学	3年
		平社員	小川 雄気	長岡大学	3年
		平社員	羅 燦	長岡大学	3年
株式会社合コン	男女共同作業型合コンの企画	社長	宮崎 翔	長岡大学	4年
		総務部長	高橋 諒成	長岡大学	4年
		営業部長	藤田 春樹	長岡大学	2年
NYGs	一人カラオケ&ダンスゲーム	社長	山崎 隼斗	長岡大学	2年
		総務部長	小林 昂介	長岡大学	2年
		経理部長	内藤 淳志	長岡大学	2年
		営業部長	薙澤 雄樹	長岡大学	2年

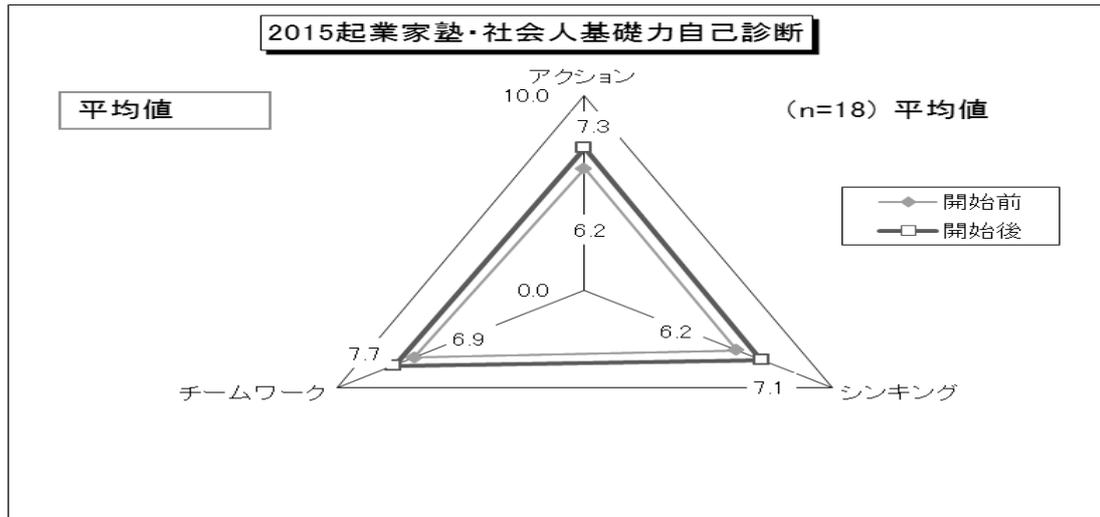
e プレゼンテーション・表彰・・・各チームは図表 3-7-3 のようなビジネスプランを作成、最終日にプレゼンテーションを行った。厳正な審査の結果、次のような表彰を行った。

\* 最優秀賞                    株式会社保食神  
     クールジャパン賞        十日町カンパニー  
     ネットワーク賞          Start up  
     お一人で楽で賞          NYGs  
     社会貢献賞                株式会社合コン

<株式会社保食神>が、急増する外国人観光客を対象としたビジネスの新規性が高く評価され、最優秀賞を獲得した。どのプランも甲乙付け難く、地域活性化に資するものだった。

f 社会人基礎力の向上・・・4日間のビジネスプラン作成と発表を終えて、社会人基礎力の自己評価は3つの全てで、向上した。図表 3-7-4 をご覧いただきたい。

図表 3-7-4 社会人基礎力自己診断結果（開始前と開始後の比較）



- g 各種ビジネスコンテスト応募・・・これらビジネスプランのブラッシュアップ作業（担当教員：小松俊樹指導）を行い、Start up（長岡 D&T として）の笠巻昇太さんと榎保食神が「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉【起業アイデア部門】」に応募し、両チームとも優秀賞を獲得した。別件で笠巻昇太さんは【いいね！アイデア部門】にも個人で応募し、優秀賞を獲得した。また、十日町カンパニー（松本ゼミナールとして）が「トオコン 2015」に応募し、本選に進んだが惜しくも受賞を逃した。



特別講演：松原 亨氏



担当教員：小松 俊樹



表彰後全体撮影

## (8) まとめー成果と課題ー

- ・第1に、夏期集中講義である起業家塾は長岡地域の学生（大学・高専・高校）を対象にした地域に開かれたビジネスプラン講座（3大学の単位互換科目）として毎年開講しているが、今年は長岡大学以外の2大学（長岡技術科学大学、長岡造形大学）の学生も含めて20名での開講となり参加学生数が前年を大きく上回った（前年は10名）。高専も含めた他の長岡地域の学生の参加者がいなかったことは大いに反省すべきで今後の課題である。ポスターの掲示時期前倒しと貼付場所を拡大すること、起業家精神や社会人基礎力の養成に役立ち就職力向上になること、夏期休暇の有効利用に繋がる等を広く長期的に広報していく必要がある。
- ・第2に、終了後の受講生アンケート調査の結果、自己診断による自己評価ではあるが社会人基礎力3項目（アクション・シンキング・チームワーク）全てにおいて高く向上している。参加をした学生にはこれからの大学生活は勿論として就職活動等にもこの経験を活かし、活躍していくことを期待する。
- ・第3に、今年から開催された長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉における【起業アイデア部門】」で2チームが優秀賞を、【いいね！アイデア部門】で起業家塾参加学生が優秀賞を獲得した。また、十日町市「トオコン2015」においては昨年同様に本選に進んだが惜しくも受賞を逃す結果となった。今後もこの2つのコンテストへの応募を継続し最優秀賞の獲得を目指していくとともにさらに全国的なコンテストである「キャンパスベンチャーグランプリ」、「学生ビジネスプラン・コンテスト」にも挑戦し、受賞を目指していく。そのためには画期的なビジネスアイデアを創出する工夫を考え、プレゼンテーション能力を高める必要がある。
- ・第4に、起業意識・風土を盛り上げながら起業への日常的な活動拠点の創出を図ることである。国の「地方創生」の基本理念に地域の特性を生かした創業の促進とあり、長岡市の「ながおか・若者・しごと機構」の活動の柱に起業・創業の支援とあることが取組における追い風となっている今、長岡市の地方創生事業＝若者創業・起業推進事業と連携していくこと、社会人の創業セミナー等と融合していくこと、長岡地域学生ベンチャーサークル立ち上げをしていくこと等が必要である。

3つの力が就職活動の強い味方になる

# 起業家塾

起業家精神

社会人  
基礎力

人間力



## 8月集中授業 追加募集

日程	8月17日(月) ~ 8月20日(木) 各日とも9時 ~ 17時	対象	長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、 長岡工業高等専門学校の学生+高校生
プログラム	数名で会社を立上げ(チーム編成)、ビジネスアイデア出しを行い、調査を踏まえて アイデアを絞り込み、ビジネスプランを作成し、発表します。 ※長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト【起業アイデア】部門」等の ビジネスプランコンテストに応募し最優秀賞等獲得を目指します。		
科目	起業家塾(2単位、3大学単位互換科目) 長岡大学225教室、226教室		
講師陣	長岡大学教授/経営コンサルタント 小松俊樹、長岡大学教授 原田誠司		
特別講演	夢の実現をめざしてー創業とはー 松原 亨 氏 マコー創業者/株式会社パルメソ社長		
ビジネスプラン 審査員	松原 亨 氏 株式会社パルメソ社長 田辺 郁男 氏 長岡技術科学大学教授 澤田 雅浩 氏 長岡造形大学准教授 菅原 正義 氏 長岡工業高等専門学校教授 内藤 敏樹 氏 長岡大学長		

申込: 6/23(火)~7/29(水)まで、で受付中  
長岡地域の学生(大学・高専・高校)はふるってご参加ください。



起業家塾事前セミナー

**起業って…若者の夢の実現だ!**

大沼喜也氏

長岡パワーエレクトロニクス(株)代表取締役  
博士(工学)

7月15日(水)

14:40 - 16:10 長岡大学232教室

起業家塾に興味がある方は、ぜひ参加してください

主催:長岡大学 共催:長岡市

## 起業家塾事前セミナーと説明会

起業家塾に興味がある方にオススメ!

(8/17~8/20)

起業家塾の事前セミナーと説明会を行います。履修者は必ず集まってください。  
また、起業家塾の履修に興味がある学生も是非参加してください。

【日時】 7月15日(水) 14:40 ~ 16:10  
【会場】 長岡大学 232教室

### ☆ 起業家塾事前セミナー

講演

「起業って…若者の夢の実現だ！」

長岡技大発ベンチャーの講師が起業の楽しさを語ります

起業の苦労や充実感、同世代だからこそ聞ける  
色々な迷い事…この際だから何でも聞いてみよう!

講師

大沼 喜也氏

長岡パワーエレクトロニクス㈱代表取締役  
博士(工学)



### ☆ 起業家塾説明会

「起業家塾の進め方について」

小松俊樹 起業家塾担当教員



参加申込：長岡大学 教務学生課 TEL：0258-39-1600

図表3-7-3 各チームのビジネスプラン概要

会社名： <b>Start up</b> 事業名： <b>ながおか、なう！</b>		
社長	須田 一聖(長岡大学4年)	
総務部長	小黒 修平(長岡大学3年)	
営業部長	笠巻 昇太(長岡技術科学大学3年)	
財務部長	茂岱 亜矢子(長岡造形大学3年)	
製造部長	熊 浩(長岡大学4年)	
コンセプト：ながおかの<今><魅力><暮らし>→ながおか、なう！ 対象顧客：アプリユーザー(利用者)、スポンサー(顧客) 提供価値：現在の長岡情報が一つのアプリで手に入る。アプリに広告掲載。		
会社名： <b>株式会社保食神(ウケモチノカミ)</b> 事業名： <b>日本古来の文化体験ができる神社ホテル</b>		
社長	古市 小絵(長岡大学2年)	
総務部長	柄沢 梨紗(長岡大学2年)	
営業部長	陈 鑫(長岡大学4年)	
コンセプト：日本の文化を味わえる時間と空間 対象顧客：訪日外国人、ファミリー 提供価値：地元野菜を使った料理、日本の神の世界を経験		
会社名： <b>十日町カンパニー</b> 事業名： <b>魔除けしたっけ？幸せを持ち歩コーレ</b>		
社長	五十嵐 健太(長岡大学3年)	
総務部長	福崎 秀一郎(長岡大学3年)	
秘書	中原 紗貴美(長岡大学3年)	
平社員	小川 雄気(長岡大学3年)	
平社員	羅 燦(長岡大学3年)	
コンセプト：魔除けしたっけ？幸せを持ち歩コーレ 対象顧客：子供や10~20代女性の地元住民・観光客、通販利用者 提供価値：魔除け・縁起物、コレクション性、十日町市伝統の周知		
会社名： <b>株式会社合コン</b> 事業名： <b>男女共同作業型合コンの企画</b>		
社長	宮崎 翔(長岡大学4年)	
総務部長	高橋 諒成(長岡大学4年)	
営業部長	藤田 春樹(長岡大学2年)	
コンセプト：男女共同作業型合コン 対象顧客：自治体等(スポンサー)、20~30代の男女(参加者) 提供価値：共同作業でお互いの距離が縮まる合コン		
会社名： <b>NYGs</b> 事業名： <b>一人カラオケ&amp;ダンスゲーム</b>		
社長	山崎 隼斗(長岡大学2年)	
総務部長	小林 昂介(長岡大学2年)	
経理部長	内藤 淳志(長岡大学2年)	
営業部長	薙澤 雄樹(長岡大学2年)	
コンセプト：お1人様解放区~only my stage~ 対象顧客：10~20代のお1人様やダンスの練習をしたい人 提供価値：ストレス解消、非日常提供、高性能機器		

## 8 学生満足度調査等の実施—教育⑧—

### (1) 方針（申請時）

- ・学生満足度調査を全学生対象に毎年1月に、実施する。報告は3月。
- ・但し、実施の前に、満足度調査に意義・位置づけ、調査項目の見直し・検討を行う。FD／SD会議等で検討する。

### (2) 目標（申請時）

- ・学生の大学生活に関する満足度等の調査を、毎年1月に実施し、次年度の教育改善等に役立てる。

### (3) 平成25年度実績と評価

- ・平成26年1月に、ゼミを通じて、満足度調査（「第9回長岡大生の生活と大学についてのアンケート」）を実施した。回収率は85.8%（283人／330人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成26年3月に取りまとめ、公表した。
- ・この満足度調査については、当初、文部科学省のCOCアンケート項目を加える形で、実施する予定であったが、文部科学省からの調査項目が間に合わなかったため、平成25年度は、本学の調査項目のみで実施した。平成26年度は、両調査項目を統合して、実施することが望ましい。

### (4) 平成26年度実績と評価

- ・8～10月FD研究会で調査項目を見直し、10月FD委員会で改定案を作成し、10月教授会にて調査票が決定した。
- ・平成27年1月に、ゼミを通じて、満足度調査（「第10回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。回収率は85.9%（250人／291人）であった。
- ・アンケート集計結果は、平成27年3月に取りまとめ、公表した。
- ・平成27年度は、満足度調査に具体的な改善施策につながる詳細な設問項目を設け、実施することが望ましい。

### (5) 平成27年度方針・目標

#### 【方針】

- ・学生満足度調査・PROGテストの実施・・・学生満足度調査・PROGテスト（社会人基礎力等コンピーテンシー向上測定テスト）を1～3年の全学生対象に行い（起業家塾等でも実施）、次年度への改善点を把握する。

#### 【目標】

- ・学生の大学生活に関する満足度等の調査・PROGテストを実施し、調査結果をふまえた授業、施設、COC事業の改善を行う。
- ・各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、満足度調査（「長岡大生の生活と大学についてのアンケート」）の回収率を平成26年度の85.9%から90.0%以上にアップさせることを目指す。

- ・平成 26 年度の満足度調査の集計結果をもとに、大学施設から授業等全般に渡る改善を行う。特に平成 27 年度は、学修支援の強化を目的として、図書室・多目的室・資格取得センター（C O S）の施設利用を高める（各施設の利用に関する設問項目の回答（よく利用する＋時々利用する）の割合が平成 26 年度のから 5%高まるようにする）。
- ・各学生の情報を適切に把握し、PROGテストの回収率を平成 26 年度の 84.9%から 90.0%以上にアップさせることを目指す。
- ・PROGテストの結果を学生個人に返却し、社会人基礎力向上のための改善点を学生・大学側で共有し、アカデミックアドバイザー制度を通じて改善を進める。

## （6）平成 27 年度計画

- ・平成 27 年度は、次のようなスケジュールでアンケート調査（学生満足度調査）、PROGテストを実施する。

### ★学生満足度調査

8 月～10 月 F D 研究会等で学生満足度調査の見直しを行い、新アンケート調査票を作成する。

- |         |               |
|---------|---------------|
| 12 月    | 調査票印刷         |
| 1 月     | 調査票配布、回収      |
| 2 月～3 月 | 集計・分析・調査報告書作成 |
| 4 月以降   | 諸改善点の集約と改善    |

### ★PROGテスト

- |       |  |
|-------|--|
| 1～2 月 | テスト実施  |
| 3 月   | 集計結果出来   |
| 3 月   | 集計結果をもとにマンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標を設定<br>F D / S D 研究会で結果共有 |
| 4 月   | 結果の分析と結果活用施策の検討  |

## （7）平成 27 年度展開

### a 学生満足度調査

- ・5～7 月・・・F D 部会で調査項目の見直しを行った（学修支援を目的とした施設の改善を実施するために、施設の改善点や施設に対する学生のニーズの把握を目的として、設問項目を見直した）。
- ・満足度調査票・・・見直し項目は以下の通り \*図表 3-8-1 を参照
  - 「問 4 長岡大学の施設に満足しているか⇒問 4 自主的に勉強するために改善してほしい場所、どのように改善してほしいか」
  - 「問 5 諸施設で更に充実、整備して欲しいところ⇒議論しやすくするためにどのような設備、機能が必要か」
  - 「XI d) 出身地に「ベトナム」を追加」。
- ・7 月 21 日 第 4 回 F D 部会で改定案作成・承認
- ・9 月～10 月 大学運営会議に学生満足度調査票提出・検討

- ・ 1月 調査票配布、回収（各ゼミで実施）
- ・ 2月～3月 集計・分析・調査報告書作成
- ・ 4月以降 諸改善点の集約と改善

#### b PROGテスト＝学生の能力測定テスト

- ・ 1年生にPROGテスト実施・・・新1年生（107人）に、平成27年4月30日2限「キャンパスライフ入門」で実施。
- ・ 集計・・・5月22日集計結果出来
- ・ 結果説明会・・・7月29日（水）16:30～17:45、第2回全体FD/SD会議でPROG運用方法の学生に対する説明報告と改善点等についての意見交換を行った（教員・職員向け）。
- ・ 1～2月・・・テスト実施（キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの最終2回で実施）。集計結果をもとにマンツーマン面談で学生と教員が伸ばす能力の目標を設定
- ・ 2月・・・FD/SD研究会で結果共有
- ・ 4月・・・結果の分析と結果のいかに施策の検討

#### （8）まとめ－成果と課題－

- ・ 6～7月FD部会で満足度調査の調査項目を見直し、改定案を作成し、9月大学運営会議と教授会に調査票を報告した結果、若干の修正があり内容が決定した。見直した調査項目は学修支援を目的とした施設の改善を実施するために施設の改善点や施設に対する学生のニーズの把握のための項目である。
- ・ 各学生の情報を適切に把握し、改善に結びつけるため、平成27年1月に、ゼミを通じて満足度調査（「第11回長岡大生の生活と大学に関する調査」）を実施した。回収率は89.2%（1年～4年：290人/325人）で、前年度を4ポイント上回った。但し、目標の「90%以上」にわずかに届かなかった。
- ・ アンケート集計結果は、平成28年3月に取りまとめ、まとめを発表する予定である。
- ・ 平成27年度のPROGテストは1月に行った。回収率は92.7%（1年～3年：241人/260人）で、前年度8ポイント上回り、目標の「90%以上」を達成できた。これは、インフルエンザ等での欠席者への受験機会を別途設けたことが功を奏したと言える。
- ・ PROGテストの結果を学生個人に返却し、アカデミックアドバイザー制度を通じて社会人基礎力向上のため目標設定を行う等、能力向上のための改善点を学生・大学側で共有した。
- ・ 平成28年度は、PROGテストや授業アンケート（28年度改定予定）と満足度調査の調査内容の重複部分を検討し、満足度調査の内容を見直す必要がある。また、具体的な改善策に繋がる必要な設問項目を新たに設け、改善策を検討し、展開することが望ましい。
- ・ PROGテスト結果については、アカデミックアドバイザー制度（平成27年度導入）を通じた社会人基礎力向上のための目標設定（PROGテストの結果を学生個人に返却し、社会人基礎力向上のための改善点を学生・大学側で共有し目標を設定）を継続させる。学生・大学側で目標の達成状況の確認等も行うことが望ましい。
- ・ 満足度調査・PROGテストの回収率向上の工夫を検討する。

図表 3-8-1 学生満足度調査結果（調査票と単純集計結果）

\*以下は、「第 11 回学生長岡大生の生活と大学に関する調査」の単純集計結果

## I 通学方法

(n=290)

問 1 長岡大学への通学に利用している交通手段全てに○を付けてください。

21.0 電車	40.3 バス	40.0 乗用車	39.7 自転車・バイク	44.5 徒歩	3.8 無回答
---------	---------	----------	--------------	---------	---------

## II 利用施設・情報収集について

(n=290)

問 2 長岡大学の施設（教室以外）でよく利用するところはどこですか。（各問 1 つに○）

	よく利用する	時々利用する	あまり 利用しない	利用したこと がない	無回答
a) 1階 事務室	21.7	61.0	15.5	0.3	1.4
b) 1階 就職支援室	7.2	22.4	27.6	40.0	2.8
c) 1階 図書館	22.4	37.2	33.1	5.2	2.1
d) 2階 掲示板	36.9	39.7	16.9	4.8	1.7
e) 2階 ホール・テーブル	45.2	22.4	22.8	7.9	1.7
f) 2階 売店	27.9	44.5	20.3	5.5	1.7
g) 3階 学友会室	5.9	6.9	21.0	64.5	1.7
h) 3階 ギャラリー	9.7	10.3	35.2	42.4	2.4
i) 3階 多目的室	3.8	14.1	41.0	39.0	2.1
j) 3階 資格取得センター (COS)	9.7	29.0	37.6	21.7	2.1
k) 3階 地域連携研究センター	1.0	7.2	28.3	61.4	2.1
l) 4階 教員研究室	5.9	36.6	40.7	15.2	1.7
m) 2号館 3階 コンピュータ自習室	19.3	39.0	29.0	10.7	2.1
n) 3号館 学生食堂	47.6	22.1	21.4	7.9	1.0
o) 3号館 地域交流ホール	5.2	10.0	37.9	44.5	2.4
p) 3号館 部室	12.8	9.3	23.1	53.1	1.7
q) 3号館 体育館アリーナ	12.8	26.2	31.7	27.9	1.4
r) 3号館 トレーニングルーム	2.4	8.6	25.5	61.7	1.7

(n=290)

問3 大学内での次の情報は主にどこで、集めていますか。問2のa～rの記号を記入してください。  
(1つだけでなく、いくつ記入しても結構です)。

授業関係の情報	結果については下表参照
資格取得関係の情報	結果については下表参照
部活・サークル関係の情報	結果については下表参照
アルバイト関係の情報	結果については下表参照
友達関係の情報	結果については下表参照
就職・進学関係の情報	結果については下表参照

	1階 事務室	1階 就職支援室	1階 図書館	2階 掲示板	2階 ホール・テーブル	2階 売店	3階 学友会室	3階 ギャラリー	3階 多目的室	3階 資格取得センター(CO)	3階 地域連携研究センター	4階 教員研究室	2号館 3階 コンピュータ自習室	3号館 学生食堂	3号館 地域交流ホール	3号館 部室	3号館 体育館アリーナ	3号館 トレーニングルーム	無回答
授業関係の情報	20.0	1.0	8.3	70.0	3.4	0.7	1.7	0.7	2.8	3.4	1.0	5.9	4.1	0.3	0.3	0.0	0.3	0.3	12.4
資格取得関係の情報	20.7	2.4	2.1	38.6	1.7	0.3	0.3	0.3	1.7	44.5	0.0	0.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.3
部活・サークル関係の情報	9.7	1.4	0.7	24.1	5.5	0.3	8.3	1.7	1.0	3.1	0.0	0.7	0.3	1.4	1.0	10.3	3.8	0.3	40.7
アルバイト関係の情報	13.1	2.4	0.3	42.8	3.1	0.3	0.3	0.7	0.3	2.1	0.0	0.0	0.3	1.0	0.3	1.0	0.3	0.0	39.0
友達関係の情報	4.5	1.4	2.1	11.0	22.4	2.1	5.9	5.9	2.4	3.1	0.0	0.7	0.7	13.8	2.4	3.4	2.8	0.0	41.7
就職・進学関係の情報	13.4	32.4	1.4	26.6	1.4	0.7	0.3	1.0	1.4	5.9	0.0	3.1	0.7	0.3	0.3	0.7	0.0	0.0	32.8

(n=290)

問4 大学の施設をより学生が活用しやすくなるよう改善することを考えています。自主的に勉強をするために、改善してほしい場所に○をつけてください。また、どのように改善してほしいかも備考欄に記入してください。

	改善してほしい場所に ○をつけてください	どのように改善してほしいか記入してください
a) 1階 図書館	8.3	自由記載設問のため割愛した。
b) 2階 ホール・テーブル	12.8	自由記載設問のため割愛した。
c) 3階 学友会室	6.6	自由記載設問のため割愛した。
d) 3階 ギャラリー	3.1	自由記載設問のため割愛した。
e) 3階 多目的室	2.1	自由記載設問のため割愛した。
f) 3階 資格センター (COS)	5.9	自由記載設問のため割愛した。
g) 3階 地域連携研究センター	0.0	自由記載設問のため割愛した。
h) 4階 教員研究室	0.7	自由記載設問のため割愛した。
i) 2号館3階 コンピュータ自習室	20.7	自由記載設問のため割愛した。
j) 3号館 学生食堂	11.7	自由記載設問のため割愛した。
k) 3号館 地域交流ホール	1.4	自由記載設問のため割愛した。
l) 3号館 部室	7.2	自由記載設問のため割愛した。
m) 改善してほしいものは特にない	50.3	

(n=290)

問5 学生同士で議論しやすくするために、どのような設備や機能が必要だと思いますか。

	必要である	まあまあ 必要である	あまり 必要ない	全く必要 ない	無回答	具体的な希望があれば 記入してください
a) パソコン	45.2	22.4	22.8	7.9	1.7	自由記載設問のため割愛した。
b) プリンター	27.9	44.5	20.3	5.5	1.7	自由記載設問のため割愛した。
c) ホワイトボード	5.9	6.9	21.0	64.5	1.7	自由記載設問のため割愛した。
d) プロジェクター	9.7	10.3	35.2	42.4	2.4	自由記載設問のため割愛した。
e) インターネット環境	3.8	14.1	41.0	39.0	2.1	自由記載設問のため割愛した。
f) その他	9.7	29.0	37.6	21.7	2.1	自由記載設問のため割愛した。

### Ⅲ 授業（学修）について

(n=290)

問6 次の主な科目群ごとに、どのように力を入れたか、当てはまる番号に○をつけてください。また右欄に特に力を入れた科目があれば、その科目名（別紙参照）を記入してください。

	力を入れた	ある程度力を入れた	あまり力を入れなかった	全く力を入れなかった	無回答	特に力を入れた科目
a) 教養科目	24.1	55.9	12.8	3.1	4.1	自由記載設問のため割愛した。
b) 語学科目	17.9	52.1	22.4	4.5	3.1	自由記載設問のため割愛した。
c) キャリア科目	13.8	54.5	22.4	5.2	4.1	自由記載設問のため割愛した。
d) 専門科目	31.0	52.1	12.4	1.7	2.8	自由記載設問のため割愛した。
e) ゼミナール	31.4	54.8	9.7	2.1	2.1	自由記載設問のため割愛した。

(n=290)

問7 情報系と専門系の資格取得について伺います。当てはまる番号に○をつけてください。また、右欄に今学年で取得した資格があれば、資格名（別紙参照）を記入してください。

	力を入れた	ある程度力を入れた	あまり力を入れなかった	全く力を入れなかった	無回答	今年度取得した資格
a) 情報系資格	13.4	14.8	32.8	31.4	7.6	自由記載設問のため割愛した。
b) 専門資格	15.5	19.0	28.3	30.7	6.6	自由記載設問のため割愛した。

(n=290)

問8 授業に対する態度、姿勢について、どのように取り組んだか、当てはまる番号に○をつけてください。また、右欄に特に努力したことがあれば、具体的に記入してください。

	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	無回答	特に努力したこと
a) 授業に欠席しない	28.3	45.9	21.0	3.8	1.0	自由記載設問のため割愛した。
b) 授業に遅刻しない	42.4	40.3	12.8	3.4	1.0	自由記載設問のため割愛した。
c) 授業で質問・発言する	4.1	25.5	49.0	20.0	1.4	自由記載設問のため割愛した。
d) 予習・復習する	5.9	35.5	43.1	13.8	1.7	自由記載設問のため割愛した。
e) 宿題等は必ず行う	37.6	43.8	14.5	3.1	1.0	自由記載設問のため割愛した。

(n=290)

問9 授業時間以外に学習した時間は1日どのくらいですか。当てはまる記号に○をつけてください。

26.9	ほとんどしない	37.2	1時間未満	22.8	1.5時間程度	9.0	2時間程度
2.1	2.5時間程度	1.4	3時間以上	0.7	無回答		

#### IV 学生生活について

(n=290)

問 10 学友会の活動に参加していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

5.5 積極的に参加	25.9 たまに参加	68.3 参加していない	0.3 無回答
------------	------------	--------------	---------

(n=290)

問 11 サークル・同好会に参加していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

17.6 スポーツ系に参加	27.2 文化系に参加	7.9 スポーツ・文化系双方に参加
46.2 どちらも不参加	1.0 無回答	

(n=290)

問 12 主に参加しているサークル等の活動状況をどう評価していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

25.9 自分もサークル全体も活発	9.7 自分は活発だが全体は不活発		
11.4 自分は不活発だが全体は活発	25.2 自分も全体も不活発	9.0 その他	19.0 無回答

(n=290)

問 13 学園祭(悠久祭、昨年 10 月開催)に参加しましたか。主たる参加形態 1 つに○をつけてください。

9.3 実行委員で参加	23.1 模擬店で参加	6.6 展示・イベント等で参加
3.4 ライブ実施で参加	3.1 見に来た(自分ひとり)	15.9 友人と見に来た
2.4 家族と見に来た	34.5 見に来なかった	1.0 その他
0.7 無回答		

(n=290)

問 14 アルバイトをしていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

64.8 している → 問 15 へ	33.4 していない → 問 16 へ	1.7 無回答
--------------------	---------------------	---------

(n=188)

問 15 アルバイトをどの程度していますか。下欄に記入してください。

平均して大体、1 週間に(下表参照)日間、1 週間に約(下表参照)時間
-------------------------------------

1 週間当たりの平均日数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無回答
	2.1	13.3	27.7	35.6	16.5	1.6	1.1	2.1

1 週間当たりの総時間	5 時間未満	1 0 時間未満	1 5 時間未満	2 0 時間未満	2 5 時間未満	3 0 時間未満	3 0 時間以上	無回答
	4.3	17.6	13.3	19.1	26.6	11.7	4.3	3.2

## V 大学在学中の目標について

(n=290)

問 16 長岡大学在学中の目標として重要だと思うことを、1位から3位まで、下欄から選んで、回答欄に、その番号を記入してください。

1位	2位	3位	
52.1	14.1	8.3	将来の方向をみつける
16.2	19.0	17.9	広い教養・ものの見方等を身につける
7.9	19.7	13.4	専門的知識・理解を身につける
5.9	11.7	16.9	社会人になるまでの時間を楽しむ
7.9	19.7	17.9	資格等を取得し、仕事に活かせる能力を身につける
4.5	9.3	18.3	有意義な友達（人間関係）を創る
0.3	1.4	1.7	その他
5.2	5.2	5.5	無回答

## VI 大学生活における心配事等について

(n=290)

問 17 現在の長岡大学における学生生活のなかで、心配事や悩みがありますか。下欄の心配事等から当てはまる番号を選んで○をつけてください（いくつでも結構です）。

23.4 生活に熱意がわからない	32.8 やりたいことが見つからない	3.8 友達のことでの悩みがある
4.5 先生のことでの悩みがある	19.7 授業に興味・関心がわからない	6.2 授業についていけない
26.9 進級や卒業ができるか心配だ	1.4 他の学科に移りたい	6.2 他大学・学校に入り直したい
3.1 大学を辞めたい	8.3 経済的に勉強するのが難しい	9.3 まわりの学生がやる気がない
6.6 就職活動がうまく行かない	5.2 進学先が決められない	8.3 その他
19.0 無回答		

## VII 社会人基礎力等、大学で身につけた能力等について

(n=290)

問 18 あなたの人間性（基本的な生活習慣）を自己評価し、当てはまる番号に○をつけてください。

	十分ある	まあ十分ある	やや不十分 と思う	不十分と思う	無回答
a) 倫理（道徳観） （善悪の判断、思いやり、公共心）	31.7	55.2	11.7	0.3	1.0
b) 自己管理 （約束・ルールを守る、責任感あり）	22.8	51.7	21.4	3.1	1.0
c) 誠実さ （物事に誠実に取り組む、素直な態度）	29.3	49.3	19.7	1.0	0.7
d) マナー （あいさつ、服装、礼儀、話し方等）	27.2	54.5	16.2	1.4	0.7
e) 明るさ （明るくふるまってコミュニケーション）	25.2	42.1	24.8	6.6	1.4
f) 健康 （心身ともに健康）	32.1	39.7	22.1	5.2	1.0

(n=290)

問 19 社会人基礎力（職場・地域社会で活躍する上で必要な能力）が入学時と比べて①どの程度伸びたか、各能力が②どの程度身についたかを自己評価し、当てはまる番号に○をつけて答えてください。

	①どの程度伸びたか					②どの程度身についたか				
	伸びた	ある程度伸びた	あまり伸びていない	伸びていない	無回答	十分身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	無回答
a) 主体性 (物事に進んで取り組む力。積極性)	14.1	53.1	27.9	2.4	2.4	6.9	59.7	25.5	1.7	6.2
b) 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力。リーダーシップ)	11.0	44.5	34.5	7.9	2.1	7.6	42.8	36.6	6.9	6.2
c) 実行力 (目的を設定し確実に行動する力)	12.4	55.2	26.2	3.4	2.8	10.3	50.0	31.0	2.4	6.2
d) 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力)	10.0	50.3	33.4	4.1	2.1	7.2	47.9	34.5	4.8	5.5
e) 計画力 (課題解決の過程を明示し準備する力。組み立て力)	11.7	47.9	32.4	5.5	2.4	7.9	49.3	32.4	4.5	5.9
f) 創造力 (新しい価値を生み出す力)	9.0	45.5	39.3	4.1	2.1	5.5	43.4	40.3	5.2	5.5
g) 柔軟性 (意見や立場の違いを理解する力。相手の立場理解)	16.6	56.6	23.1	2.4	1.4	15.2	56.2	21.0	1.7	5.9
h) 状況把握力 (自分と関係者の関係を理解する力)	19.0	57.9	18.6	2.4	2.1	15.5	58.6	19.0	1.4	5.5
i) 規律性 (社会のルールや約束を守る力)	22.8	56.9	15.9	2.8	1.7	21.7	55.5	15.9	1.4	5.5
j) ストレスコントロール力 (ストレス発生源に対応する力。忍耐強さ)	22.1	42.1	24.8	9.3	1.7	19.7	44.8	24.1	5.9	5.5
k) 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	8.6	45.2	34.1	9.3	2.8	6.9	42.8	37.2	7.6	5.5
l) 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力)	23.4	55.5	16.2	2.8	2.1	21.0	55.5	16.9	1.0	5.5

(n=290)

問 20 専門的知識等につき、問 19 と同様の方法で、答えてください。

	①どの程度伸びたか					②どの程度身についたか				
	伸びた	ある程度伸びた	あまり伸びていない	伸びていない	無回答	十分身についた	まあ十分身についた	あまり身についていない	身についていない	無回答
a) 情報処理の力	13.1	54.8	26.9	3.1	2.1	9.0	52.8	29.0	2.4	6.9
b) 専門分野の知識・理解 (専門分野の資格取得含む)	15.2	49.3	28.3	4.8	2.4	7.6	46.2	36.6	3.4	6.2
c) 幅広い知識やものの見方 (幅広い教養知識等の獲得)	9.7	59.3	26.2	1.7	3.1	7.2	59.0	26.2	1.0	6.6
d) レポート・論文等を書く力 (レポート、論文の書き方等)	16.9	53.8	24.8	2.4	2.1	11.7	49.0	31.7	2.1	5.5
e) 外国語の力 (英語、中国語、韓国語、日本語)	8.3	37.9	36.2	15.9	1.7	5.5	31.7	44.8	12.4	5.5
f) 職業・キャリア形成に関する知識・ノウハウ・スキル	8.3	53.8	33.4	2.1	2.4	5.9	45.9	39.0	3.1	6.2

## VII 建学の精神、教育目的及び満足度等評価について

(n=290)

問 21 長岡大学の建学の精神について知っていますか。1つ○を付けてください。

☆ 幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進

☆ 地域社会に貢献し得る人材の育成

52.1 知っている	45.9 知らない	2.1 無回答
------------	-----------	---------

(n=251)

問 22 長岡大学は、教育目的として、＜学生に、充実感、達成感、満足感を＞を掲げています。授業、学生生活、能力形成等総合的に判断して、①現状評価、②上昇程度（前年度と比べて）を評価し、当てはまる番号に○を付けてください。但し、1年生は、現状評価で答えてください。

	①現状評価					②上昇程度（2～4年生のみ）				
	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	無回答	上昇	ある程度上昇	あまり上昇していない	上昇していない	無回答
a) 授業、学生生活等を有意義に過ごしているか	15.9	51.4	25.9	4.5	2.4	15.5	48.1	25.4	5.0	6.1
b) 資格取得、サークル活動等の目標達成など	11.0	41.0	32.4	13.1	2.4	14.9	40.9	27.6	11.6	5.0
c) 授業内容や、能力向上に満足しているか	9.0	50.0	32.4	6.2	2.4	10.5	47.5	30.9	6.1	5.0

**XI 最後に、学生の皆さんのことについて、お答えください。それぞれ、1つ○をつけてください。**

(n=290)

(1) あなた自身について

a) 性別	71.4 男性	27.6 女性	1.0 無回答		
b) 学年	35.5 1年生	25.5 2年生	20.3 3年生	16.6 4年生	2.1 無回答
c) 出身高校等の学科	63.4 普通科	4.1 商業科	1.7 工業科	2.4 農業科	
	10.0 総合学科	4.8 定時制・単位制・通信制		8.6 その他	4.8 無回答
d) 出身地	73.1 新潟県内	3.4 新潟県外	12.1 中国	4.8 モンゴル	
	2.4 ベトナム	0.3 その他	3.8 無回答		
e) 現在の住まい	57.2 自宅	37.6 自宅外	5.2 無回答		
f) 現在の健康状態	45.2 良好	32.4 やや良好	15.5 やや不良	2.8 不良	4.1 無回答
g) 現在の体力	18.3 自信あり	35.2 やや自信あり	27.2 やや自信なし	14.8 自信なし	4.5 無回答

(n=290)

(2) 長岡大学に入学したことについて、どう思っていますか。

22.8 良かった	53.8 まあ良かった	13.4 やや後悔している	5.9 後悔している	4.1 無回答
-----------	-------------	---------------	------------	---------

(n=290)

(3) あなたは、「長岡大学の学生」であることに、誇りを持っていますか。

12.4 持っている	42.4 やや持っている	30.0 あまり持っていない	11.0 持っていない	4.1 無回答
------------	--------------	----------------	-------------	---------

(n=48)

(4) 4年生のみお答えください。

A 就職が決まった方は、就職に満足していますか。

33.3 満足	35.4 やや満足	6.3 やや不満	2.1 不満	22.9 無回答
---------	-----------	----------	--------	----------

(n=74)

B 全ての4年生に伺います。4年間の大学生活をどう評価しますか。

18.8 満足	50.0 やや満足	8.3 やや不満	12.5 不満	10.4 無回答
---------	-----------	----------	---------	----------

※質問はこれで終了です。ご協力感謝いたします。集計後、結果を報告します。

## IV <研究>における事業展開

### 9 人口減少問題に関する調査研究（研究成果の地域還元）－研究①－

#### （1）方針（申請時）

- ・3課題に対応した調査研究を行い、その成果を提言、報告書、シンポジウム等の形で、地域に還元する。
- ・地域課題に対応した調査研究として、「長岡地域産業競争力に関する調査研究（平成25年度）、「長岡地域<創造人材>の調査研究」（平成26年度）、「少子高齢化・人口減少の影響に関する調査研究」（平成27年度）、「ボランティア活動に関する調査研究」（平成28年度）を実施し、その成果を公開シンポジウムで公表して社会に還元するとともに、提言を行う。
- ・また、地域課題研究会を開催し、その成果を講演会・公開シンポジウム等の形で、社会還元を行う。

#### （2）目標（申請時）

- ・上記4研究を着実に実施し、シンポジウム等で社会還元を行う。

#### （3）平成25年度実績と評価

- ・平成25年度は、「新潟・長岡地域産業（製造業等）競争力に関する調査研究」を実施した。県内製造業企業820社にアンケート調査を実施し（平成25年9月）、平成25年11月22日に公開シンポジウムを開催し（約100名参加）、地域産業の競争力向上の提案を行った。
- ・調査結果は一定に、参考になるものであった。

#### （4）平成26年度実績と評価

- ・3つの地域課題の1つの「産業活性化」課題に応える調査研究として、「新潟・長岡地域における<創造人材>に関する研究」を行った。
- ・主として、<創造人材>に関するアンケート調査を行った。新潟県内企業約2000社と長岡大学卒業生約790名を対象に、平成26年8月に行った。企業の回収率7.7%、個人回収率13.8%。
- ・創造人材＝「成果をあげるのに必要だと思う能力・資質」をとりまとめ、11月21日にシンポジウム（2014長岡大学地域連携研究センターシンポジウム）「企業競争力を支える<創造人材>の育成へ！－創造人材調査を中心にして－」を開催し、報告した。約100名の参加であった。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・<創造人材>は十分ではない、とくに、新事業開発を推進する人材とは非常に不十分という状況であると思われる。企業競争力を高めるためには、<創造人材>をどう確保するかがポイントであり、今後、この点への問題提起を強める必要がある。

第2に、本学の社会人向け講座（イノベーション人材養成講座等）の組立てと講師陣の充実をこの調査結果を踏まえて、具体化する必要があること。

第3に、創造人材の養成という点では、さらに具体化して、とくに後継経営者、起業家の養成へと進む必要がある。

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

- ・新潟・長岡地域＜少子高齢化・人口減少＞調査研究の実施・・・全国の市町村へのアンケート調査（約 1750）をベースにして、新潟県内市町村及び長岡 11 地域（合併前旧市町村エリア）の将来人口推計を行う。同時に、学生・生徒の就業意識調査や市内地域の活動状況調査（約 100）等を踏まえ、さらに、人口減対策が進んでいる地域へのヒアリングを行い、人口減少社会・地域活性化方策をとりまとめ、その成果をシンポジウムで公表する（11 月）。その議論も踏まえて、最終報告書を作成する。

### 【目標】

平成 27 年度は以下の調査・研究活動を実施する。

- a 全国の市町村の人口動向及び人口減少対策をアンケートにより調査し、有効な方策の検討を行う。
- b 都道府県別および市町村別将来人口推計については、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計があるが、長岡市の旧市町村別にはそれがないため、当該地域の将来人口推計を別途行う。
- c 県内市町村の人口減少による社会経済への影響を把握できるモデルを構築し、各市町村の将来像を描く。
- d 学生・生徒の就業意識調査や市内地域の活動状況調査を実施する。
- e 以上の調査研究を踏まえシンポジウムを実施し、報告書を作成する。

## (6) 平成 27 年度計画

次のスケジュールで、＜少子高齢化・人口減少＞調査研究を行う。

- a 人口動向・人口減少対策に関するアンケート調査の実施（6 月～7 月）、集計（8 月～9 月）、取りまとめ（10 月）。
- b 長岡市内地域別将来人口推計（8 月）
- c 人口減少による社会経済影響把握モデルの構築（7 月～8 月）、将来予測（9 月）、影響分析（10 月）
- d 就業意識調査（若者・学校向けのアンケート調査も含む）の実施（7 月～9 月）、とりまとめる（10 月）。
- e シンポジウムにて成果を公表する（11 月 20 日（金））。
- f 最終報告書を作成する（2 月～3 月）。

## (7) 平成 27 年度展開

- a 7～8 月・・・全国の 1,741 市区町村に対し、人口減少対策アンケート調査を実施した。8 月末現在で 543 件の回答があり、回収率は 31.2%であった。  
\*アンケート調査票は、図表 4-9-1 を参照されたい
- b 調査結果・集積を 10 月中に行った。
- c 2015 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム・・・11 月 20 日（金）に長岡グランドホテルで、シンポジウム「人口減少時代と長岡地域活性化の方向－長岡地方創生

への視点」を開催した。本調査精勤者による結果報告（基調報告：長岡大学鯉江康正教授）をうけて、人口減少時代における長岡地域の創生・活性化をテーマに、活発なパネルディスカッションが行われた。約 100 名の市民、企業人等の参加をえて、盛況であった。

＊同シンポ案内は図表 4－9－2 を参照されたい。

＊また、シンポジウムの討論内容は、平成 28 年 11 月発行予定の『地域連携研究』第 3 号（長岡大学地域連携研究センター年報）に掲載する予定である。

- d シンポジウムの基調報告をベースに全体的な調査研究報告書『人口減少に関する全国市区町村アンケート調査結果』(150 頁) をとりまとめ、ご回答いただいた市区町村に対し、送付し調査結果の報告とした（平成 28 年 3 月）。

#### （8）まとめ－成果と課題－

まず、全国の市区町村の人口減少の実態と対策をまとめることができた。おそらく、全国初の調査と思われ、回答市区町村だけでなく、国、県にも報告書を送付し、参考にしていただけるようにする予定である。

第 2 に、長岡地域においても地方創生の総合戦略が策定され地方創生・地域活性化が進みつつ現状において、人口問題の議論の参考資料として、活用いただいた。

第 3 に、さらに、次年度は引き続き、新潟県内・長岡地域の人口問題に取組み、地方創生に貢献する計画である。

図表 4-9-1 人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査票

平成 27 年度長岡大学 COC 事業

人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査

長岡大学地域連携研究センター

本調査における市区町村とは、全国市町村と東京都特別区を単位とします。

問 1. 貴市区町村およびご回答いただいた方についてお答えください。

貴市区町村名	都道府県：	市区町村名：
貴部署名		
ご担当者名		
ご連絡先	電話	
	FAX	
	E-mail	

問 2. 貴市区町村における人口増減についてお伺いします。

問 2-1 昭和 50 年（1975 年）から平成 26 年（2014 年）までの貴市区町村の総人口（国勢調査ベース、10 月 1 日時点）をお伺いします（市町村合併があった場合には、合併以前の市町村の人口の合計をご記入ください）。

国勢調査人口	昭和 50 年（1975 年）	人
	昭和 55 年（1980 年）	人
	昭和 60 年（1985 年）	人
	平成 2 年（1990 年）	人
	平成 7 年（1995 年）	人
	平成 12 年（2000 年）	人
	平成 17 年（2005 年）	人
	平成 22 年（2010 年）	人
推計人口（*1）	平成 26 年（2014 年）	人

（\*1）推計人口は、国勢調査ベースのものをお願いします。たとえば、国勢調査人口を基礎に、毎月の住民基本台帳による増減数を加減した人口をさします。

問 2-2 平成 22 年（2011 年）以降の貴自治体の人口動態状況（住民基本台帳ベース）についてお伺いします。

人口動態（下表の出生者数等）は、各年 10 月 1 日時点の数値（前年の 10 月 1 日以降の 1 年間の数値）を記入してください。10 月 1 日時点の数値でない場合は年間の計算期間を余白にご記入ください。また、対象は日本人に限定してください。

さらに、移動の理由が分かればその数もご記入ください。

	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
出生者数（人）					
死亡者数（人）					
転入者数（人）					
職業					
住宅					
学業					
家族・戸籍					
その他					
不明・無回答					
転出者数（人）					
職業					
住宅					
学業					
家族・戸籍					
その他					
不明・無回答					

（移動の理由例）

1. 「職 業」……就業、転勤、求職、転職、開業など職業関係及び出稼ぎ、出稼ぎ先からの帰郷による移動。
2. 「住 宅」……家屋の新築、公営住宅・借家への移転など住宅の都合による移動。
3. 「学 業」……就学、退学、転校など学業関係による移動（単身移動に限定）。
4. 「家族・戸籍」……移動の直接の原因となった者に伴って移動する家族の移動。
5. 「その他」……上記以外による移動及び不詳。

問 3. 問 2-2 の質問で、人口が増えている市区町村の方に、伺います。人口が増えている要因・理由について、下欄にご記入ください。

--

問 4. 問 2-2 の質問で、人口が減少している市区町村の方に、伺います。貴市区町村への影響について、下記の質問にお答えください。

問 4-1 人口減少は貴市区町村にとって、プラスの影響とマイナスの影響のどちらが大きいとお考えですか。該当する番号に1つだけ○を付けてください。

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. プラスの影響が大きい。  | 2. プラスの影響がやや大きい。  |
| 3. どちらとも言えない。   | 4. マイナスの影響がやや大きい。 |
| 5. マイナスの影響が大きい。 |                   |

問 4-2 人口減少によるマイナスの影響について、現在顕在化しているものと、今後重大な問題になると予想されるものを、それぞれ5つまで選択し○をつけてください。

	人口減少によるマイナスの影響	現在の影響	今後の影響
1	集落の管理ができなくなり、自然環境が悪化する。		
2	世帯減少をまねき、空き家問題が顕在化する。		
3	学校等の統廃合が進み、遠距離通学者が増加する。		
4	人間関係が希薄化し、日常的な見守りや支え合い等の共助が困難になる。		
5	労働力の減少が起こり地域の経済・産業が維持できなくなる。		
6	企業が求める高度な専門的人材、技術的人材が不足する。		
7	税収が減少し、財政破綻の危険性が増す。		
8	企業や事業所が減少し、投資も行われなくなり、地域の活力が失われる。		
9	高齢化に伴い、農林水産業就業者は増えるが、競争力は弱くなる。		
10	建築物着工数や公共投資の減少により、地域経済は疲弊していく。		
11	新たな観光サービスを提供できず、交流人口が減少する。		
12	小売店や医療機関などが減少し、交通弱者の生活ができにくくなる。		
13	雇用の場が減少し、転入が減少し、転出が増加する。		
14	高齢化に伴い、社会保障費（医療・介護）が増加する一方で、若者が減り住民負担が増加する。		
15	高齢者をターゲットにした犯罪が増加する。		
16	その他（具体的にご記入ください）		

問 5. 貴市区町村の人口減少対策についてお伺いします。

問 5-1 貴市区町村が現在実施している施策及び今後予定している施策をお聞かせください。

現在実施している施策（現在）については、実施しているものすべてに○をつけてください。

今後実施予定の施策（予定）については、現在実施している施策の継続および検討中、新たに実施予定の施策すべてに○をつけてください。

分 野	施 策	現在	今 後		
			継続	検討中	新たに実施予定
行財政改革					
	1. 公共施設の立地最適化				
	2. 人口減少問題庁内検討部署の設置				
	3. その他（具体的に）				
防災・危機管理					
	4. 災害に強いまちづくり事業				
	5. 地域を支える防災リーダーの育成				
	6. 木造住宅耐震支援事業				
	7. ファミリー世帯向け住宅建替促進事業				
	8. 住宅除雪支援事業、克雪住宅支援				
	9. その他（具体的に）				
環境					
	10. 自然と調和した住環境づくり <新築・購入への支援金>				
	11. 快適な生活環境づくり<ごみ処理器機等への購入費補助>				
	12. その他（具体的に）				

分 野	施 策	現在	今 後		
			継続	検討中	新たに実施予定
保健福祉・少子高齢化					
	13. 一般不妊治療費助成				
	14. 子どもの医療費助成				
	15. 複数の子供がいる世帯への日常生活用品や支援金の支給				
	16. 婚活イベントの開催				
	17. 待機児童解消に向けた取り組み				
	18. その他（具体的に）				
農林水産					
	19. 農業経営担い手育成事業				
	20. 6次産業化に取り組む事業者等への商品開発及び販路開拓支援				
	21. その他（具体的に）				
商工・労働					
	22. 雇用の拡大＜企業立地促進雇用拡大助成金等＞				
	23. 企業誘致＜固定資産税、都市計画税、事業所税の減税等＞				
	24. 産業振興による人口流出対策＜企業への相談業務及び支援＞				
	25. 空き店舗を活用し店舗・オフィスを立地する方への補助制度				
	26. その他（具体的に）				
教育・文化					
	27. 小中一貫教育、学力向上推進事業等				
	28. いじめ解決推進事業				
	29. 少人数学級編制の実施				
	30. 子供のいる世帯への育英資金の支給				
	31. 学校教育施策の充実＜エアコンの設置、特色ある教育＞				
	32. その他（具体的に）				

分 野	施 策	現 在	今 後		
			継 続	検 討 中	新 た に 実 施 予 定
地域振興・まちづくり					
	33. 移住に興味がある方や希望される方への、住まいや雇用の情報等の発信				
	34. 中山間地域での起業を支援する制度等				
	35. 地域資源を活かした交流人口拡大施策				
	36. 空き家バンク調査事業				
	37. その他（具体的に）				
その他					
	38. 本市の良さを「住む」という視点からわかりやすく紹介するPRツールの作成				
	39. 首都圏等での移住促進イベント・セミナーの開催				
	40. 新婚世帯家賃補助制度				
	41. 子育て世帯家賃補助制度				
	42. その他（具体的に）				

問5-2 貴市町村が現在実施している施策のうち効果が上がっている施策をお聞かせください。（3つまで）

問5-1の 施策番号	施策の目的・概要	効果

問 5-1 の 施策番号	施策の目的・概要	効果

問 5-1 の 施策番号	施策の目的・概要	効果

問 6．人口問題に関するご意見をご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

図表 4-9-2 長岡大学シンポジウム案内



学校法人 中越学園  
**長岡大学**

平成27年度長岡大学地(知)の拠点(COC)整備  
＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム事業



文部科学省  
**地(知)の拠点**

## 2015長岡大学地域連携研究センターシンポジウム

# 人口減少時代と長岡地域活性化の方向

### －長岡地方創生への視点－

長岡大学は、本学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が平成25年度文部科学省「地(知)の拠点(COC)整備事業」に採択されましたが、昨年、このCOC事業の一環として、「企業競争力を支える＜創造人材＞の育成へ」のテーマでシンポジウムを開催しました。今年度は、引き続きCOC事業として、「人口減少時代と長岡地域活性化の方向－長岡地方創生への視点－」をテーマにシンポジウムを開催します。シンポジウムでは、長岡市地方創生総合戦略を推進している各界の方々を中心に、今後の長岡地域の活性化方向＝地方創生への視点について、討論したいと思います。地方創生に関心をお持ちの皆様をはじめ、多くの皆様の参加をお待ちします。

参加費  
無料

平成27年

日時

11月20日(金)

14:30～17:00 (14:00～受付開始)

会場

長岡グランドホテル  
悠久の間

〈第1部〉 基調報告 **人口減少時代と長岡地域活性化の方向** 長岡大学教授 鯉江 康正

〈第2部〉 パネルディスカッション **人口減少時代と長岡地域活性化の方向** ー長岡地方創生への視点ー

パネリスト 大森 政尚氏 大森木工株式会社 代表取締役  
 栗原 里奈氏 「NPO法人思いのほか」代表理事、「移住女子」  
 小柳 徹氏 株式会社北越銀行 コンサルティング営業部副部長  
 長谷川和明氏 長岡商工会議所事務局 次長  
 中村 英樹氏 長岡市市長政策室 政策企画課課長  
 鯉江 康正 長岡大学教授  
 コーディネーター 原田 誠司 長岡大学地域連携研究センター 運営委員長

■主催：長岡大学地域連携研究センター  
 ■後援：長岡市・長岡商工会議所・公益財団法人にいがた産業創造機構  
 NPO法人長岡産業活性化協会NAZE・株式会社北越銀行



〈申込方法〉  
 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
 FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX  
 番号に送信してください。  
**FAX:0258-39-9566**  
 申込締切：平成27年11月17日(火)

〈お問い合わせ・申込先〉  
 長岡大学地域連携研究センター 担当：山田・恩田  
 〒940-0828 長岡市御山町80-8  
**TEL:0258-39-1600(代)**  
**0258-39-1902(直通)**  
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>  
**e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp**



## 10 地域志向教育研究（地域との共同研究）－研究②－

### （1）方針（申請時）

- ・上記の4地域課題研究以外に、地域志向教育研究（毎年5～6名教員参加）を推進する。

### （2）目標（目標）

- ・平成25年度の教員の地域志向教育研究は5件、参加教員5名程度とする。テーマは、自治体環境報告書分析、中小企業承継計画、公共施設の老朽対策など。
- ・平成29年度は、年間6件、参加教員10名程度の地域志向教育研究をめざす。

### （3）平成25年度実績と評価

- ・「地域志向教育研究の手引」を作成し、10月から、5名（件）の申請を公募した（対象教員＝常勤教員、1件当たり50万円、予算総額は2,500千円）。
- ・平成25年10月30日に、次の5名（件）を地域志向教育研究経費として選考した。経費総額は、5件、1,760千円（予算は2,500千円）。
  - a 「長岡市区域公共施設ビンテージのGISを活用したデータ分析」内藤敏樹、104千円
  - b 「新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状を探るための予備調査」西俣先子、404千円
  - c 「地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究－北越紀州製紙のケース－」松本和明、300千円
  - d 「中越地域の企業系譜と産業系譜作り」権 五景、452千円
  - e 「『ながおかバル街』による中心市街地・店舗活性化の研究」中村大輔、500千円
- ・3月に成果報告を受けたが、時間不足で、中間とりまとめのレベルにとどまった。次年度も継続して、成果をとりまとめる必要がある。

### （4）平成26年度実績と評価

- ・平成26年度は、8件・人の地域志向調査研究を、申請経費を予算枠に収めることを条件に、を採択した。
- ・平成25年度の地域志向調査研究成果発表会を9月に開催した（平成25年度は研究期間が半年であったため成果発表ができなかったため）。
- ・平成26年度の地域志向調査研究成果発表会は3月に開催した。
- ・平成26年度の地域志向教育研究報告書を『長岡大学 地域志向教育研究ブックレット』（ISSN登録予定）シリーズとして、5件・人（各200部印刷）刊行し、各界に配布した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・平成26年度の取組件数が8件・人になり、前年度から増加したことは、望ましい成果であった。また、成果発表会を開催し、平成26年度の成果をブックレットとして5件・人が原稿化し、刊行できたことは、成果を地域に提供・公開する上で、大きな貢献となる。第3に、テーマについては、今後は、より地域で解決が望まれる課題について、取り組む方法を検討する必要がある。それにより、地域の産官学連携をさらに促進することに貢献できる。

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

- ・地域志向教育研究の実施・・・実施要領にもとづき本学常勤教員への公募を早期に実施し（5月）、5件程度を採択する。中間発表（10月）を経て、2月に成果発表を行う。成果論文等は、地域連携研究センター研究年報等に掲載する。

### 【目標】

- ・平成 26 年度の調査研究を継続して、成果をとりまとめるとともに、平成 27 年度新規教員の申請を促進し、前年度と同規模の調査研究結果（件数、内容ともに）をめざす。
- ・成果発表の方法（発表会、ブックレットの刊行）も前年度と同様に、行う。

## (6) 平成 27 年度計画

- ・4～5月に、平成 26 年度の地域志向教育研究経費の公募を行う。公募件数は、5月中旬時点では目標数に達しないので、6月下旬（推進本部会議）まで、公募期間を延長する。申請総額が予算総額を上回る場合は、抑制的支出に心がけ（前期）、後期に、調整を行う。
- ・6月に、平成 27 年度地域志向教育研究経費の最終選考を行う。
- ・10月に、同上調査研究の中間報告会を開催し、中間点検を行う。
- ・2月に、とりまとめ状況の検討会議を開催し、成果発表の仕方等につき、最終的結論をうる。
- ・3月に、研究報告をとりまとめる。

## (7) 平成 27 年度展開

- ・公募期間を延長し、平成 27 年度地域志向教育研究課題は図表 4-10-1 に示す 7 人・件に決定した。なお、申請総額は予算総額を上回っているため、抑制的支出に心がけ、後期に、最終調整を行うこととした。

図表 4-10-1 平成 27 年度地域志向教育研究費一覧

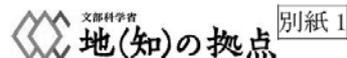
教員名	研究課題	予算額（円）
西俣 先子	新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点、県内企業の環境金融活用現状を探るための調査（継続）	500,000
松本 和明	地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究-北越紀州製紙のケース-（継続）	350,000
中村 大輔	長岡市域の製造業における管理会計システムの普及に関する研究	500,000
権 五景	中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作りから見えてくるもの（継続）	500,000
児嶋 俊郎	新潟における戦争の記憶（継続）	331,400
原田 誠司	地域産業界が求める若者人材ニーズ等に関する基礎調査	437,000
山川 智子	地域の『温泉』の特色と魅力、および地域資源としての活用方向	500,000
	合 計	3,118,400

- ・地域志向調査研究・中間報告会・・・12/9（水）14:40～、於・第5会議室で開催した。7名の教員が順次、中間発表を行った。
- ・平成27年度＜地域志向教育研究＞成果発表会・・・日時：平成28年3月2日(水)13:30～17:00、会場：226講義室。上記7名の教員が成果発表を行った。発表方法は、各人、発表14分＋質疑10分＋交代1分（計25分）の時間配分で行った。外部からの参加者は2名であった。
- ・平成27年度成果・・・原田、松本は『地域志向教育研究ブックレット』Vol11、2として刊行した。他の6名の教員からは、報告書が提出され、次年度さらに深めて成果物を作成することとした。

#### （8）まとめー成果と課題ー

- ・前年度に引き続き、8人・件の地域をテーマにした調査研究を行うことができた。その意味では、まあまあという状況であった。
- ・しかし、成果という観点から見ると、『地域志向教育研究ブックレット』として公刊できたのは、2人・件に留まる。報告者にはまとめたが、公刊は次年度というのが現状である。助成の目的からして、各教員の意思を尊重する必要があるが、成果は確実に公刊することをめざしたい。
- ・平成28年度から本学もCOC+に参加するが、COC+には地域志向教育研究経費は計上されていない。本学は継続できるので、COC事業の残り2年に成果をあげることが大きな課題である。

図表 4-10-2 平成 27 年度＜地域志向教育研究＞成果発表会



長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

## 平成 27 年度＜地域志向教育研究＞成果発表会

日 時： 平成 28 年 3 月 2 日 (水) 13:30～17:00

会 場： 長岡大学 226 講義室

<<< 次 第 >>>

総合司会

地域連携研究センター調査研究部会長

☆はじめにー地域志向教育研究についてー……………原田 誠司 13:30～13:40

① 中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作りから見えてくるもの（継続）  
……………権 五景 13:40～14:05

② 新潟における戦争の記憶（継続）……………児嶋 俊郎 14:05～14:30

③ 長岡市域の製造業における  
管理会計システムの普及に関する研究……………中村 大輔 14:30～14:55

④ 新潟県の中小・地域金融機関による  
持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点  
県内企業の環境金融活用現状を探るための調査（継続）……………西俣 先子 14:55～15:20

休憩（15 分間）……………15:20～15:35

⑤ 地域産業界が求める若者人材ニーズ等に関する基礎調査……………原田 誠司 15:35～16:00

⑥ 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究  
-北越紀州製紙のケース-（継続）……………松本 和明 16:00～16:25

⑦ 地域の『温泉』の特色と魅力、  
および地域資源としての活用方向……………山川 智子 16:25～16:50

（参考）発表時間について

1 課題につき、発表 14 分＋質疑 10 分＋交代 1 分（計 25 分）

1 鈴	発表終了 2 分前	12 分経過時
2 鈴	発表終了（質疑開始）	14 分経過時
3 鈴	質疑終了	24 分経過時

## 1 1 平成 28 年度ボランティア活動調査研究準備（研究成果の地域還元）

### －研究③－

#### （1）方針（申請時）

- ・平成 28 年度実施予定の「ボランティア活動に関する調査研究」の準備作業を行う。

#### （2）目標（申請時）

- ・研究会等により、アンケート票作成等次年度に入り、調査が可能となるような事前準備を行う。

#### （3）平成 25 年度実績と評価

- ・講演「長岡市の地域課題について」（長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村健史氏）により、地域課題の認識を深めた（平成 25 年 10 月 30 日実施）。

#### （4）平成 26 年度実績と評価

- ・長岡地域人口問題研究会を設立し、調査研究の枠組みを検討した（メンバー：長岡市政策企画課、長岡商工会議所、ホクギン経済研究所＋本学 7 名）。
- ・研究会は、4 回（11～3 月まで）開催した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・以下を平成 27 年度の取組方向として確認できた。人口推計地区は県内市町村及び長岡市の 11 地域（合併前の旧市町村）を対象にする。人口減少による影響把握および地域活性化策の個別研究（地域経済への影響分析、大学・専門学校卒業後の就職意識、子育て世代の地域居住に対する意識、食料品店の店舗数を用いた地域の利便性等）を行う。

#### （5）平成 27 年度方針・目標

##### 【方針】

- ・平成 28 年度の「ボランティア活動に関する調査研究」の準備作業・・・9 月から平成 28 年度実施予定のボランティア活動に関する調査研究の準備を開始する（ボランティア問題研究会設立）。

##### 【目標】

- ・平成 27 年 10 月には、ボランティア問題研究会を設立する。
- ・同研究会で、平成 28 年度の調査研究の枠組みを検討し、アンケート票作成などの準備を行う。

#### （6）平成 27 年度計画

次のスケジュールで進める。

- ・9 月までに、ボランティア問題研究会のメンバーを決定する（自治体、NPO 団体等）
- ・10 月から、月 1 回程度の研究会で、調査研究の枠組み（アンケート対象、アンケート項目、ヒアリング対象等）を検討する。
- ・3 月には、調査研究の枠組みを決定する。その際、次年度の調査研究を円滑にスタートさせるために、アンケート票を完成させる必要がある。

## (7) 平成 27 年度展開

- ・ボランティア問題研究会の準備を進めるため、イベント企画とメンバー候補の選定を始めた。
- ・ボランティア問題研究会設立に向けた意識啓発のために交流会を学園祭時に開催した。  
10月24日(土) 10:00~12:00 長岡大学 学生食堂  
「来て！見て！聞いて！ボランティア」  
アンケート調査のための事前ヒアリングなどを行った。  
9団体が参加して、意見交換するとともに、学生をボランティアの現場につなげることができた。
- ・ボランティア問題研究会の準備会に向けて、長岡市市民協働推進室やボランティアコーディネーターを配置している長岡市社会福祉協議会と打ち合わせを行い、次年度調査の枠組み(とくにボランティア活動に関するアンケート実施)を協議した。

## (8) 平成 27 年度まとめー成果と課題ー

- ・ボランティア交流により、ボランティア活動団体の課題は、「ボランティア団体間連携」「ボランティア情報」「ボランティアの高齢化」などほぼ同じであり、具体的な対処法については今後の研究会で話し合うことが望まれた。
- ・ボランティア問題研究会準備会の設立について、長岡市社会福祉協議会の協力をいただいた。  
とくに、長岡市内で活動しているボランティアのアンケート実施を共同で行うこととなった。  
また、まちなかキャンパス長岡においてもボランティア講座を開催していたり、民間の福祉施設でもボランティアコーディネーターをしていたりと、さまざまな活動がされているので、研究会設立に向けた委員の選考も考慮する必要がある。
- ・次年度の「ボランティア活動に関する調査研究」に向けたアンケート調査票設計、ヒアリング対象等の準備を急ぐ必要がある。

## V <社会貢献>における事業展開

### 1 2 高齢化・人口減社会における地域活性化の推進―社会貢献①―

#### (1) 方針（申請時）

- ・高齢化・人口減少社会における地域・コミュニティの衰退状況の防止、再生のため、①まず本学所在の悠久山地区の活性化、②市内他地域（越路、山古志、栃尾等）の活性化にむけた貢献活動に取り組む。
- ・方法―上記研究成果の具体化の上に立ち、市活性化組織や他地域との連携・ネットワーク形成を追求する。

#### (2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→地域活性化の取組を「地域活性化研究会」を立ち上げて検討し、取組方針（本学の教育、大学の役割）を策定する。
- ・平成 29 年度→悠久山地区、東山地区での活性化の取組成果を確認できるレベルまで進める。また、中山間地（山古志、栃尾地区等）も含めて市内地区の活性化ネットワークづくりのめどをつける。

#### (3) 平成 25 年度実績と評価

- ・実績―地域元気フォーラム（2月、100名参加）、悠久山・東山フォーラム（3月、70名参加）を開催し、次年度以降の地域活性化に向けた重要な一歩となった。長岡地域の地域活性化やボランティア活動の諸計画の取りまとめもできた。
- ・評価―悠久山・東山フォーラムなどで地域住民（団体）との連携が可能になり、次年度の地域活性化の方向が見えてきた。

#### (4) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の地域活性化活動は「栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくり」をめざして、多様な活動を展開した。まず、悠久山地域の暮らし現状調査実施（栖吉コミュニティセンター主催のお茶の間に参加して高齢者のくらしの実態把握、栖吉地区高齢者を対象に買い物動向アンケート実施・高齢者と一緒に買い物実施、地域マップ作成のための地域ヒアリング等）、地域住民・学生共同の栖吉・東山地区魅力再発見のバスツアー、住民・学生共同の東山・悠久山地区マップづくりなど一連の活動を行った。
- ・その上で、東山・悠久山マップの完成報告を兼ねて、第2回悠久山・東山フォーラム（3月、60名参加）を開催し、マップの活用と地域の魅力アップの方向を議論した。
  - \*なお、マップは、「栖吉おもひでMAP」(5,000部作成)、「悠久山おもひでMAP」(10,000部作成)、「東山自然体験マップ」(長岡造形大生がデザイン、10,000部作成)の3種類作成し、地域の全世帯に配布した。
- ・活動評価（まとめ・課題）・・・まず、当初の目標である栖吉・東山地区の調査とそれに基づく地域マップづくりを完遂することができた。地図作りに積極的に参加していただいた住民の方々には、「住んでいても気づかなかった」という言葉が何度も聞かれ、発見があったと推測する。こうして制作されたマップが地域だけでなく全市的に配布され、当該地域の認知度

が高まり、来場者が増加すればさらに喜ばしい。

第2に、地域住民と大学生とが協働して事業を行うことで、長岡大学を身近に感じてもらうきっかけになった。また昨年度から2回にわたるフォーラムは、長岡大学に足を踏み入れる機会にもなり、実際にまちの駅として利用する住民も出てきた。地域に根差した大学のイメージを作り上げる一歩が踏み出された。

第3に、こうした活動を通じて、活動を担う学生ボランティア組織づくりにつながってほしい。

## (5) 平成 27 年度方針・目標

### 【方針】

- ・地域活性化の推進・・・第2回悠久山・東山地区フォーラムの成果を踏まえて、悠久山・東山地区マップを活用した地域交流・活性化事業の実施（文化・情報等交流、長岡大学女性教員による地元市民講座、地域ツアー等）、第3回フォーラム開催、本学施設活用事業（体力づくり等）等を実施し、多様な地域交流・活性化をめざす。

### 【目標】

- ・悠久山・東山地区マップを活用した地域交流・活性化事業を住民と学生がともに作り上げることで、隣接の山通地区にも地域活性化の活動を拡大する。
- ・具体的には、栖吉地区の空き家調査（学生、住民共同）、栖吉子ども支援（栖吉児童館中心）、地域交流会（栖吉地区の住民と学生の交流会）、マップ活用イベントなどを地域住民、学生の協働で行う。
- ・第3回悠久山・東山地区フォーラムを開催する（3月、学生20名、子ども20名、一般参加者50名程度目標）。

## (6) 平成 27 年度計画

悠久山・東山地区を学生、住民共同で調べ、まとめることで、地域を深く知るとともに、広域に情報発信することにより、域内外の交流の活発化を図る。

### a 栖吉地区の空き家調査（米山ゼミ）

交流会（お茶の間：コミュニティセンター主催）への参加などを通して信頼関係を築く。さらに空き家調査を行って地域交流拠点としての支援策の検討資料とする。

→実態把握・・・学生と地域住民による調査（7月～8月）

### b 栖吉地区子ども支援（米山ゼミ）

栖吉児童館を中心とした栖吉小学校とコミュニティセンターや子ども会などと連携して子育て支援に取り組む。（6月～3月）

### c 地域交流会

栖吉地区の住民と学生の交流会や山通地区内の福祉施設利用者と学生の交流を開催する。

\*七夕交流会（7月）、ボランティア交流会（10月）、クリスマス交流会（11月末）健康麻雀交流会（2回/年）、福祉施設利用者交流会（6回/年）

### d マップ活用イベント

平成26年度に作成したマップを活用した栖吉地区内の散策を開催する。栖吉地区内の町内

会単位で開催する。(3回)

e 東部地域活性化シンポジウム

東部地域の自然や施設・人材を活かした活性化のための資源開拓のシンポジウムを開催する。(10月)

f 悠久山・東山地区フォーラム

地域住民と学生の協働による地域連携の取り組み発表やマップ活用の効果、空き家調査の実態報告を行い、地域住民を中心に広く市民に向けて発信するとともに隣接の地域の活性化を促進する。→フォーラム開催(3月)

(7) 平成27年度展開

a 栖吉地区の空き家調査(米山ゼミ)・・・6月30日(火)13:00~15:00、中沢集落内で実施。参加者数:4名。中沢1丁目~2丁目の空き家の現況調査を行った。

b 栖吉地区子ども支援(米山ゼミ)・・・6月30日(火)14:30~16:00、栖吉児童館において子ども達と交流を行った。

c 地域交流会・・・

・<七夕交流会>・・・7月4日(土)13:30~15:30、長岡大学・地域交流ホールにて開催。参加者数:約60名。「和」をテーマに地域の伝統芸能や笹飾りを楽しむ「七夕まつり」として開催した。

・<健康麻雀交流会>・・・7月4日(土)12:30~16:00、長岡大学・学生食堂で開催。参加者数:約20名。10月24日(土)・25日(日)10:00~16:00、長岡大学で開催。参加者数 約30名。栖吉コミュニティセンターと連携し開催した。普段、集まる場の少ない男性を中心に多くの方が参加し、学生との交流を楽しんだ。

・<クリスマス会>・・・11月27日(土)10:00~12:00、長岡大学2階学生ホールで開催。参加者数50名。軽音部による音楽ライブや伝統工芸品の和紙を使ったワークショップなどを実施。学生の自主企画で綿菓子やクリスマスケーキの配布なども実施した。

d マップ活用イベント

・<ぶらすよし>・・・5月26日(火)10:00~12:00、栖吉集落内で開催。参加者数:4名。栖吉集落を実際に歩いて調査し、散策地図にした。

6月30日(火)13:00~15:00、中沢集落内で開催。参加者数:4名。中沢1丁目~2丁目を調査した。空き家の現況調査と活用方法を検討しつつ、集落の魅力を再発見するためのヒアリングを行った。

e 東部地域活性化シンポジウム・・・平成27年10月24日の長岡大学・悠久祭のイベントとして、「長岡市東部地域の活性化に向けて」をテーマにした東部地域活性化シンポジウムを開催した。同シンポジウムの案内である図表5-1-1を参照されたい。当日は、約50名の方の参加をえて、活発な議論がかわされた。

f 悠久山・東山地区フォーラム・・・第3回悠久山・東山地区フォーラムを前年度に引き続き、3月5日(土)13:00~15:00、長岡大学・地域交流ホールにて、開催した。

当日は地域住民の方々を中心に、約50名の方の参加を得て、活性化の方向について、活発な議論がたたかわされた。当日な次第については、シンポ案内の図表5-1-2を参照

されたい。

**(8) 平成 27 年度まとめ—成果と課題—**

- ・地域交流会などを通じて、長岡大学と地域（主に地元である栖吉地区）が協働してできるものを探った。大学側が提供できる「情報」を伝えるだけのものについては参加率も高い実績が残ったが、自ら参加するものについては、参加数が限られている。
- ・年間通して、地域—大学（教育）の交流・連携のあり方を探ってきた。個々の催物はそれなりに成果をあげたといえる。その先の交流・連携のテーマ、方法をよく検討して、地域—大学（教育）が Win-Win の関係になるように、方向性を具体化する必要がある。次年度のボランティア活動や地域志向教育研究などの中身を検討して、有効な方策を見つけ出す必要がある。

図表5-12-1 東部地域活性化シンポジウム



学校法人 中越学園  
**長岡大学**

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



地(知)の拠点

平成27年

日時

10/24

田

13:30~15:30

会場

長岡大学 217教室

入場無料

**第1部 講演**

「無いものねだりから有るものさがしへ  
一歴史にみる長岡の地域資源の変遷」

講師：長岡大学教授…………… 松本 和明

活性化に向けて

長岡市東部地域の  
活性化シンポジウム

**第2部 パネルディスカッション**

「長岡市東部地域の活性化に向けて」

(パネリスト)……………

- (公社)平成令終会 雪国植物園園長 …… 大原 久治 氏
- (株)エヌ・シー・ティ代表取締役社長 …… 澤田 正彦 氏
- 特定非営利活動法人UNE代表理事 …… 家老 洋 氏
- (株)パートナーズプロジェクト取締役 …… 高野 洋子 氏
- 長岡大学准教授…………… 米山 宗久
- (コーディネーター) 長岡大学教授…………… 松本 和明

長岡大学 悠久祭  
協賛シンポジウム

■主催 長岡大学地域連携研究センター  
■後援 長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

**お申し込み方法**

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信して下さい。

FAX:0258-39-9566

(お問合せ・お申込先)

長岡大学地域連携研究センター 担当 山田・恩田  
〒940-0828 長岡市御山町80-8 TEL:0258-39-1600(代)  
E-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

申込締切 平成27年10月21日(水) ただし、当日は悠久祭ですので当日参加も歓迎します。

氏名		所属等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。





学校法人 中越学園  
**長岡大学**

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC)事業  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



文部科学省  
**地(知)の拠点**

第3回悠久山・東山フォーラムを開催します。  
平成25年度第1回目のフォーラムでは、みなさんと悠久山・東山の魅力を再発見し、第2回目のフォーラムでは、地域の方たちと作成した悠久山・東山のマップを基に地域の魅力をどう活かすかディスカッションしました。  
今回のフォーラムでは、地域の方たちがどんな交流をしているか、どのように地域の資源を活かしているか、3つの地区の方から実践例を紹介していただきます。  
「ひとりひとりができること」を一緒に考えてみませんか。

**日時** 平成28年 **3月5日(土)**  
13:30~16:30

**会場** 長岡大学 地域交流ホール

**定員** 50名



「ひとりひとりができること」

第3回悠久山・東山フォーラム

**[第1部 事例発表]**

栖吉地区	古屋 信司 氏	「悠久山の歴史を活かすこと」
山通地区	川上 洋一 氏	「子どもに伝える山通の魅力」
四郎丸地区	山川 成雄 氏	「赤城コマランドがなぜできたか」

**[第2部 パネルディスカッションと意見交換]**

**「ひとりひとりができること」**

栖吉地区	古屋 信司 氏	
山通地区	川上 洋一 氏	
四郎丸地区	山川 成雄 氏	
コーディネーター	長岡大学准教授 米山 宗久	
司会・進行	長岡大学事務局長 品川 十英	

■主催：長岡大学地域連携研究センター ■後援：長岡市





**参加費 無料**

**〈お申込方法〉**

電話・FAXでお申込下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。

**〈お問合せ・お申込先〉**

長岡大学地域連携研究センター 担当：山田  
**TEL:0258-39-1600(代) FAX:0258-39-9566**  
 〒940-0828 長岡市御山町80-8  
 URL:<http://www.nagaokauniv.ac.jp>  
 申込締切：3月2日(水)。当日参加も歓迎です。

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	

※ご登録いただいた個人情報、は、本学規定に従って厳正に管理します。



## 13 市民向け公開講座・セミナーの開催－社会貢献②－

### (1) 方針（申請時）

- ・従来の市民向け公開講座（情報、語学、文化等）を刷新して開講する。市民ニーズと本学教員のマッチングをはかり、地域づくり、ボランティア関係講座も含めて充実させる。

### (2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→市民ニーズと本学教員のテーマのマッチングを図り、開講方針を策定し、開講する（5テーマ、5教員程度）。
- ・平成 29 年度→テーマは 20 テーマに倍増し、毎年定番講座（5テーマ程度）と年度毎の特別講座（5テーマ）を組み合わせて、開講する。
- ・会場は、市民が集まる「まちなかキャンパス長岡」を主とし、担当教員数は 20 名程度。

### (3) 平成 25 年度実績と評価

- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（講師・中村大輔）の 1 講座開講にとどまった。目標の 5 講座は時期的に後期のみであったこともあり開講できなかった。次年度は年間を通して開講可能なので、5 講座をめざす。
- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通り開講することができた。次年度も継続する。

### (4) 平成 26 年度実績と評価

- ・まちなかキャンパス長岡の講座等は、計画通りに 7 名の本学教員が講師として参加し、開講することができた。
- ・本学独自の市民公開講座は、「初級簿記実践講座」（日商簿記 3 級対応）・「No.1 の国、アメリカが教えてくれるもの」・「映画で見る中国現代史」・「地域交通と中越地方の 100 年のあゆみ・越後交通を中心に」・「メンタルヘルスマネジメント」（メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種対応）の 5 講座を当初の計画通りに開講することができた。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・まず、まちなかキャンパスの市民講座はいずれも高い評価を受けることができた。市民の学習ニーズに応えるとともに、長岡市中心市街地の活性化にも寄与していると評価できる。

第 2 に、本学独自の市民公開講座は、当初の目標通り 5 講座を開講することができ、総受講者数も 87 名にのぼり、高く評価できる。

第 3 に、受講者の講座に対する評価も非常に高く（大部分が＜満足＞）、募集定員（10 名）を上回った講座も 3 講座にのぼり、市民ニーズに合った講座が重要であることを示した。

第 4 に、講座の広報期間を長くとれた講座は相対的に応募者が多かったことから、広報の充実が重要であることがわかった。次年度の教訓としたい。

### (5) 平成 27 年度方針・目標

#### 【方針】

- ・市民公開講座の開講・・・平成 26 年度講座の拡大をめざして、計画的に年間講座を開講し（年間講座計画公表）、本学教員の地域への知的還元を行う。情報、会計、日本文化、企業史、生

活、メンタルヘルス等の6講座開講した。次年度計画も作成する。

**【目標】**

- ・まちなかキャンパスの市民講座については、前年度と同様、協力して講座を開講する。
- ・本学独自の市民公開講座は、情報、会計、日本文化、企業史、生活、メンタルヘルス等の講座を中心に7講座程度の開講を予定している。広報活動を充実し、受講者数の増加を目指す。各講座 15名程度の受講者数を目標とする。

**(6) 平成 27 年度計画**

- a まちなかキャンパスにおける市民講座は、松本和明教授の経営者対談「企業のトップがやってきた」(6回)の講座など、4名講師で参加する。
- b 本学独自の長岡大学市民公開講座は、次のスケジュールで進める。
  - \* 4月～10月 平成 28 年度市民公開講座の企画・決定
  - 6月～3月 平成 27 年度市民公開講座の実施
  - 11月～3月 平成 28 年度市民公開講座の案内等の準備・作成
  - \* 平成 27 年度の長岡大学市民公開講座の計画は、下表の通りである。

図表 5-13-1 平成 27 年度長岡大学市民公開講座一覧

講師	タイトル	場所	日程 (予定)	回数・曜日・受講料
高橋治道 /吉川宏之	高齢者のためのスマホ・タブレット入門	まちなか キャンパス	2015/6/1～6/29	【全 5 回】 月曜日 5,000 円
小川幸代	記紀神話を読む 前編	長岡大学	2015/7/2～7/30	【全 4 回】 木曜日 4,000 円
中村大輔	初級簿記講座	長岡大学	2015/9/17～11/12	【全 15 回】 火・木曜日 15,000 円
小川幸代	記紀神話を読む 後編	長岡大学	2015/10/1～11/12	【全 5 回】 木曜日 5,000 円
松本和明	渋沢栄一と長岡地域	長岡大学	2015/11/10～12/1	【全 4 回】 火曜日 4,000 円
山川智子	メンタルヘルスマネジメント検定Ⅱ種ラインケアコース対策講座	長岡大学	2016/1/29～3/11	【全 5 回】 金曜日 5,000 円
橋長真紀子	セカンドライフ プランニング講座	まちなか キャンパス	2016/2/4～2/25	【全 3 回】 木曜日 3,000 円

(注) テキスト代は受講料に含まれていない

- c 講座の広報については、年間計画を紹介するリーフレットの発行(講座の愛称も)と講座ごとの広報(市広報誌等)を行い充実させる。

**(7) 平成 27 年度展開**

- a まちなかキャンパスにおける市民講座(前期)

- ・【まちなかカフェ】・・・2015年5月24日（日）、テーマ：「レコードで語り合おう、洋楽80's」、ゲスト：松本和明+佐野 譲（FMながおかパーソナリティー） ＊受講者12人
  - ・【まちなか大学】・・・2015年6月23日（火）～7月28日（火）、講座：「企業のトップがやってきた！」＜全6回＞、講師：松本和明（ファシリテーター）、長岡に関連した各企業のトップとの座談会  
 ＊「企業のトップがやってきた！」は当初30名定員のところ希望者が殺到したため、60名に拡大された。各回とも80～90%の出席率で推移した。のべ受講人数298名で大変な盛況の講座となった。
  - ・【米百俵塾】・・・2015年8月8日（土）、講座：「長岡の教育者をひもとく2」、講師：松本和明 ＊受講者23人
  - ・【まちづくり市民研究所】・・・2014年9月～2015年8月末。2期、講座：「米百俵の精神伝承・実践プログラムづくり」、ディレクター：松本和明 ＊受講者9人
- b まちなかキャンパスにおける市民講座（後期）
- ・【特別講座／さいわいプラザフェスティバル】・・・2015年9月12日（土）、講座：「連続ドラマの楽しみ方」、講師：山川智子。 ＊受講者20人  
 同日、講座：「気象と健康のかかわりー天気を知って元気になるー」、講師：山川智子  
 ＊受講者18人
  - ・【分校事業／希望が丘分校】・・・2015年9月30日（水）、講座：「気象と健康のかかわりー天気を知って元気になるー」、講師：山川智子、＊受講者18人
  - ・【分校事業／栃尾分校】・・・2015年11月14日（土）、栃尾分校開校式・記念公園会：戸山修造の活動とその周辺」、講師：松本和明 ＊受講者250人
  - ・【まちなかカフェ】・・・2016年2月10日（水）、講座：「いい感じで知っておきたい漢字のあれこれ」、講師：山川智子 ＊受講者24人
  - ・【まちづくり市民研究所】第3期・・・2015年9月26日～2016年8月末、講座：「食の資源循環で長岡を元気に！」、講師：西俣先子（ディレクター） ＊14人
- c 本学独自の市民公開講座（前期）
- ・平成27年度長岡大学市民公開講座（前期）は図表5-13-2に示すとおり、2講座を開講できた。高橋・吉川両講師の「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」は23名（定員20名）、小川講師の「記紀神話を読む・前編」は22名（定員30名）の受講者をえて、好評のうちに終了できた。
  - ・講座の広報は、年間計画を紹介するリーフレットの作成中。講座ごとの広報（市広報誌）を実施。

図表 5-13-2 平成 27 年度長岡大学市民公開講座（前期開講）一覧

講師	タイトル	場所	日程（実施）	回数・曜日・受講者
高橋治道 /吉川宏之	高齢者のためのスマ ホ・タブレット入門	まちなか キャンパス	2015/6/1～6/29	【全 5 回】 月曜日 23 名
小川幸代	記紀神話を読む 前編	長岡大学	2015/7/2～7/30	【全 4 回】 木曜日 22 名

**d 本学独自の市民公開講座（後期）**

- ・後期の本学独自の市民公開講座は、図表 5-13-3 に示す通り、5 講座を開講できた。中村講師の「初級簿記講座」（3 級程度）は 17 人、小川講師の「記紀神話を読む後編」は 24 人、松本講師の「渋沢栄一と長岡地域」は 22 人、山川講師の「メンタルヘルスマネジメント検定Ⅱ種ライケアコース対策講座」は 30 人、橋長講師の「セカンドライフプランニング講座」は 6 人の受講者が参加していただいた。いずれも好評であった。

図表 5-13-3 平成 27 年度長岡大学市民公開講座（後期開講）一覧

講師	タイトル	場所	日程（予定）	回数・曜日・受講者
中村大輔	初級簿記講座	長岡大学	2015/9/17～11/12	【全 15 回】 火・木 曜日 17 人
小川幸代	記紀神話を読む 後編	長岡大学	2015/10/1～11/12	【全 5 回】 木曜日 24 人
松本和明	渋沢栄一と長岡地域	長岡大学	2015/11/10～12/1	【全 4 回】 火曜日 22 人
山川智子	メンタルヘルスマネジ メント検定Ⅱ種ライ ンケアコース対策講座	長岡大学	2016/1/29～3/11	【全 5 回】 金曜日 30 人
橋長真紀子	セカンドライフ プランニング講座	まちなか キャンパス	2016/2/4～2/25	【全 3 回】 木曜日 6 人

**（8）まとめ—成果と課題—**

まず第 1 に、まちなかキャンパスの講師等として、本学の松本和明、山川智子、西俣先子の 3 名を中心に活躍したこと。公募者数定員未満で休止になった講座も含めれば、本学教員の講師はもっと多いが。

第 2 に、松本、山川の 2 人の集客力は非常に高いこと。松本は合計で 580 人（うち講演会が 250 人）、山川は合計 90 人の受講者を集めた。いずれも、市民の関心の高い（ニーズがあると思われる）テーマが高く評価されたものと思われる。今後の大きな教訓である。

第 3 に、本学独自の市民公開講座は 7 講座開講し、各講座とも定員をほぼ上回る受講者を確保することができたこと。これも高く評価できよう。上記まちなかキャン講座と同様、市民の関心の高いテーマを設定できたためと思われる。この点は、次年度の大きな教訓である。

第 4 に、広報も積極的に行ったことも評価できる。今後は、市の広報誌、独自募集チラシに加えて、年間講座計画リーフレットの発行が重要にある。



## 平成27年度 長岡大学 市民公開講座 記紀神話を読む・前編

長岡大学地域連携研究センター

古事記(712年成立)や日本書紀(720年成立)は日本文学や日本の歴史を理解するための基本的な文献です。どちらも神代の話から書かれており、それらの神話を総称して「記紀神話」と呼んでいますが、両書の神話には違いがあります。

本講座では、どのように違うのか、また、違うことにどのような意味があるのかを考えながら、『古事記』と『日本書紀』を冒頭から読んでいきます。

後編も受講いただくと、より理解が深まります。

★募集人員：30名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：小川 幸代(長岡大学 教授)

★時間：19:00~20:30

★会場：長岡大学 4階 第4会議室

★受講料：4,000円(全4回) ※初回にご持参ください。

★使用テキスト：中村啓信・菅野雅雄編『日本神話』出版社 おうふう 2,376円(税込)  
※テキストを注文される方は、代金を初回にご持参ください。  
テキストは後編にも使用します。



★シラバス

	開講日	テーマ	
第1回	7月2日(木)	伊耶那岐の命と伊耶那美の命	① 天地のはじめから神々の生成まで
第2回	7月16日(木)	〃	② 黄泉の国から身禊まで
第3回	7月23日(木)	天照らす大神と須佐の男の命	① 誓約(うけひ)
第4回	7月30日(木)	〃	② 天の岩戸

※後編 開講予定日：10/1、10/15、10/22、10/29、11/12

### 申込み・お問合せ

〔締め切り〕 平成27年6月22日(月)

〔申込方法〕 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申込先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：近藤、品川  
TEL：0258-39-1600(代) e-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp  
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。



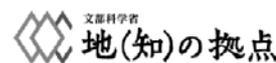
氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		テキスト希望	あり・なし
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

図表 5 - 1 3 - 6 初級簿記講座



平成 25~29 年度  
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



## 平成 27 年度長岡大学市民公開講座 『初級簿記講座(日商簿記3級程度)』

長岡大学地域連携研究センター

簿記は企業や商店の経営活動をお金の側面から記録するツールであり、全てのビジネスパーソンが身につけておくべきと言っても過言ではありません。本講座は個人商店の簿記(日商簿記3級相当)について学びます。全 15 回の講義で日常の取引に関する仕訳から、決算書(財務諸表)の作成までを学びます。簿記は積み上げ型の内容であり、一度つまずくと追いつくのは大変です。また、速習コースでもあるため、自宅での予習・復習時間が十分準備できる方向けの講座です。

- ★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。
- ★講師：中村 大輔(長岡大学准教授)
- ★時間：19:00 ~ 21:00 ★会場：長岡大学 1号館 3階 資格取得支援センター(COS)
- ★受講料：15,000円(全15回) ※初回に持参ください。
- ★使用テキスト：滝沢ななみ『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記』(第3版) TAC出版 972円(税込)  
滝沢ななみ『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記』(第3版) TAC出版 918円(税込)  
※テキストを注文される方は、代金を初回に持参ください。
- ★試験案内：第141回 日商簿記3級 試験  
試験日：平成27年11月15日(日) 窓口申込：平成27年9月24日(木) ~ 10月15日(木)

### ★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第1回	9月 17日(木)	<b>簿記の基礎</b> 簿記の基礎、財務諸表、仕訳と転記について学習する。
第2回	9月 24日(木)	<b>商品売買</b> 商品売買に関する取引の記帳について学習する。
第3回	9月 29日(火)	<b>現金預金</b> 現金預金に関する取引の記帳について学習する。
第4回	10月 1日(木)	<b>手形</b> 手形取引に関する記帳について学習する。
第5回	10月 6日(火)	<b>有価証券と固定資産</b> 有価証券の購入と売却、固定資産の購入について学習する。
第6回	10月 8日(木)	<b>その他の取引1</b> 未収金・未払金、貸付金・借入金、前払金・前受金などについて学習する。
第7回	10月 13日(火)	<b>その他の取引2</b> 仮払金・仮受金、立替金・預り金などについて学習する。
第8回	10月 15日(木)	<b>帳簿</b> 仕訳帳などの主要簿と、現金出納帳などの補助簿について学習する。
第9回	10月 20日(火)	<b>試算表</b> 試算表の役割と作成方法を学習する。
第10回	10月 22日(木)	<b>伝票</b> 伝票とは何か。3伝票制および5伝票制について学習する。
第11回	10月 27日(火)	<b>決算1</b> 決算整理と精算表の仕組み、現金過不足の処理や消耗品の整理について学習する。
第12回	10月 29日(木)	<b>決算2</b> 有価証券の評価替えや固定資産の減価償却、売上原価の算定などについて学習する。
第13回	11月 5日(木)	<b>決算3</b> 8桁精算表の作成方法について学習する。
第14回	11月 10日(火)	<b>決算4</b> 帳簿の締切り、財務諸表の作成について学習する。
第15回	11月 12日(木)	<b>総まとめ</b> 模擬問題を解きながらこれまでに学習した内容を復習する。

### 申込み・お問合せ

〔締め切り〕 平成27年9月4日(金)

〔申込方法〕 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター  
TEL : 0258-39-1600(代)  
FAX : 0258-39-9566

担当：近藤、品川  
e-mail : chicken@nagaokauniv.ac.jp  
長岡大学 URL : http://www.nagaokauniv.ac.jp/

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。

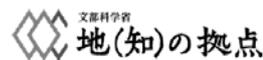


氏 名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		テキスト希望	あり・なし
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報、本学規定に従って厳正に管理します。



平成 25～29 年度  
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



## 平成27年度 長岡大学 市民公開講座 記紀神話を読む・後編

長岡大学地域連携研究センター

古事記(712年成立)や日本書紀(720年成立)は日本文学や日本の歴史を理解するための基本的な文献です。どちらも神代の話から書かれており、それらの神話を総称して「記紀神話」と呼んでいます。両書の神話には違いがあります。

本講座では、どのように違うのか、また、違うことにどのような意味があるのかを考えながら、『古事記』と『日本書紀』を冒頭から読んでいきます。

前編受講の方は後編も受講いただくと、より理解が深まります。

★募集人員：30名(先着順)

★講師：小川 幸代(長岡大学 教授)

★時間：19:00～20:30

★会場：長岡大学 4階 第4会議室

★受講料：5,000円(全5回) ※初回にご持参ください。

★使用テキスト：中村啓信・菅野雅雄編『日本神話』出版社 おうふう 2,376円(税込)

※テキストを注文される方は、代金を初回にご持参ください。

前編で使用したテキストを後編でも使用します。

★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第1回	10月 1日(木)	須佐の男の命 蚕と穀物の種 八俣の大蛇 系譜
第2回	10月15日(木)	大国主の神 ① 菟と鰐 キサ貝比売と蛤貝比売
第3回	10月22日(木)	大国主の神 ② 根の堅州国
第4回	10月29日(木)	大国主の神 ③ 八千矛の神の歌物語
第5回	11月12日(木)	大国主の神 ④ 少名毘古那の神 御諸の山の神



### 申込み・お問合せ

〔締め切り〕 平成27年9月18日(金) (締め切り後もご相談ください)

〔申込方法〕 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：近藤、品川  
TEL：0258-39-1600(代) e-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp  
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。



氏 名			
住所・連絡先	〒		
電話番号		テキスト希望	あり・なし
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

## 平成27年度 長岡大学 市民公開講座 渋沢栄一と長岡地域

長岡大学地域連携研究センター

「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一は、約500の企業の設立と経営に携わりました。このうち地方の産業・ビジネスの立ち上げを重視し、特に長岡地域をはじめ新潟県とは深い関係をもちました。渋沢が積極的に関与した第六十九国立銀行(現・北越銀行)や北越鉄道(現・JR信越本線)および東山油田での石油業の展開過程とともに、渋沢に薫陶を受けた岸宇吉等の長岡地域の企業家や栃尾地域出身の外山脩造の足跡をたどります。

- ★募集人員：20名(先着順)  
★講師：松本 和明(長岡大学 教授)  
★時間：19:00~20:30  
★会場：長岡大学 1号館 第5会議室  
★受講料：4,000円(全4回)※初回にご持参ください。  
★シラバス



	開 講 日	テ ー マ
第1回	11月10日(火)	渋沢栄一の生涯と足跡
第2回	11月17日(火)	渋沢栄一と外山脩造
第3回	11月24日(火)	渋沢栄一と第六十九国立銀行および岸宇吉
第4回	12月 1日(火)	渋沢栄一と北越鉄道

### 申込み・お問合せ

〔締め切り〕 平成27年11月2日(月)

〔申込方法〕 電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：近藤、品川  
TEL：0258-39-1600(代) e-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp  
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。



氏 名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

平成27年度 長岡大学 市民公開講座  
**メンタルヘルス・マネジメント検定  
Ⅱ種ラインケアコース対策講座**

長岡大学地域連携研究センター

多くの人が職業生活に強い不安やストレスを抱え、心の不調での休職・離職も増えています。働く人が仕事や職場で能力を発揮し活躍するためには、自らの心の健康管理(セルフケア)だけでなく、職場環境の改善や周囲のサポート体制も不可欠です。メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種ラインケアコースの内容に沿って、管理監督者としてのメンタルヘルス安全配慮義務に則った対応(情報提供および適切な助言の方法など)を学ぶのがこの講座の目的です。

- ★募集人員：20名(先着順) ※受講者3名未満時不開講。  
★講師：山川 智子(長岡大学 教授)  
★時間：19:00～20:30  
★会場：長岡大学 2号館 225教室  
★受講料：5,000円(全5回) ※初回にご持参ください。  
★シラバス



	開 講 日	テ ー マ
第1回	1月29日(金)	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割～組織のライン整備と個人のセルフケアの徹底
第2回	2月5日(金)	ストレスとメンタルヘルスに関する基礎的知識～心の不調に陥らないために「転ばぬ先の杖」
第3回	2月12日(金)	職場環境等の評価および改善の方法；公開試験の概略説明
第4回	3月4日(金)	個々の労働者への配慮と労働者からの相談対応～共感的理解とアサーティブなアプローチ
第5回	3月11日(金)	社内外資源との連携と心の健康問題を抱える復職者の支援；Ⅱ種ラインケアコース総括

**申込み・お問合せ**

〔締め切り〕 平成28年1月25日(月)

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。

FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。

〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター

TEL：0258-39-1600(代)

FAX：0258-39-9566

担当：近藤、品川

E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。



氏 名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

## 平成27年度 長岡大学 市民公開講座 セカンドライフプランニング講座

長岡大学地域連携研究センター

今までできなかった夢を実現するために定年後に少し新たな冒険をしてみませんか。  
ロングステイや移住生活など、様々な夢を叶えるためにどのような準備が必要なのかを学びます。

★募集人員：20名（先着順） ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：橋長 真紀子（長岡大学 専任講師）

★時間：19:00～20:30

★会場：まちなかキャンパス長岡 302 会議室

★受講料：3,000円（全3回）

★使用テキスト：日本FP協会

「今から始めるリタイアメントプランニング～50代から考えるセカンドライフ～」  
400円

※受講料+テキスト代 合計3,400円を初回におつりのないようご持参ください。



★シラバス

	開 講 日	テ ー マ
第1回	2月4日（木）	夢の具現化、必要金額の資産
第2回	2月18日（木）	現状把握、リタイアメント資金の試算
第3回	2月25日（木）	実行手段の計画立案

### 申込み・お問合せ

〔締め切り〕 平成28年1月15日（金）

スマートフォンからも  
ご覧いただけます。

〔申込方法〕 電話・FAX・E-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このまま切り取らずに送信してください。



〔申 込 先〕 長岡大学 地域連携研究センター 担当：近藤、品川  
TEL：0258-39-1600（代） E-mail：chiken@nagaokauniv.ac.jp  
FAX：0258-39-9566 長岡大学 URL：http://www.nagaokauniv.ac.jp/

氏 名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

## 14 企業人向けセミナーの開催－社会貢献③－

### (1) 方針（申請時）

- ・従来の企業人向けイノベーション人材養成講座を刷新して、地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成を目的にした「新・イノベーション人材養成講座」として企業人講座を開講する。

### (2) 目標（申請時）

- ・平成 25 年度→全体計画策定の上、4 講座を開講する。本学教員 2 名、外部講師 2 名。
- ・また、同講座の 1 つ「ものづくりマネジメント講座」を「長岡市ものづくりインストラクター養成スクール」の連携講座として開講する。
- ・平成 29 年度→テーマは 12 テーマに 3 倍増し、毎年の定番講座（4 テーマ程度）と年度毎の特別講座（4 テーマ程度）を組み合わせて、開講する。担当教員数は、本学教員 6 名程度、外部講師 6 名程度。

### (3) 平成 25 年度実績と評価

- ・前期(9月～11月)に「管理会計講座」、後期(12月～2月)に「ものづくりマネジメント(生産向上)講座」と「商品企画講座」の計 3 講座を開講。前期に予定していた「経営革新計画講座」は応募者が 3 名に満たず、開講できなかった。また、受講者は管理会計が 3 名、ものづくりが 5 名、商品企画が 6 名で、いずれも募集定員(20 名)を大きく下回った。
- ・いずれの講座も採算がとれていないので(講師謝金カバーできず)、次年度は受講者拡大の工夫を行う必要がある。

### (4) 平成 26 年度実績と評価

- ・前期(10月～11月)に「商品企画講座」、「人材活用講座」後期(12月～2月)に「ものづくりマネジメント(生産向上)講座」、「管理会計講座」の計 4 講座を開講。ものづくりマネジメント講座では第 1 回に鈴木信貴氏(長岡技大准教授)を迎え、「ものづくりとイノベーションマネジメント」と題する公開講座とした。
- ・受講者は商品企画講座が 4 名、人材活用講座 2 名(事前申込み 3 名)、ものづくりマネジメント(生産向上)講座 4 名、管理会計講座 5 名で、いずれも募集定員(20 名)を大きく下回り、昨年度同様、受講者数確保が今後の大きな課題となった。

### (5) 平成 27 年度方針・目標・予算

#### 【方針】

- ・企業人セミナーの開講・・・社会人向けの履修証明制度としてイノベーション人材養成講座を制度化し、前半(9月～11月)に 2 講座(経営戦略、管理会計)、後半(12月～2月)に 2 講座(ものづくりマネジメント、上級商品企画)、開講する。次年度計画も作成する。

## 【目標】

- ・地域企業および行政等との連携を更に強化する中で、開講する4コースとも最低10名の受講者を確保し、引き続き「地域に欠かせない基幹人材育成講座」としての位置づけに努める。

## (6) 平成27年度計画

文部科学省の「職業実践力育成プログラム認定制度」(履修認定制度の発展系)を意識しつつ、社会人の<実践力アップ>をめざして、次の講座を開講する。

- a 「経営戦略(後継者講座)」、「IT活用」「管理会計」、「ものづくりマネジメント」、「商品企画(上級)」の5講座を計画する。いずれも、夜間2.5h/回。各講座全8回ずつ実施。担当講師は前年度をベースに、最適講師を当てる。
- b 講座計画については、全体計画が記載されたリーフレットを作成するとともに、各講座ごとに計画的な広報を行う(市広報誌、情報便等)。
- c 平成28年度から導入が予想される「職業実践力育成プログラム認定制度」に向けた本学の制度設計を行う。
- d 後年度Ⅱ期としての「管理会計講座」(12月1日～、全8回)と「ものづくりマネジメント講座」(12月7日～、全8回)、「経営継承(後継者)講座」(12月8日～、全8回)についてもⅠ期同様に広報活動を展開し、多くの受講者確保に努める。

## (7) 展開

- ・広報・・・前年度まで、受講者数が少ない(数名程度)状況を克服すべく、今年度は体系的な広報を行った。長岡市市政だより(月1回)、ながおか情報便(講座開始前月利用、長岡商工会議所)、全5講座一括掲載リーフレット(図表5-13-1参照)、過去の受講企業への案内郵送の4つを実施した。リーフレットは、長岡市役所内・アオーレ1F総合案内等に配置したほか、市内および周辺地域の企業約130社に送付した。リーフレットを見て、受講申込みをしていただいた方もおり、一定の効果はあったと言える。
- ・全5講座の概要は次の通りである。

★インターネット活用講座・・・ \*図表5-13-2を参照

期間：10月1日～11月19日(全8回)

講師：今井信太郎(グローバルマーケティング株式会社代表取締役/中小企業診断士)

受講者：3名

★商品企画講座・・・ \*図表5-13-3を参照

期間：10月7日～11月25日(全8回)

講師：小松俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)

受講者：3名

★管理会計講座・・・ \*図表5-13-4を参照

期間：12月1日～2月9日(全8回)

講師：中村大輔(全8回)

受講者：6名

★経営承継(後継者)講座・・・ \*図表5-13-5を参照

期間：12月8日～2月9日（全8回）

講師：小松俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

受講者：3名

★ものづくりマネジメント講座・・・ \*図表5-13-6を参照

・受講申込みが1名のため不開講としたが、第1回の公開講座＝東大の新宅教授の講演会は開催した。約70名が参加、盛況であった。

\*ものづくりマネジメント公開講座「ものづくりとビジネスモデルの再構築」

日時：平成27年12月7日（月）15：00～17：00

講師：東京大学大学院経済学研究科教授 新宅純二郎

会場：ホテルニューオータニ長岡「桜の間」

#### （8）まとめー成果と課題ー

- ・平成27年度のイノベーション人材養成講座は、上記の通り、5講座計画したが、「ものづくりマネジメント講座」は受講申込者が少なく、不開講にせざるを得なかった。その他の講座も数名の受講者にとどまり、せめて10人程度の受講者を確保すべく、様々な工夫をこらす必要がある。
- ・受講者の講座の評価は高く、講義、演習とインプット、アウトプットを組み合わせた運営により、当該スキルの向上につながったものと思われる。
- ・平成28年度には、今年度申請を断念した文部科学省「職業実践力育成プログラム認定制度」に、企業の人材ニーズの正確な把握と協力・連携の確保をベースに、本学の制度設計を行う予定である。
- ・以上から明らかなように、10名程度の受講生の確保が引き続き課題である。そのため、講座テーマ、実施時期、実施回数、実施時間については、ヒアリング及びアンケート調査を行い、その結果に基づき内容を見直す。また、広報計画についても、従来の送付先の拡大、媒体の見直しを行う。さらに、長岡市、長岡商工会議所に加え、新潟県の産業支援機関である公益財団法人にいがた産業創造機構との連携を深め、講座、セミナーの相互紹介を働きかける。

図表5-14-1 平成27年度イノベーション人材養成全講座案内

**平成27年度Ⅰ期(10月1日～11月19日全5回)**  
**インターネット活用講座**

**講座概要**

インターネットを活用し、売場拡大をどのように実感していくかの基礎知識とスキルを習得するとともに、自社のネット活用戦略立案ができるようになることを目的とします。

**開催概要** 全社経営者、営業・販売担当、ホームページ担当者

**受講人員** 20名(先着順)  
※ただし、受講者が20名に満たない場合は、不開講とします。

**期 間** 今井達太郎  
グローバルマーケティング株式会社 代表取締役

**期 間** 18:30～21:00

**場 所** 長岡大学

**学 費** 30,000円(初回にご参加ください)

**申込方法** 下記のとおり

**申込締切 9月24日(木)**

期 間	講 義 日	テ ー マ
第1回	10月1日(木)	売場拡大を促すネット活用戦略
第2回	10月8日(木)	売場拡大を促すホームページ活用戦略
第3回	10月15日(木)	検索エンジン対策 検索エンジン最適化講座(3ステップ公開)
第4回	10月22日(木)	アフィリエイト
第5回	10月29日(木)	ソーシャルメディア活用(1)Twitter
第6回	11月5日(木)	ソーシャルメディア活用(Facebook)
第7回	11月12日(木)	ソーシャルメディア活用(LINE/Twitter等)
第8回	11月19日(木)	ネット活用戦略のアップデート

**平成27年度Ⅰ期(10月7日～11月25日全5回)**  
**商品企画講座**

**講座概要**

ヒット商品・人気サービスが溢れ出す千景と変わる時代に、どのようにして顧客の支持を得られる商品企画を企画するか、その技法を提示します。また、アウトプットとして具体的な商品企画の立案とブラッシュアップを行います。

**開催概要** 全社経営者、商品企画担当者、営業・販売担当者

**受講人員** 20名(先着順)  
※ただし、受講者が20名に満たない場合は、不開講とします。

**期 間** 小松 俊樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)

**期 間** 18:30～21:00

**場 所** 長岡大学

**学 費** 30,000円(初回にご参加ください)

**申込方法** 下記のとおり

**申込締切 9月30日(木)**

期 間	講 義 日	テ ー マ
第1回	10月7日(木)	消費者心理分析の活用と商品企画
第2回	10月14日(木)	消費者心理分析の活用と商品企画
第3回	10月21日(木)	マーケティングの基礎・企画・分析
第4回	10月28日(木)	競合の分析と商品企画
第5回	11月4日(木)	コンセプトの商品企画
第6回	11月11日(木)	競合・ユーザー、競合企業の分析 商品企画の立案とブラッシュアップ
第7回	11月18日(木)	商品企画の立案とブラッシュアップ
第8回	11月25日(木)	商品企画の立案とブラッシュアップ 商品企画

**平成27年度Ⅱ期(12月1日～2月9日全5回)**  
**管理会計講座**

**講座概要**

生産過程における原価低減の方法、利益の出し方を極めて重要で、生産性向上と会計を結びつけて考える管理会計に精通する必要があります。本講座は、その管理会計具体化のノウハウを教授し、生産性を向上させ、企業競争で優位に立ちとうする企業の実現を目指しています。  
生産性向上＝管理会計の導入＝具体化をお考えの企業の担当者の方々にぜひ参加していただきたいと考えています。

**開催概要** 全社経営者、経営幹部、財務担当者

**受講人員** 20名(先着順)  
※ただし、受講者が20名に満たない場合は、不開講とします。

**期 間** 中村 大輔(長岡大学教授)

**期 間** 18:30～21:00

**場 所** 長岡大学

**学 費** 30,000円(初回にご参加ください)

**申込方法** 下記のとおり

**申込締切 11月24日(木)**

期 間	講 義 日	テ ー マ
第1回	12月1日(木)	管理会計の学習方法と基礎
第2回	12月8日(木)	原価計算講座
第3回	12月15日(木)	標準原価と稼働率
第4回	1月12日(木)	原価計算による損益計算(1)
第5回	1月19日(木)	原価計算による損益計算(2)
第6回	1月26日(木)	原価計算の活用と応用
第7回	2月2日(木)	原価計算の活用と応用
第8回	2月9日(木)	原価計算の活用と応用

**公認会計士法人長岡市教育会研修部研修制度のご案内**

長岡市内の中心企業で働く人材が高度な研修に参加する機会に、自己投資の一部を支援するものです。イノベーション <http://www.city.nagaoka.nagata.jp/> (求人) <http://www.city.nagaoka.nagata.jp/> (求人) <http://www.city.nagaoka.nagata.jp/> (求人) <http://www.city.nagaoka.nagata.jp/> (求人)

**平成27年度Ⅱ期(12月1日～2月9日全5回)**  
**経営承継(後継者)講座**

**講座概要**

経営後継者からする事業活動停止・廃業等が懸念されています。こうした流れを反転させるには、事業・経営の継承、経営者の承継を行う必要があります。本講座は、こうした事業・経営の継承、経営者の承継が可能なか、そのための実践的なノウハウを身につけることを目標に、開催します。事業・経営の継承や経営者の承継に関心をお持ちの経営者、経営後継者の方々にぜひ参加していただきたいと考え、ご案内いたします。

**開催概要** 後継経営者、全社経営者、経営幹部

**受講人員** 20名(先着順)  
※ただし、受講者が20名に満たない場合は、不開講とします。

**期 間** 小松 俊樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)

**期 間** 18:30～21:00

**場 所** 長岡大学

**学 費** 30,000円(初回にご参加ください)

**申込方法** 下記のとおり

**申込締切 12月1日(木)**

期 間	講 義 日	テ ー マ
第1回	12月1日(木)	今こそ、事業承継の準備 事業承継の準備(1)
第2回	12月8日(木)	事業承継の準備
第3回	12月15日(木)	経営承継の準備・業務・分析・立約
第4回	12月22日(木)	経営承継の準備・業務・分析・立約
第5回	1月12日(木)	経営承継の準備・業務・分析・立約
第6回	1月19日(木)	経営承継の準備・業務・分析・立約
第7回	1月26日(木)	今こそ、事業承継の準備 事業承継の準備(2)
第8回	2月2日(木)	事業承継の準備・業務・分析・立約
第9回	2月9日(木)	事業承継の準備・業務・分析・立約 事業承継の準備・業務・分析・立約

**平成27年度Ⅱ期(12月7日～2月15日全5回)**  
**ものづくりマネジメント講座**

**講座概要**

平成25年度から長岡市が「良質なものづくり現場改善インストラクター養成スクール」を開講しています。このスクールは、長岡大学の藤本隆彦准教授が研究開発した生産マネジメント理論に基づき現場改善・生産性向上の指導者養成の学校です。本学はこのスクールの充実・拡大がグローバル競争下での長岡地域の企業・産業競争力向上に不可欠と考え、このスクールへの参加講座として、「第3期ものづくりマネジメント講座」を開講することとしました。

**開催概要** 現場改善担当者、技術者・管理者、後継経営者、コーディネーターほか

**受講人員** 20名(先着順)  
※ただし、受講者が20名に満たない場合は、不開講とします。

**期 間** 下記のとおり

**期 間** 18:30～21:00(公開講座は15:00～17:00)

**場 所** 長岡大学(公開講座は学外)  
※場所は公開講座につき、開講時間・会場に注意

**学 費** 30,000円(初回にご参加ください)

**申込方法** 下記のとおり

**申込締切 11月30日(木)**

期 間	講 義 日	テ ー マ	場 所
第1回	12月7日(木)	公開講座「ものづくりと品質管理の基礎」 第1期ものづくりマネジメント講座	新校工研
第2回	12月14日(木)	パフォーマンスと生産性	小松 俊樹
第3回	12月21日(木)	生産性向上と生産性向上の推進 ものづくりと品質管理の基礎	長岡 隆彦
第4回	1月18日(木)	生産性向上と生産性向上の推進 ものづくりと品質管理の基礎	長岡 隆彦
第5回	1月25日(木)	生産性向上と生産性向上の推進 ものづくりと品質管理の基礎	長岡 隆彦
第6回	2月1日(木)	生産性向上と生産性向上の推進 ものづくりと品質管理の基礎	長岡 隆彦
第7回	2月8日(木)	生産性向上と生産性向上の推進 ものづくりと品質管理の基礎	長岡 隆彦
第8回	2月15日(木)	生産性向上と生産性向上の推進 ものづくりと品質管理の基礎	長岡 隆彦

**平成27年度  
イノベーション人材養成講座  
開講のご案内**

インターネット活用講座  10/15～11/19(木)  
 今井達太郎

商品企画講座  10/7～11/25(木)  
 小松俊樹

管理会計講座  12/1～2/9(木)  
 中村大輔

経営承継(後継者)講座  12/8～2/9(木)  
 小松俊樹

ものづくりマネジメント講座  12/7～2/15(木)  
 新校工研 他

**申込方法・お問い合わせ先**

電話 FAX e-mail ホームページは下記をご覧ください。  
FAXでの申込の場合は、申込の申込書に記入し、次のFAX番号に送付してください。

FAX: 0258-39-9566 TEL: 0258-39-1600(内)  
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/>  
e-mail: [chiken@nagaokauniv.ac.jp](mailto:chiken@nagaokauniv.ac.jp)

T040-0827 長岡市藤井町00-0  
長岡大学地域連携研究センター 211 長岡 隆彦 山口

長岡大学の進学の期待  
幅広い職業人としてのふくりに長岡大学教育の推進  
地域社会に貢献し、育む人材の養成

平成27年8月  
**長岡大学**

長岡大学は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業:平成25～29年度)に採択された「長岡地域創造人材育成プログラム」を展開しています。



長岡大学

平成 25~29 年度  
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



地(知)の拠点

## 平成 27 年度 I 期 (10 月~11 月) 長岡大学イノベーション人材養成講座 インターネット活用講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：アベノミクスで日本経済は上向いてきたと言われますが、グローバル経済化・人口減少傾向など企業環境は、厳しくなっています。企業の新商品・サービスの開発、その販売方法の開発=イノベーションが問われています。本講座では、インターネットを活用し、売る仕組みをどのように構築していくかの基礎知識とスキルを習得するとともに、自社のネット活用の戦略立案ができるようになることを目的とします。

★受講対象者：会社経営者、営業・販売担当者、ホームページ担当者

★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：今井 進太郎(グローバルマーケティング株式会社 代表取締役)

★時間：18:30~21:00 ★会場：長岡大学教室

★受講料：30,000円(初回にご持参ください)

\*裏面の<長岡市米百俵財団研修助成制度のご案内>をご覧ください

★シラバス

	開講日	テーマ	講師
第1回	10月1日(木)	売れる仕組みづくりの中のネット活用	今井 進太郎
第2回	10月8日(木)	効果的なホームページの構築方法	今井 進太郎
第3回	10月15日(木)	検索エンジン対策 検索エンジン連動型広告(リスティング広告)	今井 進太郎
第4回	10月22日(木)	アクセス分析	今井 進太郎
第5回	10月29日(木)	ソーシャルメディア活用【ブログ】	今井 進太郎
第6回	11月5日(木)	ソーシャルメディア活用【Facebook】	今井 進太郎
第7回	11月12日(木)	ソーシャルメディア活用【YouTube 他】	今井 進太郎
第8回	11月19日(木)	ネット活用の戦略マップ作成	今井 進太郎

### ◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、  
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

FAX : 0258-39-9566

TEL : 0258-39-1600 (代)

<http://www.nagaokauniv.ac.jp/chiken/>

e-mail [chiken@nagaokauniv.ac.jp](mailto:chiken@nagaokauniv.ac.jp)

長岡大学地域連携研究センター

担当：山田、南雲

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

締め切り 平成 27 年 9 月 24 日 (木)

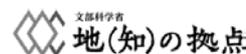
氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



長岡大学

平成 25~29 年度  
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



地(知)の拠点

平成 27 年度 I 期 (10 月~11 月) 長岡大学イノベーション人材養成講座  
商品企画講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨：アベノミクスで日本経済は上向いてきたと言われますが、グローバル経済化・人口減少傾向など企業環境は、厳しくなっています。企業の新商品・サービスの開発、その販売方法の開発=イノベーションが問われています。商品企画はどんな企業でも極めて重要な機能です。本講座では、ヒット商品・人気サービスが出にくい千三つ(1000品目の新商品で3つ当たれば良い方)と言われる時代に、どのようにして顧客の支持を得られる商品を企画するか、その技法を提示します。また、アウトプットとして具体的な商品企画の立案とブラッシュアップを行います。

★受講対象者：会社経営者、商品企画担当者、営業・販売担当者

★募集人員：20名(先着順) ※ただし、受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。

★講師：小松 俊樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)

★時間：18:30~21:00 ★会場：長岡大学教室

★受講料：30,000円(初回にご持参ください)

\*裏面の<長岡市米百俵財団研修助成制度のご案内>をご覧ください

★シラバス

	開講日	テーマ	講師
第1回	10月7日(水)	消費財マーケティングと商品企画	小松 俊樹
第2回	10月14日(水)	生産財マーケティングと製品開発	小松 俊樹
第3回	10月21日(水)	データの収集・蓄積・分析	小松 俊樹
第4回	10月28日(水)	顧客のホンネに迫る	小松 俊樹
第5回	11月4日(水)	コンセプトの設定	小松 俊樹
第6回	11月11日(水)	商品・サービス、提供方法の定義 競合商品分析	小松 俊樹
第7回	11月18日(水)	ポジショニングの技法 新商品の販売促進計画作り	小松 俊樹
第8回	11月25日(水)	商品企画の評価法、フロー、工程管理 成果発表	小松 俊樹

◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、  
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>

FAX : 0258-39-9566

TEL : 0258-39-1600 (代)

http://www.nagaokauniv.ac.jp/chicken/

e-mail chicken@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学地域連携研究センター

担当：山田、南雲

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

締め切り 平成27年9月30日(水)

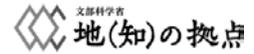
氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。





平成25~29年度  
「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 文部科学省採択  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



## 平成27年度Ⅱ期(12月~2月)長岡大学イノベーション人材養成講座 ものづくりマネジメント(生産性向上)講座・募集要項

長岡大学地域連携研究センター

★講座趣旨:長岡大学は、「ものづくりマネジメント講座」を毎年開講してきました。平成25年度から長岡市が「長岡ものづくり現場改善インストラクター養成スクール」を開講しています。このスクールは、東京大学の藤本隆宏教授が研究開発した生産マネジメント理論に基づく現場改善=生産性向上の指導者養成の学校です。本学はこのスクールの充実・拡大がグローバル競争下での長岡地域の企業・産業競争力向上に不可欠と考え、このスクールへの接続講座として、「第2期ものづくりマネジメント講座」を開講することとしました。講師は、藤本教授がセンター長を努める東京大学ものづくり経営研究センターMMRC(Manufacturing Management Research Center)認定の<ものづくりインストラクター>=長岡スクール講師陣と、長岡大学の教授陣で構成します。当講座を修了して、長岡スクールで学び、ものづくりインストラクターになろう!

★募集人数:20名(先着順) ※受講者3名未満の場合は、公開講座のみ開催します。

★講師陣:新宅純二郎(東京大学大学院経済学研究科教授/東京大学MMRCセンター運営委員)、池田達夫(東京大学MMRCものづくりインストラクター/長岡スクール主任講師)、国谷晃雄(東京大学MMRCものづくりインストラクター/元キャノン)、堀井求(東京大学MMRCものづくりインストラクター/元キャノン)、岸保行(新潟大学経済学部准教授)、小松敏樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)、中村大輔(長岡大学准教授)

★受講対象者:現場改善担当者・技術者・管理者、後継経営者、経営者、コーディネーター、ものづくりインストラクター・ファシリテーター志望者。

★受講料:30,000円(第1回公開講座は無料) ※裏面の<長岡市研修助成制度のご案内>をご覧ください。

★時間:18:30~21:00(ただし、第1回公開講座は、15:00~17:00)

★会場:長岡大学(ただし、第1回公開講座はホテルニューオータニ長岡)

★シラバス

★講座コーディネーター:原田誠司

	開講日	テーマ	講師
第1回	12月7日(月) 15:00~17:00	公開講座:ものづくりとビジネスモデルの再構築Ⅱ 於:ホテルニューオータニ長岡	新宅純二郎
第2回	12月14日(月)	バリューチェーンと生産現場	小松俊樹
第3回	12月21日(月)	企業競争力と生産現場-藤本理論とは- 「ものづくり」に於ける企業競争力と生産性	池田達夫
第4回	1月18日(月)	生産管理と方針管理-現場改善の考え方-	国谷晃雄
第5回	1月25日(月)	現場改善と人材活用の考え方	岸保行
第6回	2月1日(月)	納期・工程・在庫管理・品質管理	堀井求
第7回	2月8日(月)	生産現場の改善と管理会計	中村大輔
第8回	2月15日(月)	課題発表とコメント	小松/原田/池田

### ◆申込方法◆

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。  
FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、  
右記のFAX番号に送信してください。

<申込先>  
**FAX: 0258-39-9566**  
**TEL: 0258-39-1600 (代)**  
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>  
 e-mail jinzai@nagaokauniv.ac.jp  
 長岡大学地域連携研究センター担当: 山田、南雲

締め切り 平成27年11月30日(月)

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		FAX	
e-mail			

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。



学校法人 中越学園  
**長岡大学**

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)  
長岡地域<創造人材>養成プログラム



文部科学省  
**地(知)の拠点**

平成27年度Ⅱ期(12月~2月) 長岡大学イノベーション人材養成講座  
**ものづくりマネジメント 公開講座**

# ものづくりと ビジネスモデルの再構築

講師：新宅 純二郎 氏 (東京大学大学院経済学研究科教授)

平成27年度イノベーション人材養成講座の第Ⅱ期講座として <ものづくりマネジメント講座>を開講します。第1回講座は公開講座とし、東京大学大学院経済学研究科教授・新宅純二郎氏を講師にお迎えします。特に経営者、技術者、コーディネーター、産業振興関係者の方々にとって必ずご参考になると考えます。幅広く皆様方のご参加をお待ちしています。

- 日時
平成27年 **12/7**月 15:00~17:00
- 会場
ホテルニューオータニ長岡「桜の間」
- 定員
**100名** 受講料無料

**【新宅 純二郎氏の略歴】**

東京大学大学院経済学研究科教授、同大学ものづくり経営研究センター研究ディレクター。国際ビジネス研究会副会長。組織学会理事。NPO法人グローバルビジネスリサーチセンター常任理事。(社)モバイル・コンテンツ・フォーラム顧問。  
東京大学経済学部卒業、同大学大学院経済学研究科博士課程修了。学習院大学経済学部助教授、東京大学大学院経済学研究科准教授を経て現職。



■主催 **長岡大学地域連携研究センター**

■後援 長岡市、長岡商工会議所、公益財団法人にいがた産業創造機構、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

**お申し込み方法**

電話・FAX・e-mail・ホームページでお申込下さい。FAXでのお申込の場合は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信して下さい。

**FAX:0258-39-9566** 申込締切 平成27年12月3日(木)

〈お問合せ・お申込先〉

長岡大学地域連携研究センター 担当:南雲  
〒940-0828 長岡市御山町80-8  
**TEL:0258-39-1600**(代)  
**TEL:0258-39-1903**(直通)  
<http://www.nagaokauniv.ac.jp>  
e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

氏名		所属等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	

※ご登録いただいた個人情報、本学規定に従って厳正に管理します。

## 15 起業人材養成セミナーの開催－社会貢献④－

### (1) 方針（申請時）

- ・従来間欠的に開講されたビジネスプラン講座をこえて、市・会議所と連携し、常設の「新・起業家塾」（女性、シニア、ソーシャルビジネス含む）を開講する。
- ・また、これを通して、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を形成する。

### (2) 目標（申請時）

- ・常設のビジネスプラン講座、起業シンポ開催、起業メンターによる日常的起業支援も行き、創業・起業家を輩出する。
- ・平成 25 年度→全体計画策定の上、初級コース（8 週間）を開講。次年度から、初級・上級コース（各 8 週間）を開講する。本学担当教員は 4 名、外部講師 4 名。
- ・平成 29 年度→毎年、5 名程度の創業・起業（女性、シニア含む）をめざす。それを可能にする、長岡市、新潟県、長岡商工会議所、企業、大学・高専、ベンチャーキャピタル等が連携した、起業家を輩出する＜長岡起業家塾＞制度を確立する。
- ・また、小中学・高校生の起業家教育にも取り組む。

### (3) 平成 25 年度実績と評価

- ・1 月～3 月にかけて社会人対象の創業セミナー(全 8 回)を開講した。参加者は 22 名で、各回の平均出席率も 9 割を下回らず好評を得た。また、セミナーと並行するかたちで創業相談(創業支援メンター制度)を実施。3 月末までに 18 件の利用があった。それらの結果、その後に法人設立など、具体的な事業の立ち上げにつながる事例が 2 件あった。
- ・＜長岡起業家塾＞については、2 月に第 1 回運営委員会を開催。事業の趣旨および計画等について説明、次年度に向けて具体的な構想を協議することを申し合わせた。

### (4) 平成 26 年度実績と評価

- ・7 月に「女性のための起業セミナー」（全 5 回、受講者 7 名）、12 月～2 月にかけて「創業セミナー(一般・シニア向け)」（全 8 回、受講者 9 名）を開講。併せて実施した創業支援(メンター制度)を 5 名が活用、のべ 6 回の相談を行った。
- ・上記のセミナーおよび創業支援を経て、2 名の女性が起業し(両者とも個人経営)、その他 5 名が具体的な事業をもって起業を目指している。

### (5) 平成 27 年度方針・目標

#### 【方針】

- ・地域起業人材セミナーの開講・・・創業セミナー（女性、シニア・上級）（各 5 回講座）の開催、創業支援メンター制度の年間展開、地域連携による創業・起業講演会・シンポジウムの開催を行い、起業風土づくりと起業家の輩出（2 件）をめざす。

## 【目標】

- ・受講者数の増員もさりながら、創業支援メンター制度の活用を拡充し、人数ともに更に確実な起業家輩出を目指す。

## (6) 平成 27 年度計画

長岡市の創業・起業促進事業（オリーブ構想）の進展状況を踏まえ、連携を意識して、次のような展開をめざす。

- a 女性のための起業セミナー・・・昨年度を踏まえて、初級レベルのセミナー5回（7月14日～8月11日）とビジネスプラン相談会3回（9月）を開講し、女性起業家の輩出をめざす。
- b 若者ビジネスプラン・セミナー・・・一定の事業アイデアを持った学生・若者を対象にしたビジネスプランづくりセミナーを3回（8月25、9月1日、9月8日）開催し、ビジネスプランを仕上げ、長岡市（若者・しごと機構）のビジネスプラン・コンテストに応募する。
- c シニア・上級クラスの創業セミナー・・・昨年度を踏まえて、シニア・上級クラスの創業セミナー5回（11～12月）とビジネスプラン相談会3回（1月）を開講し、起業家の輩出をめざす。
- d 以上のセミナーを開催するとともに、引き続き創業支援メンター制度を活用した、創業・起業の促進を図る。
- e また、地域における起業風土の醸成をめざした創業・起業講演会やシンポジウムなどの開催も検討する。

## (7) 展開

- ・広報・・・広報については、企業人セミナーの項で述べたとおり、多様な広報の仕組みを活用した。
- ・創業・起業の2つのセミナーの概要は次の通りである。
  - ★女性のための起業セミナー・・・ \*図表5-15-1を参照  
期間：7月14日～8月7日（全5回）  
講師：小松俊樹、山田康博、今井信太郎、高橋真由美、平田希望美  
受講者：8名（長岡市・見附市内から）
  - ★創業セミナー（一般・シニア向けコース）・・・ \*図表5-15-2を参照  
期間：12月9日～2月17日（全8回）  
講師：小松俊樹、今井信太郎、日本政策金融公庫  
受講者：3名
- ・創業相談・・・平成27年度の創業支援メンターを活用した創業相談は、前期が2名2回、後期は1名2回の実施にとどまった。 \*図表5-15-3を参照

## (8) まとめー成果と課題ー

- ・夏季の「女性のための起業セミナー」は受講生も多く、出席率も高水準を維持した。今年か

ら開催された長岡市「ながおか仕事創造アイデア・コンテスト〈ながおかアイ・コン〉」へ受講者が応募するものも散見された。

- 2つのセミナーの平均出席率は80%程度で、まずまずの好評を得た。
- 平成25年度から今年27年度まで、10名が創業(うち3名が共同経営)を果たし、その他4名が具体的な事業計画のもと創業を目指して取り組んでいる。
- 後期の受講生確保が課題である。冬季にかかるためとも思われるが、講座内容、実施時期、実施回数、実施時間について、ヒアリング及びアンケート調査を行い、その結果に基づき内容を見直す。また、広報計画についても、従来の送付先の拡大、媒体の見直しを行う。

# 女性のための起業セミナー

『私らしく生きる!』 - そんなあなたを長岡大学が応援します。

長岡大学では「長岡地域<創造人材>養成プログラム」事業の1つとして、長岡市の地方創生事業「オリープ構想」との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。平成 27 年度は、第一弾として下記の通り女性対象のコース(5回シリーズ)を開講いたします。今後、シニア世代を中心とした一般対象コースや上級コースも予定しています。

★募集対象：起業を予定している女性、および起業後3年以内の女性

★募集人員：10名(先着順) ★時間：18:30~20:30 ★会場：長岡大学 ★受講料：無料

★講師陣：小松 俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)

今井 進太郎(グローバルマーケティング株式会社代表取締役/中小企業診断士)

山田 康博(山田会計事務所/税理士)ほか <順不同>

## ★講座シラバス

	開講日	テーマ(予定)	講師
第1回	7月14日(火)	オリエンテーション/自己紹介/事業のアイデア発想	小松 俊樹
		先輩起業家体験談「私はこうしてスタートした」①	高橋 真由美
第2回	7月21日(火)	魅力ある事業計画の作り方	小松 俊樹
第3回	7月28日(火)	創業財務 ポイントはこれだけ	山田 康博
第4回	8月4日(火)	創業に効くネット活用法	今井 進太郎
第5回	8月7日(金)	先輩起業家体験談「私はこうしてスタートした」②	平田 希美
		成果発表	小松 俊樹

### 【ビジネスプラン相談会】

具体的なビジネスプランをもとに、創業実現に向けて講師陣が個別に相談に応じます。受講された方は、どなたでも参加できます。(参加費は無料です)

\*セミナー終了後、9月に3回(予定)開催。

\*日時は参加希望者と相談の上、決定します。



主催：長岡大学地域連携研究センター 共催：長岡市  
後援：長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

### ◆お申込み方法◆

e-mailまたは電話でお申込みください。ホームページからでもお申込みできます。

(ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従い厳正に管理します。)

【締め切り：平成 27 年 7 月 13 日(月)】

お申込み・お問合せ / 長岡大学地域連携研究センター(長岡市御山町80-8) 担当 南雲

☎ 0258-39-1600(代) 内線318、FAX 0258-33-8792

e-mail : nagumo@nagaokauniv.ac.jp

平成 27 年度長岡大学地（知）の拠点整備事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

## 創業セミナーのご案内

〔 一般 ・ シニア向けコース 〕

長岡大学地域連携研究センター

長岡大学では「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」事業の 1 つとして、長岡市の地方創生事業「オリーブ構想」との連携のもとで起業人材養成セミナーを開講しています。併せて創業・起業支援メンターによる日常的支援も行い、確実な創業・起業家輩出の一翼を担いたいと考えています。今年度も一般・シニア向けコースとして下記の通り開講します。創業支援メンター制度については、裏面をご覧ください。

★募集対象：創業・起業に関心のある方。性別および年齢は問いません。

★募集人員：20 名（先着順） ★時 間：18：30～20：30 ★会 場：長岡大学 ★受 講 料：無料

★講 師 陣：小松 俊樹（長岡大学教授／中小企業診断士）

今井 進太郎（グローバルマーケティング株式会社取締役／中小企業診断士）

山田 康博（山田会計事務所／税理士）ほか <順不同>

★講座シラバス

	開 講 日	テ ー マ	講 師
第 1 回	12 月 9 日（水）	創業・起業 成功のポイント・創業計画シートの説明／自己紹介	小松 俊樹
第 2 回	12 月 16 日（水）	実践！売れる仕組みの作り方 1	小松 俊樹
第 3 回	1 月 13 日（水）	実践売れる仕組みの作り方 2	小松 俊樹
第 4 回	1 月 20 日（水）	創業財務と諸手続き	山田 康博
第 5 回	1 月 27 日（水）	創業に良く効くネット活用 1	今井 進太郎
第 6 回	2 月 3 日（水）	創業に良く効くネット活用 2	今井 進太郎
第 7 回	2 月 10 日（水）	資金調達のポイント／創業体験談	日本政策金融公庫ほか
第 8 回	2 月 17 日（水）	成果発表／開業プロモーション計画	小松 俊樹

### 【ビジネスプラン相談会】

具体的なビジネスプランをもとに、創業実現に向けて講師陣が個別に相談に応じます。受講された方は、どなたでも参加できます。（参加費は無料です）

\*セミナー終了後に 3 回程度（予定）開催。

\*日時は参加希望者と相談の上、決定します。



主催：長岡大学地域連携研究センター

後援：長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE、公益財団法人にいがた産業創造機構

### ◆お申込み方法◆

e-mailまたは電話でお申込みください。ホームページからでもお申込みできます。

（ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従い厳正に管理します。）

【締め切り：平成 27 年 12 月 7 日（月）】

お問合せ / 長岡大学地域連携研究センター（長岡市御山町 80-8） 担当：南雲

☎ 0258-39-1600(代)、e-mail：nagumo@nagaokauniv.ac.jp

http://www.nagaokauniv.ac.jp

## 平成27年度 創業支援メンター活用のご案内

長岡大学地域連携研究センター

### ★趣旨—<長岡地域起業家塾>をめざして—

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」=大学COC事業に採択されました。このプログラムは課題解決や価値創造を担う専門人材=創造人材の育成により地域再生・活性化をめざすものです。

このプログラムの事業として、長岡地域で創業・起業を盛んにする<長岡地域起業家塾>の形成を計画しています。この起業家塾では、**創業セミナー**の開催とともに、**創業、起業前・後の経営等相談**ができる<創業支援メンター>制度(\*)を設けます。大いに活用してください。

(\*)メンターとは、様々な経営等の課題解決に助言・支援する専門家のこと。

### ★制度・仕組み

1. 流れ	①電話またはメールで申し込む ②メンターと日程調整 ③相談者に連絡 ④相談実施
2. 相談料	初回は無料。その後は応相談。
3. 相談申込	下記「ご連絡先」あて。
4. 申込時間	毎週月～金曜日の午前10時から午後4時(電話の場合)。
5. 申込事項	①相談事項 ②希望相談日時 ③相談者の連絡先(住所、電話番号など) ※申し込まれた方に「相談シート」をメールでお送りします。

- ・メンター：小松 俊樹 (長岡大学教授/中小企業診断士)  
今井進太郎 (グローバルマーケティング 株式会社取締役/中小企業診断士)  
山田 康博 (山田会計事務所/税理士)

★ご連絡先 〒940-0828 長岡市御山町80-8  
長岡大学地域連携研究センター 担当：南雲  
TEL 0258-39-1903(直通) e-mail [nagumo@nagaokauniv.ac.jp](mailto:nagumo@nagaokauniv.ac.jp)



## VI <全体>における事業展開

### 16 推進体制の整備－全体①－

#### (1) 平成 25 年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、薦めることができた。
- ・FD活動・・・平成 25 年度は以下の通り合計 5 回の FD 活動（うち、2 回は集中 FD 研究会）を行った。

#### <平成25年>

4月1日 教授会報告「長岡大学 FD 基本ポリシー」

8月21日 集中 FD・SD 研究会

1. 学生の就職力向上への日常的指導
2. 中途退学者を減らすための仕組みの点検と改善について

9月18日 COC 事業推進のための FD・SD 会議

10月30日 COC 事業推進のための FD・SD 会議

「長岡市の地域課題について」（講演および質疑応答）

講師：長岡市市長政策室政策企画課課長補佐 上村建史 氏

#### <平成26年>

3月12日 集中 FD・SD 研究会

1. 『効果的なホームページの作り方』（講演および質疑応答）

講師：グローバルマーケティング代表取締役 今井進太郎 氏

2. 学生 FD サミット2014春 参加報告（報告および質疑応答）

3. 平成26年度 COC 方針、予算、調書について

ほか

#### (2) 平成 26 年度実績と評価

- ・設備等推進体制づくりは計画通り、進めることができた。
- ・FD活動・・・平成 26 年度は以下の通り、合計 5 回の FD 研究会（うち、2 回は集中 FD 研究会）を行った。

#### <平成 26 年>

6月25日 FD 研究会

「長岡大学経済経営学部経済経営学科設置届出書」（説明および質疑応答）

講師：鯉江康正教授

8月27日 集中 FD/SD 研究会

「理想の大学教育をデザインするワークショップ」（講演および質疑応答）

講師：上智大学経済学部教授 川西諭 氏

11月5日 FD/SD 研究会

「産学連携によるインターンシップ等教育改善について

－新潟大学農学部を取り組みを中心に－」（講演および質疑応答）

講師：新潟大学農学部教授/キャリアジム運営副センター長 箕口秀夫 氏

：新潟大学農学部キャリアジム運営センターコーディネーター 古俣清勝 氏

11月26日 FD研究会

「公的研究費に関するコンプライアンスについて」(説明および質疑応答)

講師：三浦康弘総務課長

<平成27年>

3月11日 集中FD研究会

「PROGテストおよびテスト結果の解説について」(説明および質疑応答)

講師：株式会社リアセック 谷川雅之氏

- ・視察、研修(FD・SD)・・・大学視察とセミナー、フォーラム等へ参加することで当面する課題への対応と先進事例の学習に取り組んだ。

<平成26年>

5月23日 第10回大学トップセミナー(SD) 職員1名参加

7月31日 金沢工業大学視察(FD・SD) 教員1名、職員2名参加

9月13日 岡山大学学生FDイベント「i\*See2014」(FD) 教員1名、学生2名参加

10月18日 京都産業大学視察(SD) 職員2名参加

10月19日 京都SDフォーラム(SD) 職員2名参加

<平成27年>

2月28日 京都コンソーシアム主催FDフォーラム(FD) 教員3名参加

3月17日 松本大学視察(FD・SD) 教員1名、職員4名参加

- ・SD全体会・・・全職員対象に大学における諸問題について研修等を3回行った。

<平成26年>

7月30日 「大学の方針・理念について」

11月28日 「学生指導、大学運営について(グループワーク)」

<平成27年>

2月27日 「留学生の就職について」

講師：南行政書士事務所所長/行政書士 南直人氏(講演および質疑応答)

- ・スタッフ会議・・・若手職員を選出して事務局内および大学内全体を視野に入れて解決すべきと思われる問題を話し合った。
- ・地(知)の拠点整備事業シンポジウム

<平成27年>

2月27日 「地(知)の拠点整備事業シンポジウム～COC全国ネットワーク化事業～

“地(知)の拠点整備から地域創生へ” 教員3名参加

### (3) 平成27年度方針・目標

#### 【方針】

- ・地(知)の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実・・・COC運営事務局会議(週1回)、同会議通信の全教職員への配信(週1回)、COC推進本部会議(月1回)の開催による推進体制を継続し、事業の円滑な推進を行う。地域連携研究センターの3部会(市民講座、調査研究、地域連携。月1回開催)活動も充実させる。また、教職員のFD/S D活動を通じた事業推進能力の向上を図る。

## 【目標】

方針に基づき、地（知）の拠点整備事業推進本部等推進体制の充実を図る。

- ・FD／SD・・・教職員の事業推進能力を高めるために、教職員協働というコンセプトを掲げ、教職員両者が参加する全体FDを年5回以上開催する。

## （４）平成 27 年度計画

### a 全体FD／SDの実施

全体FD／SD会議では以下の内容を実施する。

- ・PROGの運用方法の学生に対する説明報告と改善点等についての意見交換
- ・PROGの分析結果報告とデータの検討（全体での意見交換）
- ・平成28年度に向けてのPROGの運用方法についての確認と検討
- ・COCプラスの進捗状況報告と意見交換
- ・「アカデミック・アドバイザー制度」の点検と改善について
- ・中退者の原因分析と対策について
- ・授業外学修時間を増やす対策について
- ・ハラスメント防止対策について
- ・公的研究費の適正な管理・運用及び研究活動における不正行為防止について

### b 具体的計画（日程と詳細）

全体FD／SD会議日程（全てFD／SDとの共同会議とする）は次の通り。

- ・6月：PROGの運用方法の学生に対する説明報告と改善点等についての意見交換。  
ハラスメント防止対策について。
  - ・7月：PROGの分析結果報告とデータの検討（全体での意見交換）。
  - ・8月：集中FD／SDとし、「中退者の原因分析と対策について」とそれに伴う  
「アカデミック・アドバイザー制度」の点検と改善について。
  - ・10月：授業外学修時間を増やす対策について。  
公的研究費の適正な管理・運用及び研究活動における不正行為防止について。
  - ・2月：COCの進捗状況報告と意見交換。
  - ・3月：集中FD／SDとし、平成28年度に向けてのPROGの運用方法についての確認と  
検討とする。
- c この他に教職員の個人能力を高めるために、積極的に研修会、講習会、他大学の視察等を実施する。

## （５）平成 27 年度展開

### a 全体FD／SD、SDの開催

- ・第1回全体FD／SD会議（6月24日（水）16:30～17:00）  
★テーマ：ハラスメント防止対策について・・・西俣FD部会長、内藤学長、品川事務局  
局長よりハラスメント規程の修正につき報告あり。
- ・第2回全体FD／SD会議（7月29日（水）16:30～17:45）  
★テーマ1：研究倫理教育・・・村山学部長より、文科省の研究不正防止の考え方につ

き説明がされた。

★テーマ2：PROG運用方法の学生に対する説明報告と改善点等について・・・原田副学長より平成26年度PROG実施のまとめが報告され、具体的活用方を検討することとなった。

・第3回集中FD/SD会議（8月26日（水）13:30～15:40）

★テーマ：中退者の原因分析と対策について・・・講演（講師・NPO法人NEWVERY代表 山本 繁氏）を受け、中退者防止の方策を検討した。

・第1回SD会議（職員全体会）（9月11日（金）15:00～15:40）

★テーマ：大学運営について・・・品川事務局長から、中期計画、大学の目標等、PDCA、5Sなどについて説明あり。全体で討論、認識を深めた。

・第4回全体FD/SD会議（10月28日（水）16:30～18:30）

★テーマ1：授業外学修時間を増やす対策について・・・西俣FD部会長より報告。

★テーマ2：アカデミック・アドバイザー制度について・・・牧野FD部会員より報告。

★テーマ3：アクティブ・ラーニングALについて・・・西俣FD部会長より報告。

★テーマ4：ラーニング・コモンズについて・・・関FD部会員より報告

★テーマ5：昨年度満足度調査報告書について・・・西俣FD部会長より報告

★テーマ6：PROGの活用方法について・・・西俣FD部会長より報告

以上のテーマごとに、討論し、方策を検討した

・第2回SD会議（SD研修報告会）（11月27日（金）16:00～16:40）

★テーマ1：第13回SDフォーラム（大学コンソーシアム京都）研修報告（10/18）について・・・研修テーマ「多様な繋がりを育む大学職員」につき、参加者の事務職員・長谷川、山田健より報告。質疑応答行う。

★テーマ2：第9回大学人サミット信州・まつもとカレッジ2015研修報告（11/7）について・・・テーマ「地域の地域による、地域のための、大学人サミット」の内容について、参加者の事務職員・長谷川、石綿、山田健より報告。質疑応答行う。

## b 研修等

・社会人基礎力育成研修会 in 関東・・・9月9日（水）、於・青山学院大学にて開催された経済産業省関東経済産業局主催「社会人基礎力育成研修会 in 関東」に、事務職員2名（井比、長谷川）が参加した。

・第13回SDフォーラム「多様な繋がりを育む大学職員」・・・大学コンソーシアム京都主催。10月18日（日）、於・キャンパスプラザ京都で開催。参加者は上記の通り。

・第9回大学人サミット信州・まつもとカレッジ2015・・・松本大学主催。11月7～8日（土・日）、於・松本大学で開催。参加者は上記の通り。

・大学・短大トップセミナー「学生の多面的評価を考える」・・・PROGテスト実施機関・リアセック/河合塾主催。11月21日（土）、於・東京国際フォーラムで開催。教員（村山学部長）参加。文科省の教育改革、高大接続、企業人材ニーズの3つの講演と質疑。

・第1回COC+事業コミュニティ・ビジネスセミナー・・・新潟青陵大学主催。平成28年1月29日（金曜日）、於・メディアシップにて開催。事務職員2名（長谷川、石綿）参加。コミュニティビジネスについての講演と質疑が行われた。

- ・2015年度名古屋学院大学COC学生成果報告会・COC事業中間総括フォーラム・・・名古屋学院大学主催。平成28年2月5日（金）、於・名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎で開催。教員3名（原田、米山、中村）、職員（品川）が参加。学生の地学連携の地域活性化事業の成果報告は大いに参考になった。
- ・第2回COC+事業コミュニティ・ビジネスセミナー・・・新潟青陵大学主催。平成28年2月19日（金曜日）、於・メディアシップにて開催。事務職員2名（長谷川、石綿）参加。龍谷大学の「地域公共政策士」の講演と質疑が行われた。
- ・第21回FDフォーラム「大学教育を再考する」・・・大学コンソーシアム京都主催。平成28年3月5～6日、於・京都外国語大学で開催。教員（牧野）と事務職員（本田）が参加。大学教育再考の視点、地域貢献、高大接続等の報告と議論が行われた。

#### （6）まとめー成果と課題ー

まず、FD活動の結果として、学生の能力・資質評価手法であるPROGテストを1～3年生に実施するとともに、学生指導・支援のアカデミック・アドバイザー制度における目標設定に活用する方針を明確にすることができた。今後の活用状況をチェックし、さらなる改善をはかる。

第2に、学生の能力・資質向上手法として、AL、ラーニング・コモンズについて検討し、いずれも具体化する方向を明らかにすることができた。これも、今後の活用とチェック、改善に心がける必要がある。

第3に、今後の課題として、FD、SDの方針化等については、十分な検討ができなかった。次年度には具体化をめざす必要がある。

第4に、松本大学や名古屋学院大学の事例や社会人基礎力の養成・評価など、多様な地（知）の拠点のあり方が見え始めており、今後は、本学のFD、SDの内容をこの地（知）の拠点形成へと結びつける方向でより明確に意識して組み立てる必要がある。

## 17 推進協議会・地域課題調整部会の開催－全体②－

### (1) 平成 25 年度実績と評価

- ・平成 25 年 10 月 23 日に、平成 25 年度地（知）の拠点整備事業推進協議会を開催した。
- ・また、地域課題調整部会（長岡市政策企画課、工業振興課、長岡商工会議所および長岡大学 2 名の計 5 名）は、10 月以降、月 1 回、開催し、日程等の調整を行った。

### (2) 平成 26 年度実績と評価

- ・平成 26 年度の長岡大学地（知）の拠点推進協議会は、平成 25 年度アンケート等 C O C 事業に関する諸書類手続き終了後の平成 26 年 6 月 18 日に開催した。
- ・C O C 事業の進み具合をお知らせする「長岡大学 C O C 通信」（A 4 版 1 枚）を作成し、6 月から、毎月、協議会委員・組織の方々に送付した。
- ・平成 26 年度の地域課題調整部会は、平成 26 年度の毎月月末の月曜日に開催してきた（8 月是不開催なので年間 11 回開催）。学内の推進本部会議での議論をベースに、議論した。
- ・活動の評価（まとめ・課題）・・・推進協議会、地域課題調整部会ともに、計画通り、開催することができた。しかし、長岡市以外の協議会構成組織との連携が拡大・充実したとは言えない状況にあるといわざるを得ない。次年度は、この点の地域連携の拡大・充実をめざす必要がある。

### (3) 平成 27 年度方針・目標

#### 【方針】

- ・地（知）の拠点整備事業推進協議会及び地域課題調整部会の開催・・・推進協議会は年 1 回開催（5 月）する。地域調整部会で本学・連携機関間の日常的な事業内容・スケジュール等の調整を行う（月 1 回）。

#### 【目標】

- ・推進協議会は前期に 1 回、地域課題調整部会は毎月 1 回、それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図る。また、「長岡大学 C O C 通信」を毎月刊行し、タイムリーな C O C 事業の情報提供に努める。

### (4) 平成 27 年度計画

- ・協議会は、6 月中旬に開催する。
- ・地域課題調整部会は、毎月月末の月曜日に開催する。
- ・「長岡大学 C O C 通信」を毎月刊行し、広く情報提供を行う。

### (5) 平成 27 年度展開

- ・推進協議会・・・次の通り開催した。

とき：6 月 25 日（木）16：00～17：00、ところ：長岡大学・第 4 会議室

議題→平成 26 年度地（知）の拠点整備事業報告（「平成 26 年度報告書」、「平成 26 年度実績報告書」、「平成 26 年度フォローアップ（進捗状況）」、「統一指標 C O C アンケート調査結果」、「C O C 大学独自アンケート・全体とりまとめ」）および平成 27 年度事業計

画（「平成 26 年度調書」、「平成 27 年度事業計画」等）。

- ・地域課題調整部会・・・計画通り開催した。

とき：毎月月末の月曜日（4月27日、5月25日、6月29日、7月27日、8月31日、  
9月28日、10月26日、11月30日、12月21日、1月25日、2月29日、3月28  
日）

の16：00～17：00

ところ：長岡商工会議所

- ・「長岡大学COC通信」・・・4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、1月、2月、3  
月の10回、各月中旬に刊行し、関係者・市民に広く情報提供を行った。

#### （6）まとめー成果と課題ー

推進協議会、地域課題調整部会は、計画通り開催することができた。順調であったと言えよう。

今年度は国・自治体による地方創生事業が始まり、地域連携の内容が拡大した。平成28年度から長岡大学も新潟大学のCOC+事業に参加することになり、より地方創生事業としてのCOC事業として展開することが求められる。この推進体制も変更が必要になる可能性もある。

## 18 本事業の広報の充実—全体③—

### (1) 平成 25 年度実績と評価

- ・ 広報については、経費計画にそって、実施することができた。
- ・ しかし、広報体制が未整備のため、十分な広報効果を上げられたとは言えない。次年度はきちんとした広報体制の形成が必要である。

### (2) 平成 26 年度実績と評価

- ・ 平成 26 年度の広報事業としては、次のような事業を行った。  
本学ホームページの更新、本事業広報リーフレット等の作成（事業概要リーフレット、「長岡大学COC通信」、文科省のリーフレット）、本事業案内パネルの作成（地域交流ホール、まちなかキャンパスでの展示等）、広報ブックレット等の刊行（教育ブックレット「資格取得のすすめ」、地域活性化プログラム・10 取組報告書、地域志向教育研究ブックレット・5 テーマ）、新潟県日刊新聞COC事業1面全面広告、地域連携研究センター研究年報の刊行、本COC事業報告書・平成26年度版の刊行などを行った。
- ・ 活動の評価（まとめ・課題）・・・まず、COC2年目を経て、広報の方法がほぼ固まってきたと言えること。諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信（a）、COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行（b）、事業案内パネルの展示（c）、各事業内容ブックレットの発行（d）、センター年報と本事業報告書の刊行（e）、新聞等マスコミ広告（f）に分けてみると、次のように言える。

（a）で、学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。（b）で、月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。（c）は、学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。（d）は各事業の、（e）は事業全体の、それぞれ詳細を知っていただく。最後の（f）は、一般市民に事業を知っていただく。媒体や時期により、こういう広報の組立てができた、と言える。

第2に、（b）のホームページと（c）のパネル展示は、今後一層の充実が必要である。ホームページは情報の受発信の要であり、迅速なアップが必要。

第3に、（f）に対する考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その上で、社会人向け講座などに限定して、広告を検討する必要がある。

第4に、「Eボート試乗会」や「十分杯プロジェクト」などの地域活性化に資する事業が地域社会で高く評価された。こうした方向を今後も追及する必要がある。

### (3) 平成 27 年度方針・目標

#### 【方針】

- ・ 本事業の広報の充実・・・本事業の学生・地域社会等への広報を、諸印刷物等（ホームページ、パネル、リーフレット、ポスター、報告書、研究年報等）、メディアなど多様な方法で充実させ、本事業を広く、認識していただく。

## 【目標】

- ・経費計画にそって、効果的な広報を行う（学生、保護者、地域関係者、企業、市民等にいか  
に本事業を知っていただくか）。

### （４）平成 27 年度計画

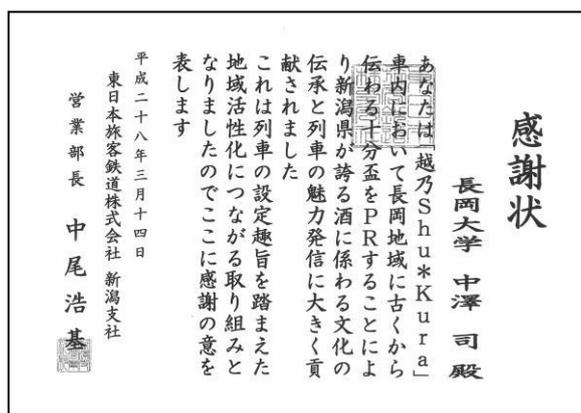
- a 経費計画を踏まえて、次の事業を着実に推進する。
  - ・ホームページの更新 随時
  - ・本事業広報リーフレット発行・・・「長岡大学COC通信」を毎月1回発行、COC事業概  
要リーフレットの発行。
  - ・本事業実績報告パネルの作成（20枚程度）
  - ・まちなかキャンパス長岡での本事業パネルの展示（5～6月）
  - ・地域交流センターにおける本事業パネルの作成と展示（6～9月）
  - ・ブックレットの刊行・・・教育ブックレットとして4種類を刊行。
  - ・地域連携研究センター研究年報「地域連携研究」の刊行（11月）
  - ・地域志向教育研究報告書・ブックレットの刊行（3月）
  - ・本COC事業報告書の刊行（3月）
- b マスメディアによる広報については、本COC事業を記事として掲載していただくことを  
基本に、効果的な新聞広告を検討する。

### （５）平成 27 年度展開

平成 27 年度の広報関係事業は次の通りであった。

- a **本学ホームページの更新**・・・次の 22 頁更新した。教育の取組 2 件（資格取得支援セン  
ター『長岡大学 資格取得のすすめ』掲載、平成 27 年度学生による地域活性化プログラム  
取組概要掲載）、研究の取組 2 件（平成 26 年度地域志向教育研究ブックレット 5 冊掲載、平  
成 27 年度地域志向教育研究）、社会貢献の取組 14 件（悠久山・東山フォーラムとマップ作  
り、長岡大学地域交流会 vol.2「長岡大で七夕まつり」開催、平成 27 年度長岡大学市民公開  
講座一覧、「高齢者のためのスマホ・タブレット入門」、「記紀神話を読む【前編】」、「初級簿  
記講座」、「記紀神話を読む【後編】」、「イノベーション人材養成講座・インターネット活用講  
座」、「イノベーション人材養成講座・商品企画講座」、「平成 27 年度女性のための起業セミ  
ナー」、「平成 27 年度創業支援メンター活用のご案内」、「長岡地域＜創造人材＞養成プログラ  
ム平成 26 年度報告書」、「イノベーション人材講座リーフレット」、「長岡大学ボランティア  
デスク」）、新着情報 4 件（「人口減少問題等に関する全国市区町村アンケート調査」ご協力  
のお願い、【長岡市内 3 大学 1 高専、高校生のみなさん】起業家塾のご案内、ぶらすよし（そ  
の 1 栖吉町）を実施、新潟県大学生ボランティアキックオフミーティングに参加）。
- b **本事業広報リーフレット等の作成**・・・事業概要リーフレットの増刷（補充）、「長岡大学  
COC通信」の発行（平成 27 年 5 月からほぼ毎月 8 回発行。図表 6-18-2、139 頁～  
146 頁参照）を作成し、学内だけでなく、連携自治体、地域諸団体、住民に広報した。

- c 本事業案内パネルの作成・展示・・・また、平成27年5～6月に、「まちなかキャンパス」において、本学COC事業の次のようなパネル展示を行った。A1パネル19枚（平成26年度地域活性化プログラム活動報告パネル×10枚、Eポート体験パネル等）、A4パネル10枚（まちなかの駅パネル）、その他展示物7件（平成26年度COC報告書等印刷物）
- d 広報ブックレット等の作成・・・学生による地域活性化プログラム報告書および各プロジェクトごとの活動報告ブックレット9取組、地域志向教育研究ブックレット2取組を発行した。
- e 地域連携研究センター研究年報の刊行・・・COC事業の調査研究成果を掲載する地域連携研究センター研究年報『地域連携研究』第3号（1,000部）を刊行し、11月20日地域連携研究センター・シンポジウムで配布した。年報目次は、図表6-18-3（147頁）を参照されたい。
- f 本事業報告書の作成・・・『長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム 平成27年度報告書』を平成28年3月末の刊行した（1,000部）。
- g 地域活性化プログラム事業の広報・・・地域活性化プログラムの権ゼミの＜十分杯プロジェクト＞は、前年度に引き続き高く評価され、JR東日本の＜越乃Shu\*Kura＞イベントで＜十分杯＞の説明を引き続き依頼された。その成果が表彰された。



まさに、地方創生・活性化に大いに貢献しており、誠に喜ばしい限りである。

- h 広報の方法・媒体について・・・本学主催の講座等の広報方法について、次のような媒体の計画的活用、市内諸施設への案内チラシ等の配布及び市内各所でのポスター掲示の3つを基本に広報することとし、実施した。

.....  
イノベ講座等広報計画について（メモ）

2015/07/14 COC事業運営事務局

I 原稿・チラシ等広報締切

- ・長岡市広報誌・・・広報誌配布月の前々月末までに申込み  
例：10月号掲載であれば、8月末までに申込み
- ・長岡商工会議所「情報便」・・・配布当月10日までに印刷物（チラシ）を持込、15～16日に対象企業等に配布。費用：奇数月5500部、30,000円。偶数月3300部、20,000円

II イノベ講座・シンポ等

- 1 イノベ人材講座
  - ・10月開始の2講座（IT活用、商品企画）・・・市広報誌→7月末申込み  
情報便→8月10日までに持込、印刷依頼→7月27日
  - ・12月開始の1講座（ものづくりマネジメント）・・・市広報誌→9月末申込み
  - ・12月開始の2講座（管理会計、後継者）・・・市広報誌→9月末申込み  
情報便→10月10日までに持込、印刷依頼→9月28日
- 2 創業セミナー
  - ・12月開始の創業セミナー・・・市広報誌→9月末申込み
- 3 東部地域講演・シンポ
  - ・10月24日悠久祭シンポ・・・市広報誌→8月末申込み  
情報便→9月10日までに持込、印刷依頼→8月24日
- 4 地研・人口問題シンポ
  - ・11月20日人口問題シンポ・・・市広報誌→9月末申込み  
情報便→10月10日までに持込、印刷依頼→9月28日

### Ⅲ 市民公開講座

- 1 初級簿記講座
  - ・初級簿記講座・・・市広報誌→6月末申込み、情報便→8月10日までに持込、印刷→済み
- 2 記紀神話・後編・・・市広報誌→7月末申込み
- 3 渋沢と長岡地域・・・市広報誌→8月末申込み
- 4 メンタルヘルス・・・市広報誌→11月末申込み
- 5 セカンドライフ・・・市広報誌→10月末申込み

\*以上整理すると、図表6-18-1の通り

図表6-18-1 H27秋以降の広報計画一覧

講座等	開始月	市広報誌		情報便		印刷
		刊行月	申込	配布日	持込	依頼
2講座(IT、商品企画)	10月1日	9月号	7月末	8月15・16日	8月10日	7月27日
悠久祭・東部地域シンポ	10月24日	10月号	8月末	9月15・16日	9月10日	8月24日
1講座(ものマネジメント)	12月7日	11月号	9月末			
創業セミナー	12月9日	11月号	9月末			
2講座(管理会計、後継者)	12月1日	11月号	9月末	10月15・16日	10月10日	9月28日
地研・人口問題シンポ	11月20日	11月号	9月末	10月15・16日	10月10日	9月28日
初級簿記講座	9月17日	8月号	6月末	8月15・16日	8月10日	7月27日
記紀神話・後編	10月1日	9月号	7月末			
渋沢と長岡地域	11月10日	10月号	8月末			
メンタルヘルス	1月29日	1月号	11月末			
セカンドライフ	2月4日	12月号	10月末			

.....

## (5) まとめ—成果と課題—

まず第1に、COC3年目を経て、本COC事業に関する広報の方法がさらに充実してきたと言えること。「イノベ講座等広報計画について(メモ)」に明らかのように、既存の広報媒体を有効に活用することにより、集客力を高める工夫がなされている。当然、この広報時期に合わせて、案内チラシ等を作成する必要がある。今後、さらにつめる必要があろう。

第2に、広報の分野・性格が次の7つにかたまってきたおり、その評価が必要なこと。

- (a) 諸事業や諸情報の送付等でのCOCリーフレットでの発信・・・学生、保護者、連携企業・機関、市民・住民などすべての大学関係者にCOC事業の概要を知っていただく。
- (b) COC事業予定の本学ホームページへの掲載と長岡大学COC通信の発行・・・月々、随時の事業を学生、保護者、連携企業・機関の大学関係者に知っていただく。
- (c) 事業案内パネルの展示・・・学内やまちなかキャンパスなどへの学内外の訪問者に主な事業内容を知っていただく。
- (d) 各事業内容ブックレットの発行・・・各事業の詳細を知っていただく。
- (e) センター年報と本事業報告書の刊行・・・事業全体の詳細を知っていただく。
- (f) 新聞等マスコミ広告・・・一般市民に事業を知っていただく。

今年度の上記の活動をみると、(c)、(d)、(f)は必ずしも十分とは言えない結果であったと言わざるをえない。

第3に、(f)についてはより考え方を明確にする必要がある。マスコミ、特に新聞掲載については、記事として掲載されるように事業をブラッシュアップすることを第1に心がける。その意味では、<十分杯プロジェクト>が地域社会で評価され、地域の活性化に役立っていることの要因をきちんと把握しなくてはならない。多くのCOC事業をこれにならって、メディアで紹介していただくように充実させることに注力する必要がある。地方創生事業が始まっているので、次年度以降は、より一層こうした地域活性化に資する事業展開をめざしたい。

# 長岡大学COC通信 4月号

文部科学省  
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

## 起業家から若者に贈る 進路選びのメッセージ

人材育成  
オリブ塾  
開講!

2月7日(土)、まちなかキャンパス長岡で起業家が若者に進路や仕事選択について語る「人材育成オリブ塾」が開催されました。長岡市と長岡大学が主催し、長岡市出身で20代で起業した清水亮氏による講演と「起業家と話そう、これからの長岡、未来の私たち」と題した討論会を行いました。

清水氏は「長岡の図書館は幅広い分野の本が揃っていて、中学高校時代は元より、会社を立ち上げる際にもよく通った。長岡は自然豊かで大学があり素晴らしい環境。科学技術に強く、奇想天外なことを考え実行するスケールの大きい先人達(河井継之助、小林虎三郎、山本五十六、田中角栄)を輩出してきた地。どんな困難に直面しても立ち上がる不死鳥の精神があることを誇りに思っている。」と熱く語っていました。



### 参加者のコメント

- 大学を卒業してから何かをしようという姿勢ではなく、在学中に何を達成するかが大切だと思った。
- すごく刺激を受けた。失敗をおそれず挑戦し行動したくなった。
- 「心からやりたいものを続けると次につながる。」印象深い言葉だった。

## 進化するインターンシップ 新潟フォーラムに参加しました

3月4日(水)、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで「進化するインターンシップ 新潟フォーラム」が開かれ、県内10大学・短大の学生がインターンシップ(就業体験)やボランティア活動の成果を発表しました。

長岡大学からは「学生による地域活性化プログラム」に取り組んでいる権五景ゼミナールの学生3名が「十分杯で長岡を盛り上げよう」をテーマに発表を行いました。平成26年10月に開催した「十分杯会議」で学生たちが提案した、「JR東日本の観光列車「越乃Shu\*Kura」とのコラボレーション企画が実現したことなどの紹介がありました。

会場の120名余りの参加者からは大きな拍手が送られていました。



左から 人間経営学科2年 小川雄気、環境経済学科2年 中沢裕太、人間経営学科2年 中澤司、指導教員 権五景

## 第2回 悠久山・東山フォーラム開催!

3月7日(土)、長岡大学地域交流ホールで「悠久山東山フォーラム」を開催しました。地域の魅力を再発見し、情報発信を行うため、平成26年度一年間、学生と栖吉地域の方々とマップ作りを進めてきました。地域の記憶を記した「栖吉おもひでマップ」、「悠久山おもひでマップ」、「東山自然体験マップ」がようやく完成しました。フォーラムでは雪国植物園園長の大原久治氏による基調講演や「地域の魅力をどう活かすか」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

悠久山・東山地域は生活に密接に結びついた山があり、環境面でも文化面でも大変恵まれています。これらを有効活用するには理念をしっかりと持ち、愛情を持った住民が自ら活動し、学生が協力していくことが重要であると認識しました。



\*マップご希望の方は下記のお問合せ先までご連絡下さい。

## 平成26年度 地域志向教育研究 成果発表会を開催しました

2月25日(水)、「平成26年度地域志向教育研究成果発表会」を開催しました。発表会では、今年度(平成26年度)採択された8件のテーマについて、各教員が活動内容と成果を発表し、学内・外の参加者からの質疑応答を行いました。活発な議論の中から地域への認識を深めると同時に、今後の新たな課題や活動の方向性も見えてきた有意義な機会となりました。地域志向教育研究成果内容については、報告書の発行を予定しております。



- |   |       |
|---|-------|
| ① 中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作り                               | 権五景   |
| ② 新潟における戦争の記憶                                       | 兒嶋俊郎  |
| ③ 長岡市区域公共施設センターのGISを活用したデータ分析                       | 内藤敏樹  |
| ④ 「ながおかわり街」による中心市街地・店舗活性化の研究                        | 中村大輔  |
| ⑤ 新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点を探るための調査 | 西俣先子  |
| ⑥ 産官学連携の消費者市民教育の実施による大学生の社会参画意識の変容の検証               | 橋本真紀子 |
| ⑦ 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究                       | 松本和明  |
| ⑧ 「買い物支援」を中心とした住民ネットワーク構築の必要性                       | 米山啓久  |

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター

TEL 0258-39-1600(代)

FAX 0258-39-9566

# 長岡大学COC通信 5月号

文部科学省  
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業=大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

## 学生による地域活性化プログラム平成26年度報告書ができました。

学生が地域の中で地域の課題に取り組む「学生による地域活性化プログラム」も8年経ちました。学生たちは自ら企画し活動していく中で、コミュニケーション能力などの社会人基礎力を大きく伸ばしています。平成26年度の10取組の活動をより広く知っていただくために、1冊にまとめた活動報告書の他に、取組ごとの報告書(分冊)も作成いたしました。

長岡大学エントランスホールにて自由配布しています。お問合せは下記までご連絡ください。

活動報告書(合冊)には、10取組全ての活動が掲載されています。

活動報告(分冊)

## 高齢者のための 長岡大学市民公開講座 スマホ・タブレット入門

スマートフォンやタブレットPCといわれる新しい情報端末は、通話や電子メールだけでなく、動画や映画の鑑賞、写真撮影、SNSやブログを使ったコミュニケーション等ができる便利な機器です。しかし使い方を間違えると犯罪に巻き込まれる等の危険性も高く、利用には正しい知識が必要です。

この講座では、スマートフォンやタブレットPCを安全に楽しく利用するための基礎知識を学びます。(全5回)

日程 | 6/1月、6/8月、6/15月、6/22月、6/29月

時間 | 各回 18:30~20:00

講師 | 高橋治道(教授)  
吉川宏之(准教授)



会場 | まちなかキャンパス長岡  
1回目 5階 交流ルーム、2回目以降 3階 302

定員 | 20名(先着順)

受講料 | 5,000円(全5回)※初回にご持参ください。

スマートフォンやタブレットPCをお持ちの方はご持参ください。実際に操作をします。

申込 5月27日(水)までに下記までご連絡ください。

## まちなかキャンパス長岡で 長岡大学のパネル展示をしています

まちなかキャンパス長岡(4階)

PRコーナーで長岡大学の取り組みや学生の活動を紹介しています。長岡大学のある悠久山・東山地域の方々と一緒に



作成した「マップ」や鯉江ゼミナールが作成した新潟県内の「まちの駅」パネルなどを展示しています。

また、「学生による地域活性化プログラム」の各取組ごとの報告書も配布しています。展示は6月末まで。

## めざせ、上級資格！これからのスケジュール

福祉住環境コーディネーター検定 2-3級	▶ 5月26日(火)	試験日 試験7月12日(日)
eco検定(環境社会検定)	▶ 6月9日(火)	試験7月26日(日)
Word/Excel1-3級	▶ 6月10日(水)	試験6月27日(土)
TOEICテスト	▶ 6月15日(月)	試験7月4日(土)
販売士検定3級	▶ 6月15日(月)	試験7月11日(土)

平成27年度の長岡大学COC事業総額が45,439千円で確定しました。地方創生に資するCOC事業として全力で取り組んでいきます。皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

お問合せ・申込先 長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

# 長岡大学COC通信 6月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

文部科学省  
地(知)の拠点

長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

## 長岡市と一緒に地方創生先行事業スタート 仕事創造アイデア・コンテストの 長岡市長記者会見に同席

6月18日(木)、長岡市は「地方創生先行事業を長岡大学とともに『仕事創造に関する若者と子どものアイデア・コンテスト開催』」について記者会見をおこないました。

新たな長岡の魅力づくりや仕事づくりのアイデアを競うコンテストと、仕事の楽しさや難しさを体験して起業の志を育む体験型教育プログラムを実施します。

長岡大学が企画運営事務局となり関係機関と連携しながら取り組むことになりました。記者会見には内藤学長、原田副学長が同席し、この事業の意義等を説明しました。

今後の詳細については、長岡市および大学ホームページでご案内していきます。



## 地域の皆さまと一緒に 「地域交流会 vol.2」 長岡大で七夕まつりのご案内

今回のテーマは「和」です。日本の良さを再確認しましょう。栖吉御神楽会と神谷芸能保存会の皆さまによる伝統芸能を一緒に楽しみましょう。

笹飾りのワークショップもあります。予約は不要です。お気軽にお越し下さい。

日程 | 7月4日(土)

時間 | 13:30～15:30

会場 | 長岡大学3号館1階 地域交流ホール

入場無料  
入退場自由

### ● 伝統芸能ミニコンサート

栖吉町御神楽会(栖吉地域)  
神谷芸能保存会(越路地域)

### ● 小国和紙で笹飾りづくり

伝統の小国和紙を使った短冊に願いごとを書きましょう。できあがった笹飾りはお持ち帰りいただけます。

### ● 安心な野菜の販売

つむぐ庭さんが山間地域の採れた野菜を販売。



## 地域の方と一緒に歩く

第1回 栖吉町

## 「ぶらすよし」を実施しました。

5月26日(火)、大学のある長岡市栖吉地域を歩く「ぶらすよし」を実施しました。学生が地域の方と一緒に巡り、地域の魅力を教えていただくもので、第1回目は栖吉町です。これは長岡大学COC事業の一環で高齢化・人口減少社会における地域活性化の推進を目的としています。

栖吉町の神社・仏閣を中心におよそ2時間、中でも牧野家の墓所は、長岡藩ゆかりの十分杯を研究している学生がとても感動していました。地域の方が、連続と守り継がれてきたものを大切に、次世代へと繋ごうと努力している様子が伺えました。

発見もありました。雪おろし用に取り付けられているはしごの脚が地面に着いていない事や、きれいな用水が目の高さを流れている事など。栖吉の方が当たり前になっていることも地域外の者には新鮮で魅力的である事がたくさんありました。今年度は数回にわたって実施していきます。



## 私らしく生きる！そんなあなたを応援します。

## 女性のための起業セミナー

受講  
無料



- 起業に興味があるけれど、何から始めたらよいかわからない方。
- 起業した事業を軌道にのせて、もっと向上させたい方。(起業後3年以内の女性)

長岡大学では「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」事業の1つとして、長岡市の地方創生事業「オリブ構想」と連携し、起業人材養成セミナーを開講しています。

定員 | 10名限定 先着順 会場 | 長岡大学

対象 | 起業を予定している女性、起業後3年以内の女性

時間 | 18:30～20:30 締切り | 7月13日(月)

講師 | 小松俊樹(長岡大学教授/中小企業診断士)  
今井進太郎(グローバルマーケティング 代表/中小企業診断士)  
山田康博(山田会計事務所/税理士) ほか

1	7月14日(火)	オリエンテーション/自己紹介/事業のアイデア発想 先輩起業家体験談「私はこちらでスタートした」①
2	7月21日(火)	魅力ある事業計画の作り方
3	7月28日(火)	創業財務 ポイントはこれだけ
4	8月 4日(火)	創業に効くネット活用法
5	8月 7日(金)	先輩起業家体験談「私はこちらでスタートした」② 成果発表

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

## 「長岡大学 市民公開講座」のご案内

### 初級簿記講座【日商簿記3級程度】9月17日(木)～11月12日(木)



全15回 時間19:00～21:00  
中村 大輔(長岡大学准教授)

簿記は企業や商店の経営活動をお金の側面から記録するツールであり、全てのビジネスパーソンが身につけておくべきと言っても過言ではありません。本講座は個人商店の簿記(日商簿記3級相当)について学びます。11月15日の日商簿記検定3級にチャレンジしましょう。

定員 20名(先着順) 申込締切 9月4日(金)  
受講料 15,000円 会場 長岡大学  
テキスト 滝沢ななみ「みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記」(第3版)、TAC出版 972円(税込)  
滝沢ななみ「みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記」(第3版)、TAC出版 918円(税込)

講座内容			
1回	9月17日(木)	簿記の基礎	9回 10月20日(火) 試算表
2回	9月24日(木)	商品売買	10回 10月22日(木) 伝票
3回	9月29日(火)	現金預金	11回 10月27日(火) 決算1
4回	10月 1日(木)	手形	12回 10月29日(木) 決算2
5回	10月 6日(火)	有価証券と固定資産	13回 11月 5日(木) 決算3
6回	10月 8日(木)	その他の取引1	14回 11月10日(火) 決算4
7回	10月13日(火)	その他の取引2	15回 11月12日(木) 総まとめ
8回	10月15日(木)	帳簿	

※受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。  
※受講料は初回にご持参ください。  
※テキストを注文される方は、代金を初回にご持参ください。

### ききしんわ 記紀神話を読む【後編】10月1日(木)～11月12日(木)



全5回 時間19:00～20:30  
小川 幸代(長岡大学教授)

古事記(712年成立)や日本書紀(720年成立)は日本文学や日本の歴史を理解するための基本的な文献です。どちらも神代の話から書かれており、それらの神話を総称して「記紀神話」と呼んでいます。両書の神話には違いがあります。本講座では、どのように違うのか、また、違うことにどのような意味があるのかを考えながら、「古事記」と「日本書紀」を読んでいきます。

定員 30名(先着順) 申込締切 9月18日(金)  
受講料 5,000円 会場 長岡大学  
テキスト 中村啓信・菅野雅雄編「日本神話」出版社おうふう 2,376円(税込)

講座内容			
1回	10月 1日(木)	須佐の男の命 蛭と穀物の種 八咫の大蛇 系譜	
2回	10月 15日(木)	大国主の神 ① 菟と鱉 キサ貝比売と給貝比売	
3回	10月 22日(木)	大国主の神 ② 根の堅州国	
4回	10月 29日(木)	大国主の神 ③ 八千矛の神の歌物語	
5回	11月 12日(木)	大国主の神 ④ 少名毘古那の神 御諸の山の神	

## 地域中小企業・行政等の専門・基幹人材の育成 社会人のための「イノベーション人材養成講座」のご案内

※受講者が3名に満たない場合は、不開講とします。  
※受講料は初回にご持参ください。

### インターネット活用講座 ネットを活用した売れるしくみ作りとは



インターネットを活用し、売れるしくみをどのように構築していくかの基礎知識とスキルを習得するとともに、自社のネット活用の戦略立案ができるようになることを目的とします。

開講日時 10月1日(木)～11月19日(木)  
全8回 時間18:30～21:00  
講師 今井 進太郎(グローバルマーケティング㈱ 代表取締役)  
募集人員 20名(先着順) 申込締切 9月24日(木)  
受講料 30,000円 会場 長岡大学  
講座内容  
1回 10月 1日(木) 売れる仕組みづくりの中のネット活用  
2回 10月 8日(木) 効果的なホームページの構築方法  
3回 10月15日(木) 検索エンジン対策、リスティング広告  
4回 10月22日(木) アクセス分析  
5回 10月29日(木) ソーシャルメディア活用【ブログ】  
6回 11月 5日(木) ソーシャルメディア活用【Facebook】  
7回 11月12日(木) ソーシャルメディア活用【YouTube 他】  
8回 11月19日(木) ネット活用の戦略マップ作成

### 商品企画講座 顧客の支持を得られる商品をどう企画するか



ヒット商品・人気サービスが出にくい千三つ(1,000品目の新商品で3つ当たれば良い方)と言われる時代に、どのようにして顧客の支持を得られる商品を企画するか、その技法を提示します。

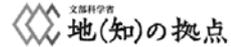
開講日時 10月7日(水)～11月25日(水)  
全8回 時間18:30～21:00  
講師 小松 俊樹(長岡大学教授/経営コンサルタント)  
募集人員 20名(先着順) 申込締切 9月30日(水)  
受講料 30,000円 会場 長岡大学  
講座内容  
1回 10月 7日(水) 消費財マーケティングと商品企画  
2回 10月14日(水) 生産財マーケティングと製品開発  
3回 10月21日(水) データの収集・蓄積・分析  
4回 10月28日(水) 顧客のホンネに迫る  
5回 11月 4日(水) コンセプトの設定  
6回 11月11日(水) 商品・サービス、提供方法の定義、競合商品分析  
7回 11月18日(水) ポジショニングの技法等、新商品の販売促進計画作り  
8回 11月25日(水) 商品企画の評価法等、フロー、工程管理、成果発表

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

# 長岡大学COC通信 9月号

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。



長岡大学の「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」が、平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業＝大学COC事業」に採択されました。長岡市とともに産業活性化、社会課題解決および地域・コミュニティ活性化に取り組んでいます。

悠久祭と同時開催する  
長岡大学COC事業の  
イベントのご案内

10月24日(土)・25日(日)

## 各種展示・イベント

### COC事業活動パネル展示

10:00～17:00 10:00～16:00 214教室

### 地域活性化プログラム活動パネル

10:00～17:00 10:00～16:00 215教室

### まちの駅パネルの展示(鯉江ゼミ)

10:00～17:00 10:00～16:00 216教室

### 第2回十分杯会議(権ゼミ)

13:30～15:30(予定)  
3F 資格取得支援センター内

十分杯も  
展示します

### 十分杯展示(権ゼミ)

10:00～16:00(予定) 222教室



## 来て！見て！聞いて！ボランティア

長岡市内を中心に全国で活躍するボランティアリーダーをコーディネーターにお迎えし、実際に活動する団体の皆様からお話を伺います。どんな活動をしているのか。ボランティアに望むことは何なのか。そのような疑問や不安を解消しましょう。

開講日時 10月24日(土) 10:00～12:00

会場 長岡大学 学生食堂 参加費 無料

### プログラム

#### ボランティアトークセッション

コーディネーター 佐竹 直子氏

NPO 多世代交流館 になニーナ 代表理事  
NPO ながおか市民協働ネットワーク 理事



#### ボランティア見本市

ボランティア団体(10団体程度)が活動を紹介しします。

#### ボランティア一芸講座

ボランティアに参加する際に、コミュニケーションのきっかけ作りに役立つ一芸を身に付けるワークショップをおこないます。

入退場自由  
申込み不要  
お気軽に、  
お越し下さい。

## 地域活性化シンポジウム「長岡市東部地域の活性化に向けて」のご案内

本学教員による講演および雪国植物園園長をはじめとする有識者によるパネルディスカッションをおこない、東部地域のさらなる活性化を図りたいと思います。地域資源のより一層の活用と、新たな魅力の掘り起こしを探ります。

皆様のお越しをお待ちしています。

開講日時 10月24日(土) 13:30～15:30(受付13:00～)

会場 長岡大学 217教室 参加費 無料

申込締切 10月21日(水) ※申し込みは下記までご連絡ください。

プログラム 当日参加も歓迎いたします。



悠久山東山フォーラムの様子(平成26年3月)

### 第1部 講演会

#### 無いものねだりから有ものさがしへ

ー歴史にみる長岡の地域資源の変遷ー

講師 松本 和明 長岡大学教授

■主催 長岡大学地域連携研究センター

■後援 長岡市、長岡商工会議所、  
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

### 第2部 パネルディスカッション

#### 長岡市東部地域の活性化に向けて

パネリスト 大原 久治氏 雪国植物園園長  
(予定) 澤田 正彦氏 (株)エヌ・シー・ティ代表取締役社長  
家老 洋氏 特定非営利活動法人 UNE代表理事  
高野 洋子氏 (株)パートナーズプロジェクト取締役  
米山 宗久 長岡大学准教授  
コーディネーター 松本 和明 長岡大学教授

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター TEL 0258-39-1600(代) FAX 0258-39-9566

## 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 人口減少時代と長岡地域活性化の方向

「人口減少時代と長岡地域活性化の方向—長岡地方創生への視点—」をテーマにシンポジウムを開催します。

パネルディスカッションでは、長岡市地方創生総合戦略を推進している各界の方々を中心にして、今後の長岡地域の活性化方向=地方創生への視点について、討論したいと思えます。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

参加費 無料

日付 平成27年11月20日(金)

時間 14:30～17:00 14時受付開始

会場 長岡グランドホテル 悠久の間



<第1部> 基調報告

人口減少時代と長岡地域活性化の方向 長岡大学教授 鯉江 康正

<第2部> パネルディスカッション

人口減少時代と長岡地域活性化の方向 - 長岡地方創生への視点 -

パネリスト 大森 政尚 氏 大森木工株式会社 代表取締役  
栗原 里奈 氏 「NPO法人思いのほか」代表理事、「移住女子」  
小柳 徹 氏 株式会社北越銀行 コラボリング 営業部副部長  
長谷川和明 氏 長岡商工会議所事務局 次長  
中村 英樹 氏 長岡市長政策室 政策企画課課長 他

お申込み 11月17日(火)までに下記までご連絡ください。

## 長岡大学 市民公開講座 渋沢栄一と長岡地域

「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一は、約500の企業の設立と経営に携わりました。このうち地方の産業・ビジネスの立ち上げを重視し、特に長岡地域をはじめ新潟県とは深い関係をもちました。渋沢が積極的に関与した第六十九国立銀行(現・北越銀行)や北越鉄道(現・JR信越本線)および東山油田での石油業の展開過程とともに、渋沢に薫陶を受けた岸宇吉等の長岡地域の企業家や栃尾地域出身の外山脩造の足跡をたどります。



講師 松本 和明(長岡大学 教授)

毎週 火曜日 19:00～20:30 (定員)20名(先着順)

- 第1回 11月10日 渋沢栄一の生涯と足跡
- 第2回 11月17日 渋沢栄一と外山脩造
- 第3回 11月24日 渋沢栄一と第六十九国立銀行および岸宇吉
- 第4回 12月1日 渋沢栄一と北越鉄道

会場 長岡大学 第5会議室

受講料 4,000円(全4回)※初回にご持参ください。

お申込み 11月2日(月)までに下記までご連絡ください。

現場で悪戦苦闘している社会人の方へ 平成27年度Ⅱ期

## イノベーション人材養成講座

受講料 各講座とも30,000円(全8回) お申込みは下記まで

### 管理会計講座

締切11月24日(火)

生産性向上と会計を結びつけて考える管理会計の具体化のノウハウを教授し、企業間競争で優位に立とうとする企業の支援を目指します。

講師 中村 大輔(長岡大学准教授)

毎週 火曜日 18:30～21:00 (定員)20名 (会場)長岡大学

- 第1回 12月1日 管理会計を学習する意義
- 第2回 12月8日 新しい原価計算
- 第3回 12月15日 競争優位はどこにあるか
- 第4回 1月12日 非会計情報による計画立案技法(1)
- 第5回 1月19日 非会計情報による計画立案技法(2)
- 第6回 1月26日 利益図表の作成と応用
- 第7回 2月2日 新しい間接費の配賦技法
- 第8回 2月9日 活動に着目した原価低減技法

### ものづくりマネジメント講座

締切11月30日(月)

「長岡ものづくり現場改善インストラクター養成スクール」(長岡市)への接続講座として、現場改善=生産性向上の指導者養成と長岡地域の企業・産業競争力向上に寄与することを目標とします。

講師 東京大学MMRCものづくりインストラクター他

毎週 月曜日 18:30～21:00 (定員)20名 (会場)長岡大学

- 第1回 12月7日 ものづくりとビジネスモデルの再構築  
(第1回は公開講座 15:00～17:00 ホテルニューオータニ長岡)
- 第2回 12月14日 バリューチェーンと生産現場
- 第3回 12月21日 企業競争力と生産現場—藤本理論とは
- 第4回 1月18日 生産管理と方針管理—現場改善の考え方
- 第5回 1月25日 現場改善と人材活用の考え方
- 第6回 2月1日 納期・工程・在庫管理・品質管理
- 第7回 2月8日 生産現場の改善と管理会計
- 第8回 2月15日 課題発表とコメント

### 経営継承(後継者)講座

締切12月1日(火)

どうすれば事業・経営の継承、経営者の承継が可能なのか、そのための実践的なノウハウを身につけることを目標とします。

講師 小松 俊樹(長岡大学教授、経営コンサルタント)

毎週 火曜日 18:30～21:00 (定員)20名 (会場)長岡大学

- 第1回 12月8日 今こそ、事業を見直そう 事例 A社の経営資料
- 第2回 12月15日 環境分析の手法
- 第3回 12月22日 経営データの収集・蓄積・分析・活用
- 第4回 1月12日 経営理念・ビジョン・目標、経営戦略
- 第5回 1月19日 経営戦略から経営計画へ
- 第6回 1月26日 今さら人に聞けない、財務の基礎
- 第7回 2月2日 事業承継とBCP(事業継続計画)
- 第8回 2月9日 経営計画策定フォーマットのポイント/成果発表

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター

TEL 0258-39-1600(代)

FAX 0258-39-9566

平成26年度より「長岡大学COC通信」として「長岡大学通信」と一緒に発行しています。

## 学生による地域活性化プログラム成果発表会のご案内 入場無料

9ゼミが取り組みの成果を発表いたします。

日程 平成27年12月5日(土)

時間 13:00～17:00

12:30受付開始

会場 ホテルニューオータニ長岡  
「NCホール」

申込 12月1日(火)までに  
下記へご連絡ください。

- |                                      |         |
|--------------------------------------|---------|
| 1 未来の農業革新II-長岡の食の魅力を伝える観光業への貢献-      | 橋長真紀子ゼミ |
| 2 企業の情報発信とホームページの役割                  | 村山 光博ゼミ |
| 3 地域の魅力発信による絆結び-高橋九郎の活躍を後世につなげる-     | 高橋 治道ゼミ |
| 4 グラスルーツグローバリゼーション-草の根・地域からの地球一体化推進- | 広田 秀樹ゼミ |
| 5 まちの駅の情報発信とおもてなし事例調査                | 鯉江 康正ゼミ |
| 6 「空き家を使った移動販売型買い物支援」の実現に向けて         | 米山 宗久ゼミ |
| 7 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信              | 山川 智子ゼミ |
| 8 地域イベントにおける広報活動の重要性-ながおかバル街を例として-   | 中村 大輔ゼミ |
| 9 十分杯で長岡を盛り上げよう!                     | 権 五景ゼミ  |

## インターンシップ成果発表会を開催しました。

11月18日(水)、「平成27年度長岡大学インターンシップ成果発表会」を開催しました。「インターンシップ」を履修する3年生20名と今年度新設された「現場体験プログラム」を履修する2年生2名が、4月から企業研究、研修課題の設定、研修先との調整に取り組み、夏休み中の10日間の実地研修を経て、その成果を修了レポートにまとめ上げたものです。



発表した学生は、研修を通して得た新しい発見や体験から身についた社会人基礎力、そして今後の課題について堂々と発表していました。学内審査を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名を表彰しました。



- |      |          |               |
|------|----------|---------------|
| 最優秀賞 | 人間経営学科3年 | 中澤 司          |
| 優秀賞  | 人間経営学科3年 | 山田 里津子        |
| 優秀賞  | 人間経営学科3年 | ペレンレイ ポロルエルデネ |

## ボランティアイベント「来て！見て！聞いて！ボランティア」を開催しました。

10月24日(土)の悠久祭(長岡大学祭)1日目にボランティアイベント「来て！見て！聞いて！ボランティア」を開催しました。

長岡市内を中心に市民活動をする9団体が一同に集結し、トークセッションによる意見交換と学生のボランティア参加に向けたマッチング「ボランティア見本市」を行いました。

トークセッションではコーディネーターにNPO法人市民協働ネットワーク長岡理事の佐竹直子氏を迎え、和やかな雰囲気の中で、活動にかかる情熱やきっかけ、喜びや悩みなどを話し合いました。ボランティア見本市では、実際に活動する方々から直接話をお聞きすることができ、今後の参加予定等を確認できました。

全体を通してボランティアの現状や考え方の理解が進み、新しい認識を持って次の活動へつながる会になりました。



## 東部地域活性化シンポジウム「長岡市東部地域の活性化に向けて」を開催しました。

10月24日(土)、東部地域活性化シンポジウム「長岡市東部地域の活性化に向けて」を開催しました。本学教員による講演および雪国植物園園長をはじめとする有識者によるパネルディスカッションを行いました。

地域資源のより一層の活用と、新たな魅力の掘り起こし、東部地域のさらなる活性化の手がかりになるような意見が多く出されました。

参加者の方々が最後まで熱心に聞き入る姿が見られ、充実したシンポジウムとなりました。今後の活性化に向けて年に数回、地域の方々が気楽に立ち寄られるシンポジウムを開催していきたいと考えています。



## 第3回 悠久山・東山フォーラムのご案内

悠久山・東山地区の活性化をめざして、第3回悠久山・東山フォーラムを開催します。

地域活動の情報交換と住民「ひとりひとりができること」をテーマに、地域の魅力をどう活かしていくかを皆様と語り合いたいと思います。

お気軽にお越し下さい。お待ちしております。

日時 2016年 3月5日(土) 13:30～16:30

会場 長岡大学

締切り 3月2日(水) ※申し込みは下記までご連絡ください。  
当日参加も歓迎いたします。

東山フォーラム



長岡大学 市民公開講座

## セカンドライフプランニング講座

今までできなかった夢を実現するために定年後に少し新たな冒険をしてみませんか。

ロングステイや移住生活など、様々な夢を叶えるためにどのような準備が必要なのかを学びます。(全3回)



講師 橋長 真紀子(長岡大学 専任講師)

木曜日 19:00～20:30 定員 20名(先着順)

第1回 2月 4日(木) 夢の具現化、必要金額の資産

第2回 2月18日(木) 現状把握、リタイアメント資金の試算

第3回 2月25日(木) 実行手段の計画立案

会場 まちなかキャンパス長岡 302会議室

受講料+テキスト代 3,400円(全3回) ※初回にご持参ください。

テキスト 日本FP協会「今から始めるリタイアメントプランニング～50代から考えるセカンドライフ～」

お問合せ 下記までご連絡ください。

## インターンシップフォーラム

**長岡** 長岡大学からは村山ゼミが発表します!

インターンシップを通して、学生の主体的な学びの力をつけることを目標として取り組んだ、学生の自己成長と成果を発表します。

日時 2016年 3月10日(木) 13:00～16:00

会場 アオーレ長岡 市民交流ホールA

### ●学生発表

- ・長岡大学 企業の情報発信とホームページの役割
- ・長岡造形大学 藤家具の魅力が次代につなぐために
- ・新潟工科大学 地域企業との産学連携～海外インターンシップ～
- ・新潟産業大学 「大学は美味しい!!フェア」での地域コラボ商品販売
- ・新潟経営大学 燕三条の産業と観光資源

- 産業界より学生発表についての講評
- インターンシップ先進取組事例  
中長期インターンシップ ものつくり大学
- 地域創生と学生・若者の取組み 長岡市の取組み

締切り 3月3日(水) お問合せ・申込は下記まで

平成27年度

本学教員による

## <地域志向教育研究> 成果発表会

本学教員による地域課題解決を目指す<地域志向型教育研究>の平成27年度成果発表会を開催します。

お申込みは2月26日(金)までに下記までご連絡ください。

日時 | 2016年 3月2日(水) 13:30～ 長岡大学教室

発表テーマ	発表者
1 中越地域製造業の企業系譜と技術系譜作りから見えてくるもの(継続)	権 五景
2 新潟における戦争の記憶(継続)	兒嶋俊郎
3 長岡市域の製造業における管理会計システムの普及に関する研究	中村大輔
4 新潟県の中小・地域金融機関による持続可能な社会の形成に向けた金融行動の現状と問題点、県内企業の環境金融活用現状を探るための調査(継続)	西俣先子
5 地域産業界が求める若者人材ニーズ等に関する基礎調査	原田誠司
6 地域企業の経営発展と成長および企業者活動についての研究-北越紀州製紙のケース-(継続)	松本和明
7 地域の「温泉」の特色と魅力、および地域資源としての活用方向	山川智子

お問合せ・申込先

長岡大学 地域連携研究センター

TEL 0258-39-1600(代)

FAX 0258-39-9566

# 地域連携研究 年報

## 地域連携研究 第2号

**特集** 2014長岡大学地域連携研究センターシンポジウム  
**企業競争力を支える<創造人材>の育成へ！－創造人材調査をベースに－**  
 ー主催者の開会ご挨拶ー …………… 長岡大学長／長岡大学地域連携研究センター所長 内藤 敏 樹 2

第1部 基調報告は論稿19～50頁に掲載

第2部 パネルディスカッション  
 「企業競争力を支える<創造人材>の育成へ！－創造人材調査をベースに－」  
 …………… 松原 亨、中村功一、榎 春夫、岸 保行、小松俊樹 3

### 論稿

<平成26年度長岡大学COO事業・調査研究成果>  
 新潟・長岡地域における創造人材の現状と育成の方向 …………… 原 田 誠 司 19

<平成26年度長岡大学COO事業・調査研究成果>  
 田村文吉の足跡と活動 再考  
 ー長岡地域の産業史・企業家史に関する資料(Ⅱ)ー…………… 松 本 和 明 51

<平成26年度長岡大学COO事業・調査研究成果>  
 技術の収斂先としての地域企業  
 ー新潟県中越地域の産業系譜図の作成から見たものー…………… 権 五 景 65

史料紹介『満鉄研究中心資料叢書 満鉄内密文書』…………… 兒 嶋 俊 郎 69

冷戦におけるソ連の国際政治戦略の基幹原則  
 ー国際政治のメガトレンドはいかに形成されるかー…………… 広 田 秀 樹 77

子育て意識の多様化と子育て支援 …………… 米 山 宗 久 83

長岡大学地域連携研究センターご案内 …………… 89

センター日誌 …………… 90

長岡大学地域連携研究センター規程 …………… 91

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」＝大学COC事業（平成25～29年度）  
長岡大学COC事業＝長岡地域＜創造人材＞養成プログラム

## 平成27年度報告書

【発行日】平成28年3月28日

【発行】長岡大学地（知）の拠点整備事業推進本部  
長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

TEL 0258-39-1600（代）

FAX 0258-39-9566

<http://www.nagaokauniv.ac.jp>

長岡大学 「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 長岡地域<創造人材>養成プログラム

平成27年 **10/24日** 13:30~15:30

会場 長岡大学 217教室 **入場無料**

**長岡大学 長岡市東部地域活性化シンポジウム**

**活性化に向けて**

第1部 講演  
「無いものなだりから有るものさがしへ -歴史にみる長岡の地域資源の変遷-」  
講師: 長岡大学教授 松本 和明

第2部 パネルディスカッション  
「長岡市東部地域の活性化に向けて」  
(パネリスト)  
山田平成(市長) 常陸建設業局長 大原 久治 氏  
東工スパン・ティ代表取締役社長 澤田 正彦 氏  
特定政策村営建設法人UPN代表理事 家老 洋 氏  
東パートナーズプロジェクト取締役 高野 洋子 氏  
長岡大学准教授 米山 宗久 氏  
(コーディネーター) 長岡大学教授 松本 和明

主催: 長岡大学地域連携研究センター  
後援: 長岡市、長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会NAZE

申込締切: 平成27年10月21日(水) 当日は悠久祭ですので当日参加も歓迎します。

FAX:0258-39-9566

長岡大学 「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業) 長岡地域<創造人材>養成プログラム

第3回 悠久山・東山フォーラム

「ひとりひとりができること」

参加費 無料

第3回 悠久山・東山フォーラムを開催します。  
平成25年度(第1回)のフォーラムでは、みなさんと悠久山・東山の魅力を再発見し、第2回目のフォーラムでは、地域の方たちと作成した悠久山・東山のマップを基に地域の魅力をどう活かすかディスカッションしました。  
今回のフォーラムでは、地域の方たちがどんな交流をしているか、どのように地域の資源を活かしているか、まつ地区の方が実践例を紹介していただきます。  
「ひとりひとりができること」を一緒に考えてみませんか。

日程: 平成28年 **3月5日(土)** 13:30~16:30

会場: 長岡大学 地域交流ホール

定員: 50名

第1部 事前発表  
精吉地区 吉野 信司 氏 「悠久山の歴史を活かすこと」  
山邊地区 川上 洋一 氏 「子どもに伝える山邊の魅力」  
四郎丸地区 山田 成雄 氏 「赤城コマランドがなぜできたか」

第2部 パネルディスカッションと質問応答  
「ひとりひとりができること」  
精吉地区 吉野 信司 氏  
山邊地区 川上 洋一 氏  
四郎丸地区 山田 成雄 氏  
コーディネーター: 長岡大学准教授 米山 宗久 氏  
司会・進行: 長岡大学准教授 益川 十英 氏  
主催: 長岡大学地域連携研究センター 後援: 長岡市

《お申込方法》  
電話・FAXでお申込下さい。  
申込締切: 3月2日(水)  
当日参加も歓迎です。

《お問合せ・お申込先》  
長岡大学地域連携研究センター 担当: 山田  
TEL:0258-39-1600(代) FAX:0258-39-9566  
〒940-0828 長岡市藤山町80-8  
URL: http://www.nagaokauniv.ac.jp

長岡大学

01 未来の農業革新Ⅱ  
-長岡の未来の農業を伝える観光車への貢献-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

02 企業の情報発信とホームページの役割  
-企業情報発信の重要性とホームページの役割-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

03 地域の魅力発信による絆結び  
-長岡九郎の活躍を後援につなげる-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

04 グラスルーツグローバリゼーション  
-暮らし、地域からの地域活性化推進-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

05 まちの駅の情報発信とおもてなし事例調査  
-まちの駅の情報発信の重要性と事例調査-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

06 「空き家を使った移動販売型買い物支援」の実現に向けて  
-空き家活用による地域活性化の推進-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

07 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信  
-温泉資源の現状分析と情報発信-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

08 地域イベントにおける広報活動の重要性  
-ながおまつ祭を例として-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

09 十分杯で長岡を盛り上げよう!  
-十分杯の魅力を発信する-  
長岡市観光車プロジェクト推進委員会

長岡大学

平成27年度

学生による地域活性化プログラム

活動報告書

長岡大学学生による地域活性化活動の取り組みをまとめた報告書です。

長岡大学学生による地域活性化活動の取り組みをまとめた報告書です。

平成28年3月